

ル電下(二四七〇)

山内 正昭 正四位勳三等、東京商科大学教授

山内 又八 中島屋、漆器商

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍、岐阜縣書記官、警察部長

山内 良太郎 品川土地屋敷取締役、タイル商

山内 亮 從七位、衆議院議員(青森縣選出)

山内 雄太郎 正五位勳四等、姫路高等学校長

山内 又八 愛知縣在籍

山内 元治郎 愛知縣在籍

山内 義文 從五位在籍

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

山内 正昭 正四位勳三等、東京商科大学教授

山内 又八 中島屋、漆器商

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍、岐阜縣書記官、警察部長

山内 良太郎 品川土地屋敷取締役、タイル商

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

ル電下(二四七〇)

山内 正昭 正四位勳三等、東京商科大学教授

山内 又八 中島屋、漆器商

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍、岐阜縣書記官、警察部長

山内 良太郎 品川土地屋敷取締役、タイル商

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

山内 雄太郎 正五位勳四等、姫路高等学校長

山内 又八 愛知縣在籍

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

ル電下(二四七〇)

山内 正昭 正四位勳三等、東京商科大学教授

山内 又八 中島屋、漆器商

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍、岐阜縣書記官、警察部長

山内 良太郎 品川土地屋敷取締役、タイル商

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

山内 雄太郎 正五位勳四等、姫路高等学校長

山内 又八 愛知縣在籍

山内 元治郎 伊藤銀行常任監査役

山内 義文 從五位在籍

山之内 一次 正四位勳一等、錦織間祇候、貴族院議員、鹿兒島縣士族

山浦 護 愛知銀行常務取締役兼大阪支店

山浦 護 愛知銀行常務取締役兼大阪支店

山尾 三郎 正四位勳五等、子爵、武部官、澄

山尾 三郎 正四位勳五等、子爵、武部官、澄

山岡 儀平 廣島縣多額納稅者、山岡銀行専

山岡 儀平 廣島縣多額納稅者、山岡銀行専

山岡 重厚 從五位勳三等功五級、陸軍歩兵大佐、教育總監部第二課長、東京府在籍

山岡 祐章 從五位勳六等、鐵道書記官、經理、局購買第一課長、東京府土族

山岡 千太郎 共同漁業監査役、兵庫縣在籍

山岡 忠吉 長野縣多額納稅者、生絲商

山岡 鐵雄 正五位、子爵、東京府華族

山岡 萬之助 正四位勳三等、法學博士、貴族院議員、日本大學學長、法學部部長

山岡 富作 三越興業部員、東京府在籍

山岡 武 從五位、製鐵所技師、製鋼部第二製鋼課長、長野縣在籍

山岡 誠之助 從五位勳六等、京都帝國大學司書官、長崎縣土族

山岡 武夫 室蘭埠頭倉庫取締役、王子製紙、宮城縣在籍

山岡 要平 鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 倭 美草土地、大阪天王寺土地各社、長土地興業所代表取締役、三菱製

山岡 恒二 鳥取縣多額納稅者、鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 誠一 弘前商工會議所常議員、弘前銀行、青森縣在籍

山岡 武 從五位、製鐵所技師、製鋼部第二製鋼課長、長野縣在籍

山岡 忠吉 長野縣多額納稅者、生絲商

山岡 鐵雄 正五位、子爵、東京府華族

山岡 萬之助 正四位勳三等、法學博士、貴族院議員、日本大學學長、法學部部長

山岡 富作 三越興業部員、東京府在籍

山岡 武 從五位、製鐵所技師、製鋼部第二製鋼課長、長野縣在籍

山岡 誠之助 從五位勳六等、京都帝國大學司書官、長崎縣土族

山岡 武夫 室蘭埠頭倉庫取締役、王子製紙、宮城縣在籍

山岡 要平 鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 倭 美草土地、大阪天王寺土地各社、長土地興業所代表取締役、三菱製

山岡 恒二 鳥取縣多額納稅者、鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 誠一 弘前商工會議所常議員、弘前銀行、青森縣在籍

山岡 誠之助 從五位勳六等、京都帝國大學司書官、長崎縣土族

山岡 武夫 室蘭埠頭倉庫取締役、王子製紙、宮城縣在籍

山岡 武 從五位、製鐵所技師、製鋼部第二製鋼課長、長野縣在籍

山岡 忠吉 長野縣多額納稅者、生絲商

山岡 鐵雄 正五位、子爵、東京府華族

山岡 萬之助 正四位勳三等、法學博士、貴族院議員、日本大學學長、法學部部長

山岡 富作 三越興業部員、東京府在籍

山岡 武 從五位、製鐵所技師、製鋼部第二製鋼課長、長野縣在籍

山岡 誠之助 從五位勳六等、京都帝國大學司書官、長崎縣土族

山岡 武夫 室蘭埠頭倉庫取締役、王子製紙、宮城縣在籍

山岡 要平 鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 倭 美草土地、大阪天王寺土地各社、長土地興業所代表取締役、三菱製

山岡 恒二 鳥取縣多額納稅者、鳥取商工會議所常議員、鳥取縣在籍

山岡 誠一 弘前商工會議所常議員、弘前銀行、青森縣在籍

山岡 誠之助 從五位勳六等、京都帝國大學司書官、長崎縣土族

山岡 武夫 室蘭埠頭倉庫取締役、王子製紙、宮城縣在籍

同社若小牧工場庶務部長にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ(北海道、勇拂、若小牧町王子町三二)

山形 鶴藏

大阪府在籍 家主

養母 タネ 文久二、二生、大阪、稻葉ラク二
妻 イト 明一九、三三、養父武助長女
男 武夫 明四三、一二生

君は大阪府人龜甲喜兵衛の三男にして明治十三年十月を以て生れ先代武助の養子となり昭和二年家督を相続す家主たり家族は尙二男昌男(大二、九生)長女知代(同六、七生)二女登美(同九、二生)妹タマ(明二五、七生)及其一女あり養母サト(同六、一)生は大阪府人栗山善兵衛の母たりA九七四六(大阪、南、順慶町通三ノ四六電船場六六一)
参照 栗山善兵衛の項

山形 晴助

關東燃料採取取締役、大東證券監査役、神奈川ヨコタス印刷支配人兼營業課長、東京府士族

父 龍太郎 文久二、五生、現戸主
妻 廣子 明三〇、二生、東京、酒井仁兵衛
男 高一 大九、一二生

君は東京府士族山形龍太郎の長男にして明治二十四年七月を以て生る現時神奈川ヨコタス印刷支配人兼營業課長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男朋司(大二、四生)長女延子(同一五、二生)三男恭二(昭四、一二生)弟芳吉(明三六、一)生(妹)り(同三三、一〇生)ありA八〇〇(東京、芝、通新町一三電高輪三六六一)

山形 元治

從四位勳三等、第五高等學校教授 熊本縣士族

妻 チジユ 明一七、八生、熊本、士、有田堅藏長女
男 元武 明四四、一五生
女 邦子 大五、一五生

君は熊本縣士族山形元治の長男にして明治十一年一月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し現に第五高等學校教授たり養に醫學研究の爲英米に留學せり家族は尙四女治子

(大一四、二生)弟元重(明一九、五生)同妻フキ(同二四、一五生)熊本、士、有田堅藏(四女)及其子女あり(熊本市井町六九)

山形 要助

從四位勳三等、工學博士、天龍川電力專攻取締役、三信鐵道專攻取締役、栃木縣在籍

妻 サダ 明四三、七生
男 銳一郎 明四三、七生
女 愛子 明四四、七生

君は栃木縣人山形要助左衛門の二男にして明治六年二月を以て生れ同三十年兄八郎兵衛方より分れて一家を創立す同三十一年東京帝國大學工學科大學士工學科を卒業し臺灣總督府土木局長兼同局基隆出張所長同局長等に任ぜられ大正八年工學博士の學位を受く退官後實業界に入り現時前記各會社の重役にして養に大同電力會社顧問に擧げらるる家族は尙二男正二郎(大二、一)生(長女)巳代子(同六、一)生(三男)富三郎(同二〇、三)生(七女)春子(同二〇、三)生(長女)喜代(明三六、五)生(千葉縣人)細矢五郎(二女)照子(同三九、三)生(若手縣人)中野幸之助(三女)孝子(同四一、一)生(東京府人)長尾乾(嫁せり)A一八四一(東京市外護国町金王五七電高輪四〇六六)
参照 京關鐵道の項

山形 良太郎

弘前商工會議所常議員 青森縣在籍

養父 萬吉 文久三、二生、青森、工藤久兵衛五男、現戸主
養母 さわ 慶應元、一五生、青森、八木橋彌作
妻 てる 明一七、八生、青森、山形重次郎
男 隆敏 明三四、四生
女 隆子 明三七、一二生、長男隆敏妻、青森、吹田友太郎(二女)

君は青森縣人竹内喜七の三男にして明治十六年十一月を以て生れ同三十四年現戸主萬吉の養子となる大正十四年弘前市會議員市參事會員に擧げられ現に弘前商工會議所常議員たり家族は尙三男良吉(明四五、三)生(男)清七(大三、一)生(五男)又三(同五、七)生(六男)順造(同七、六)生(七男)彰四郎(同四一、一)生(孫)せつ(同一一)

二四、一五生、法學士)五男五郎(同三〇、一〇生、經濟學士)は各分家し從弟有光(同三六、六)生、男爵船越光之丞(三男)も亦分家し男爵を授けられ叔母たつ(文久三、五)生は伯爵平田榮二の母たり(東京、麹町、富士見町六ノ一四電九段三〇六)

山縣 有光

正五位、男爵、陸軍歩兵中尉、步兵第三聯隊附、山縣公爵家分家

男爵加藤成之、男爵船越光之丞、男爵山縣有光、男爵濱尾四郎、男爵久松定謨、男爵岩倉具明、男爵品川清太郎、男爵内藤信利、男爵前田利功、男爵三井八郎、右衛門加藤晴比古、金子圭介、侯爵一氣中村孫一、侯爵田六郎、馬渡俊雄、侯爵田義一の項

山縣 有光

正五位、男爵、陸軍歩兵中尉、步兵第三聯隊附、山縣公爵家分家

君は男爵船越光之丞の三男にして明治三十六年六月を以て生れ大正六年公爵山縣有光の代有朋の養孫となり同年分れて一家を創立し前名三郎を改む同十一年祖父有朋の勳功に依り特旨を以て華族に列し男爵を授けらる陸軍士官學校を卒業し同十四年陸軍歩兵少尉に任じ昭和三年中尉に陞任し現時歩兵第三聯隊附にして陸軍大學校在學中なり(東京、牛込、市谷加賀町二ノ二船越男爵邸)
参照 公爵山縣有光、男爵船越光之丞、千葉直五郎、男爵平田榮二、男爵竹屋春光の項

山縣 宇之吉

從四位勳四等、農學博士、宇都宮高等農林學校長、東京府在籍

妻 幸 明三三、四生
男 基 明三七、四生
女 百枝 明三九、八生

君は東京府人山縣保兵衛の二男にして明治八年一月を以て生れ同三十四年家督を相続し後前名卯之吉を改む同年東京帝國大學農學部農藝化學科を卒業し農商務省農事試験場技師東京帝國大學助教を歴任し大正十年農藝化學研究の爲英米獨に留學し同十三年農學博士の學位を受け宇都宮高等農林學校教授東京帝國大學助教等を経て昭和四年宇都宮高等農林學校長に任ぜらるる家族は尙三男章三(大二、九)生(四女)喜久枝(同七、一)生(二女)あり長女千枝(明三六、三)生は廣島縣人中島常

太郎五男史朗に嫁し二男秀二(同四二、一)生(は東京府人飯田キミの養子となり弟繁三(同二七、一〇)生)は分家せり(宇都宮市外高等農林學校官舎)

山縣 治郎

從四位勳三等、神奈川縣知事 山口縣在籍

妻 三洲 明二二、一五生、東京、三好重道妹
男 正秀 明四四、一〇生、東京、高橋理科在學
女 光子 大二、一五生、神奈川縣立第一橫濱女高出身

君は山口縣人山縣政吉の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十年家督を相続す明治四十年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同年文官高等試驗に合格し靜岡縣事務官石川神奈川縣同兵庫各縣警務部長を経て大正四年内務省に入り内務監察官内務省參事官等に歷任す同八年歐米各國に於ける戦後地方状況調査の爲歐米各國に出張を命ぜられ戦後後勤任監察官に任ぜられ内務省都市計費局長となり尋で石川廣島兵庫各縣知事を歴て昭和四年神奈川縣知事に任じ現在に至る家族は尙弟吾一(明二〇、七)生(同妻)みよ(同三四、三)生、茨城、菊地清(二女)及其一男一女あり(横濱、中、紅葉ヶ丘官舎電長町一〇〇)
参照 三好重道、子爵加藤隆義、加藤藤一郎の項

山縣 退藏

三菱礦業參事、鐵業研究所員 山口縣在籍

母 トキ 慶應二、九生、山口、中村久
妻 鶴代 明二六、二生、廣島、福原純造三男

君は山口縣人山縣宗一の長男にして明治十九年十一月を以て生れ同三十五年家督を相続す同四十四年東京帝國大學工學科大學探査冶金科を卒業し三菱鐵業會社に入り參事に任じ鐵業研究所所長山縣炭坑新入炭坑副長を経て現時同社鐵業研究所所長たり家族は尙二男高(大四、八)生(三男)豊三(同六、一)生(長女)ミチ(同二一、一)生(弟)尚助(明二六、八)生(山口縣人)梶谷七三郎(長女)ヒデの姉養子となり妹フミ(同三四、六)生(は和歌山縣人)片山誠之に嫁せりA五二九(東京市外大崎町谷山

一一生、長男隆敏長女)同キク(同一四、一〇)生、同二女)同敏郎(昭三、九)生、同長男)あり二男忠誠(明三五、一)生(は青森縣人)川島源吉の養子となり二女たま(同四〇、七)生(は同縣人)鈴木武に三女みち(同四三、九)生(は同縣人)山形誠一(長男)誠平に嫁し大叔父登吉(嘉永四五年)は分家せり(弘前、和徳町九八電六二二)
参照 山形誠一の項

山縣 有道

從四位勳六等、公爵、貴族院議員 侍從兼式部官、東京府華族

妻 隆子 慶應三、九生、男爵加藤成之の叔母
妻 子 明二八、一二生、伯爵前田利男養子
妻 有信 大七、八生

當家は先々代有朋より顯る有朋は舊山口藩士にして風力勤王の義を唱へ奇兵隊の魁首として山縣狂介の名中に喧傳す成辰の役功あり尋で歐洲を視察し歸朝後陸軍中將に陞り陸軍卿に任じ徵兵令を起草し本邦徵兵制度の基礎を定む爾來陸軍内務司司法各大臣參謀本部長等に歴任し内閣總理大臣たる事同又貴族院議員樞密院議長たり日清戰役には陸軍大將を以て第一軍司令官となり偉勳を奏し日露戰役には參謀總長として樞密を掌握し同三十一年元帥府に列す先之同十七年華族に列し伯爵を授けられ同二十八年侯爵に同四十年公爵に陞り正二位に敘し大勳位菊花章頸飾を賜ひ功一叙を授けられ當代の元老軍政の首領たり其後伊三郎は同藩士勝津兼亮の二男にして入りて其後を繼ぐ地方局長同總務長官等に歴任し明治三十九年逓信大臣に擢任せらる尋で貴族院議員に勅選せられ韓國副統帥朝鮮總督府政務總監を経て關東長官となり樞密顧問官に任ず君は其長男にして明治二十一年二月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名辰吉を改め男爵被仰付明治四十五年東京外國語學校獨語科を卒業し獨逸に留學す現に侍從兼式部官にして貴族院議員たり家族は尙長女美枝子(大六、五)生(二女)美智子(同二七、三)生(子)竹屋春光に叔母松子(同一一、八)生(は男爵船越光之丞の孫)弟吉朗(同二六、一)生(は山口縣人)勝津太郎の養子となり叔父朋輔(同二二、七)生(は絶家萩原氏を再興し弟三郎(同

山縣 武夫

正五位勳三等、式部官 東京府在籍

妻 安喜 明二六、一五生、東京、矢代徳太郎
男 悠紀夫 大五、九生

君は舊江州水口藩士山縣三郎の二男にして同正雄の明なり明治十七年二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す夙に海軍に入り海軍大臣秘書官伊國大使館附武官兼參謀に歴任し後宮内大臣秘書官伊國大使館附武官兼參謀に歴任し高松宮同妃兩殿下の御外遊に隨行す現に式部官にして儀式課長たり家族は尙二男誠(大六、一)生(三男)永(同一二、三)生(四男)實(昭四、四)生(は東京、芝、白金臺町一ノ四五電高輪三六〇)
参照 山縣正雄の項

山縣 猛彦

長崎縣多額納稅者、九十九銀行理事、取締役、農業者、長崎縣士族

妻 シマ 明九、六生、長崎、士、村尾震三
男 浩 明三七、七生
女 須磨 明三八、九生、二男浩妻、熊本、宇野宗一長女

君は長崎縣士族山縣金十郎の長男にして明治二十年十月を以て生れ同三十四年家督を相続す農業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅六千二百一圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫泰彦(大一四、二)生(長男)正章(長男)あり長女セイ(明三〇、一)生(は長崎縣人)田村貞吉に妹リキ(同二〇、三)生(は同縣人)山下直平に同シ(同二一、一)生(は同縣人)村尾震三郎弟一靜に嫁せり(佐世保、萬津町三七)
参照 村尾震三郎の項

山縣 愷介

正五位勳四等、製鐵所技師、工作部長兼土木部長、山口縣士族

妻 ヒサ 明二一、六生、山口、豊島勝藏長
男 義雄 大元、一五生
女 春子 明四四、二生
女 敏子 大三、七生

君は山口縣士族山縣良衛の長男にして明治十六年四月

山岸 光宣

文學博士、早稲田大學教授、文學部勤務、東京帝國大學文學部講師、東京府在籍

妻 美雄 女 明一、三、五、東京、池田虎男長男

男 隆一 大三、四生

女 綾子 明四、二、一、生

山岸 治朗

山岸製材専務取締役、愛知縣在籍

妻 春 明三、一、二、生、養父清太郎長女

男 俊 治 大九、七、生

女 綾子 明三、七、生

山岸 靖一

花原製作所専務取締役、新潟縣在籍

妻 辰五郎 明元、四、生、現戸主

男 嘯一 大一一、一、生

山岸 輝雄

正五位勳四等、鐵道局技師、東京鐵道局運輸課長、東京府在籍

妻 幸雄 大九、一〇、生

女 道子 大元、八、生

山岸 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山岸 伊之介

地主、大阪府在籍

妻 利隆 明三、三、二、生、長女キキ夫、大

女 キキ 明三、五、一、一、生、養子利隆妻

山岸 伊之介

兵庫縣多額納稅者、西澤中央廉賣市場専務取締役、製氷業

妻 とく 慶應二、九、生、兵庫、岸本源之助

養子 孟二 明三一、六、生、養子きぬこ夫、兵

山口 一良

青果問屋、兵庫縣在籍

妻 つま 明二、五、五、生、岡山、大前源藏三

男 政 明四、一、一、生

女 勝子 大五、九、生

山口 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山岸 宗次

地家主、愛知縣在籍

母 よね 明一、三、一〇、生、愛知、兒玉幸太

妻 信子 明二、五、二、生、愛知、眞野九郎

女 信子 明二、五、二、生

山岸 太兵衛

福井縣多額納稅者、あだかや、呉服商、福井縣在籍

妻 ちよ 明二、一、四、生、福井、青木彦平長

男 太八郎 明四、二、七、生

女 實子 明四、二、八、生、長男太八郎妻、福

山岸 輝雄

正五位勳四等、鐵道局技師、東京鐵道局運輸課長、東京府在籍

妻 幸雄 大九、一〇、生

女 道子 大元、八、生

山岸 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山口 英九郎

武州鐵道、蕨宿舎ホテル各社社長、百十七銀行、伊那電氣鐵道、松阪鐵道、鐵道電氣證券、東北電氣、中央電化工業、三河鐵道各社取締役、東京府在籍

妻 賢 明一、一、二、生

男 卯之吉 明三、五、一〇、生

女 トヨ 明四、一、二、生

山口 銳之助

正三位勳一等、理學博士、宮中顧問官、東京府在籍

妻 ソノ 明三、五、五、生、理學博士藤澤利喜太

男 進 明四、一、四、生

山口 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山口 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山口 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

山口 榮吉

神奈川縣多額納稅者、横濱取引所取引員、神奈川縣在籍

妻 しん 明二、五、九、生、三重、高林安吉三

生、同四女)同高文(同五、七生、同二男)あり長女...

山口 安憲

君は徳島縣土族山口源三郎の長男にして明治二十年十月...

山口 保三郎

君は徳島縣土族山口安兵衛の兄にして明治二年一月を以て...

山口 興吉

君は徳島縣土族山口安兵衛の兄にして明治二年一月を以て...

君は大阪府人村田左衛門の五男にして明治十八年一月...

山口 龍作

君は石川縣人山口留吉の長男にして明治十六年三月を以て...

山口 龍之助

君は宮城縣人山口其助の長男にして明治七年二月を以て...

山口 榮一

君は島根縣人山口重樹の男にして明治十三年九月を以て...

山口 音吉

君は三重縣人森田與吉の五男にして明治十九年五月を以て...

山口 嘉吉

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

山口 嘉七

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

山口 嘉七

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

君は熊本縣土族山隈丸の長男にして明治二年五月を以て...

山隈 康

君は熊本縣土族山隈丸の長男にして明治二年五月を以て...

山隈 泰次郎

君は東京府人山隈保三郎の三男にして明治十五年九月を以て...

山崎 晃

君は東京府人山崎勇の長男にして明治十九年九月を以て...

山崎 嘉太郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

學法科大學法律科を卒業し同年文官高等試験に合格す...

山崎 一保

君は京都府人山崎一保の三男にして明治十五年五月を以て...

山崎 英太郎

君は東京府人山崎鶴之助の長男にして明治二十三年四月を以て...

山崎 嘉七

君は東京府人山崎鶴之助の長男にして明治二十三年四月を以て...

君は島根縣人山口重樹の男にして明治十三年九月を以て...

山崎 榮一

君は三重縣人森田與吉の五男にして明治十九年五月を以て...

山崎 音吉

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

山崎 嘉吉

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

山崎 嘉七

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

山崎 嘉七

君は兵庫縣人三木孫平の長男にして明治十八年十一月を以て...

君は東京府人山崎勇の長男にして明治十九年九月を以て...

山崎 晃

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉太郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

山崎 嘉次郎

君は東京府人山崎林平の長男にして慶應二年十二月を以て...

女 千代 明四二、一、二生、樟蔭高女出身
君は京都府人山崎彌三郎の三男にして明治十四年七月
を以て生れ同四十二年兄馬次郎方より分れて一家を創
立す洋反物商を營み山崎商店代表社員たりA八四二八
(大阪、東、備後町三ノ一八電本町九八二)

山崎定太郎

君は岡山縣人山崎重吉の二男にして明治十七年一月を
以て生れ昭和三年家督を相続す現時岡山山崎造會社社長
外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男圭次郎(大五
五生)姉喜代(明一五、三生)弟二郎(同三九、三生)姉
喜代(二男)あり長女要子(明四一、五生)は愛知縣人北
川俊一に姉君(同二〇、五生)は岡山縣人渡邊重次郎長
男孫磨に嫁せり(岡山市兒島町三三)

山崎定義

君は富山縣土族山崎定孝の長男にして明治十六年二月
を以て生れ同十七年家督を相続す同三十六年陸軍士官
學校を卒業し翌年歩少尉に任ずるや直ちに第三軍に
屬して日露戰役に従軍し昭和五年陸軍少將に果進す其
間陸軍大學校を卒業し陸軍士官學校本部長官歩兵第五
十七師隊長近衛師團司令部附陸軍歩兵學校附等を歴補
し昭和五年現職に轉ず家族は尙長女貴代(大七、一生)
二女惠(同二、七生)叔父保吉(明元、一生)あり姉
ミチ(同二〇、四生)は富山縣人故陸軍歩兵大佐竹丸豊
次郎に同ミチ(同二〇、一生)は同縣土族故文學博士
江義丸に嫁し叔父保吉(同六、八生、大審院書記長)
同妻チカ(同二一、八生、千葉、吉田縣五郎長女)は共
に分家せり(東京市外世田ヶ谷町代田六八一ノ五號電
世田ヶ谷一七〇一)

山崎健一

君は新潟縣人山崎利吉の長男にして明治十八年十一月
を以て生れ大正十二年家督を相続す現時新潟運輸會社
専務取締役の外前記各會社の重役にして推されて新潟
商工會議所常議員たり家族は尙長女ケイ(大六、七生)
二男康三(昭五五、二生)あり(新潟市下大川前通五ノ二
一九九電四四)

山崎順七

君は熊本縣人櫻井勝九郎の長男にして池田泰親の兄な
り明治二年四月を以て生れ先代ユラの養子となり同十
九年家督を相続す農を業とし縣下の大地主にして會て
縣會議員たる事三回なり現時前記銀行會社の重役にし
て直接間接三千七百四十六圓を納め縣下の多額納稅者
たり家族は尙三女順子(大六、一生)五女浩(同二一、
二生)あり長女幾子(明四〇、三生)は熊本縣人岡本
孝雄に養子チヨカ(同二五、一生)生、熊本、長島正之長
女)は同縣人櫻井守實に嫁せり(熊本、天草、御領村)
參照 池田泰親家長島勇の項

山崎小三

君は神奈川縣人山崎彌五郎の長男にして明治八年三月
を以て生れ同三十八年家督を相続す地主にして傍ら上
信銀行常務取締役を兼ね直接間接千七百四十八圓を納
め縣下の多額納稅者に列し横濱市參事會員に擧げられ
昭和五年十一月同縣會議長に推される紫紅と號し數種の
劇作及演劇評論あり(横濱、中、戸部町二ノ一八電長
著町二四八六)

山崎昇二郎

君は五位勳六等、農林技師、農務局
勤務、静岡縣在籍

山崎新之助

君は鹿兒島縣人山崎次郎の二男にして明治二十二年
一月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す土木建築
請負業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙長女
福子(大九、二生)あり二男富夫(同二、二生)は兵

參照 大場多市の項
山崎四朗
旭電化工業取締役
東京府在籍
妻 春枝
明一五、五生、滋賀、小笹亮長女
男 春雄
明四二、三生
女 八重子
明四二、四生

山崎次郎

君は静岡縣土族會田和保の二男にして明治十三年一月
を以て生れ後山崎金重の養子となり大正十一年分れて
一家を創立す明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒
業し同四十年外交官領事官試驗に合格す次で領事官補
外交官補大使館三等書記官公使官二等書記官一等書記
官等に歴任し廣東西班牙佛國米國亞爾然丁國に在勤
す後歸朝して外務書記官となり農商務書記官を兼ね通
商總務課長大臣官房會計課長を経て大使館參事官とし
てソウイェト聯邦並伯利爾國に在勤せし昭和三年
前記の職に轉じ今日に至る(在亞爾然丁國日本公使館)

山崎主計

君は静岡縣土族會田和保の二男にして明治十三年一月
を以て生れ後山崎金重の養子となり大正十一年分れて
一家を創立す明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒
業し同四十年外交官領事官試驗に合格す次で領事官補
外交官補大使館三等書記官公使官二等書記官一等書記
官等に歴任し廣東西班牙佛國米國亞爾然丁國に在勤
す後歸朝して外務書記官となり農商務書記官を兼ね通
商總務課長大臣官房會計課長を経て大使館參事官とし
てソウイェト聯邦並伯利爾國に在勤せし昭和三年
前記の職に轉じ今日に至る(在亞爾然丁國日本公使館)

山崎信一

君は栃木縣人山崎義一の長男にして明治八年八月を以
て生れ同四十五年家督を相続す氏に東京高等學校に學
び第三銀行に入り後日本増殖會社に轉じ大阪出張所主
任たりしが明治四十年本店詰となり果進して其取締役
に擧げられ營業部長を兼ね傍ら前記會社の重役たり義
に田中銀行代表社員たり家族は尙三男彌三(大六、一〇
生)あり長女てる(明三七、一生、龜町高女出身)は島
根縣人木村康一郎に嫁せりA一四〇三(東京、赤坂、
青山南町一ノ三五電青山五四九)

山崎精一

君は東京府土族山崎旨重の長男にして明治十四年九月
を以て生れ同四十一年家督を相続す同三十八年東京帝
國大學工科大学機械工學科を卒業し同四十二年帝國鐵
道技術師に任ぜられ大正七年歐米各國及南亞佛利加へ
留學を命ぜられ同十二年鐵道局技術師門司鐵道局運轉課
長を経て昭和四年大阪鐵道局運轉課長となり今日に至
る家族は尙二男正(大元、九生)三男廣夫(同四、一、二
生)妹次子(明三三、七生)弟堅(同三四、七生)あり
同旨重(同六一、一生)は東京府土族岡村光顯の養子と
なれり(大阪、住吉、松崎町鐵道官舎)
參照 岡村光顯岡村支治の項

山崎善太郎

君は兵庫縣人山崎福太郎の長男にして明治三十二年十
一月を以て生れ大正九年祖父善太郎の後を相続し前名
義種を改め義名す履物商を營む家族は尙長女千榮子
(大一二、九生)あり叔母たね(明一九、一〇生)同夫傳
治良(同二、四生、滋賀、小倉清右衛門三男)は其一
女を伴ひ分家せりA二三五八B四二三(神戸、西宮内町
一四八電兵庫一九九五)

山崎壯太郎

君は石川縣土族越山彌吉の二男にして明治十四年九月
を以て生れ先代兵四郎の養子となり同四十二年家督を
相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業し大阪商船
會社に入り神戸支店長に進みしが後之を辭し現時前記
各會社の重役にして義に推されて神戸商業會議所特別
議員たりし事あり義姉初喜(明一八、四生)は東京府土
族前川益以に嫁せりA一〇七八(兵庫、武庫、御影町
那家兼安一九)
參照 前川益以の項

山崎周善

君は青森縣人稻見はつの私生子にして明治二十九年八
月を以て生れ先代卯之助の養子となり大正十四年家督
を相続す南部屋と稱し質商を營む家族は尙長女榮子
(大六、六生)二男賢彌(同二二、五生)二女ゆづり(同
一四、一一生)あり妹り(明三九、四生)は青森縣人
和歌山玉治弟繁丸に嫁せりA九九二B三一二(東京、
神田、末廣町二七電下谷五四八)

男 健一 明二八、二生、静岡、柴田又治郎
妻 はま
孫 大六、九生
女 淑 大三、六生

山崎精一

君は東京府土族山崎旨重の長男にして明治十四年九月
を以て生れ同四十一年家督を相続す同三十八年東京帝
國大學工科大学機械工學科を卒業し同四十二年帝國鐵
道技術師に任ぜられ大正七年歐米各國及南亞佛利加へ
留學を命ぜられ同十二年鐵道局技術師門司鐵道局運轉課
長を経て昭和四年大阪鐵道局運轉課長となり今日に至
る家族は尙二男正(大元、九生)三男廣夫(同四、一、二
生)妹次子(明三三、七生)弟堅(同三四、七生)あり
同旨重(同六一、一生)は東京府土族岡村光顯の養子と
なれり(大阪、住吉、松崎町鐵道官舎)
參照 岡村光顯岡村支治の項

山崎修平

君は新潟縣人山崎利吉の長男にして明治十八年十一月
を以て生れ大正十二年家督を相続す現時新潟運輸會社
専務取締役の外前記各會社の重役にして推されて新潟
商工會議所常議員たり家族は尙長女ケイ(大六、七生)
二男康三(昭五五、二生)あり(新潟市下大川前通五ノ二
一九九電四四)

山崎周善

君は青森縣人稻見はつ(明三九、四生)は青森縣人
和歌山玉治弟繁丸に嫁せりA九九二B三一二(東京、
神田、末廣町二七電下谷五四八)

山崎修平

君は新潟縣人山崎利吉の長男にして明治十八年十一月
を以て生れ大正十二年家督を相続す現時新潟運輸會社
専務取締役の外前記各會社の重役にして推されて新潟
商工會議所常議員たり家族は尙長女ケイ(大六、七生)
二男康三(昭五五、二生)あり(新潟市下大川前通五ノ二
一九九電四四)

山崎壯太郎

君は兵庫縣人山崎福太郎の長男にして明治三十二年十
一月を以て生れ大正九年祖父善太郎の後を相続し前名
義種を改め義名す履物商を營む家族は尙長女千榮子
(大一二、九生)あり叔母たね(明一九、一〇生)同夫傳
治良(同二、四生、滋賀、小倉清右衛門三男)は其一
女を伴ひ分家せりA二三五八B四二三(神戸、西宮内町
一四八電兵庫一九九五)

山崎壯太郎

君は石川縣土族越山彌吉の二男にして明治十四年九月
を以て生れ先代兵四郎の養子となり同四十二年家督を
相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業し大阪商船
會社に入り神戸支店長に進みしが後之を辭し現時前記
各會社の重役にして義に推されて神戸商業會議所特別
議員たりし事あり義姉初喜(明一八、四生)は東京府土
族前川益以に嫁せりA一〇七八(兵庫、武庫、御影町
那家兼安一九)
參照 前川益以の項

山崎壯太郎

君は石川縣土族越山彌吉の二男にして明治十四年九月
を以て生れ先代兵四郎の養子となり同四十二年家督を
相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業し大阪商船
會社に入り神戸支店長に進みしが後之を辭し現時前記
各會社の重役にして義に推されて神戸商業會議所特別
議員たりし事あり義姉初喜(明一八、四生)は東京府土
族前川益以に嫁せりA一〇七八(兵庫、武庫、御影町
那家兼安一九)
參照 前川益以の項

君は英城縣人山崎慎三の長男にして明治十二年六月を以て生れ同十五年家督を相續す...

山崎 惣吉 山崎惣吉商店代表社員...

山崎 多助 鳥根電力社長、石州銀行取締役...

山崎 丈夫 十六銀行常務取締役...

山崎 武重 土地建物貸出資社員、實商...

山崎 勤 資産家...

山崎 傳七 大同肥料常務取締役...

山崎 利 從五位勳六等、製鐵所技師、鉄鐵...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 直三 從五位勳五等、著述業...

山崎 傳之助 衆議院議員(和歌山縣選出)、和歌...

君は東京府人現山崎武兵衛同由比の弟にして明治十六年十月を以て生れ...

山崎 威 戸部銀行常務取締役...

山崎 猛 從五位、衆議院議員(英城縣選出)...

山崎 達之輔 正四位勳二等、衆議院議員(福岡縣選出)...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

君は福岡縣人山崎元榮の三男にして明治十三年六月を以て生れ...

山崎 忠藏 實商...

山崎 朝雲 帝國美術院會員、彫刻家...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

山崎 友市 佐世保鐵道検査役...

兵庫縣人法學士森田茂吉に同(同一一、三、生、出身校同上)は海軍中將千坂智次郎に妹八重(同二四、九、生、出身校同上)は子爵吉田清風に嫁せりA一四三(東京市外中野町東中野電四谷二一九二)

山崎 信興

丸善社社長 東京府土族 明二六、三、生、長女ふみ夫、埼玉 養子 民雄 成瀬國雄二男 明三四、一〇、生、養子民雄妻 養子 幸雄 明四一、九、生、三女ふさ夫、東京 女 幸雄 大谷信輔弟 明四〇、一、生、養子幸雄妻、跡見 女 幸雄 女學校出身

君は埼玉縣土族佐々木武八の二男にして安政四年九月を以て生れ明治三十四年先代理泉の養子となり家督を相續す夙に丸善會社に入り社運の興隆に努め現に同社社長たり家族は尙孫信雄(大九、八、生、養子民雄長男)同義雄(同一二、一、生、同二男)同陽之介(昭四、五、生、養子幸雄長男)ありA三四〇九(東京市外港町櫻丘四電山一四三)

山崎 治敏

正三位、男爵 舊備中成羽藩 明二四、三、生、母、東京、柳下 庶子 治男 明二四、三、生、母、東京、柳下 庶子 愛子 明三七、一、生、母、岡山、中村 庶子 侃子 明四一、七、生、母、岡山、中村 庶子 辰子 明四四、六、生、母、岡山、中村

當家は佐々木秀義の孫家近江國山崎の地頭職となりしより山崎氏と稱し世々佐々木氏に屬す相傳へて甲斐守家盛に至り織豊二氏に仕へ後徳川氏に從ひ備中國成羽四萬石を食む夫より十五世を経て先代治敏成羽一萬二千石の封を襲ぐ君其後を嗣ぐ君は先々代治敏の三男にして子爵織田信大の叔父なり安政五年二月を以て生れ明治四年兄治敏の養子となり家督を相續す同年成羽藩知事に任じ同十七年男爵を授けらるる家族は尙弟治輔(文久元、七、生)あり庶子純子(明二〇、八、生、生母東

京、柳下くらは岡山縣人藤本正夫に同(同一二、一、生、生母同上)は同縣人佐藤權次郎に同(同一三、五、三、生、生母、岡山、中村タミ)は同縣人那須四郎に同(同一三、九、三、生、生母同上)は同縣人那須仁子多(久實に姪女子(同一九、五、生、亡兄治敏庶子)は同縣人那須仁吉に同(同一三、八、生、同庶子)は同縣人和田順之に嫁せり(岡山、川上、成羽町) 參照 子爵織田信大、和田順之の項

山崎 春雄

正五位、北海道帝國大學教授、醫學部長、東京府在籍 明二七、一、生、熊本、高岡豊妹 妻 ヨシ 明二七、一、生、熊本、高岡豊妹 男 泰雄 大八、一〇、生、熊本、高岡元眞五女 養子 祐 明四一、〇、生、熊本、高岡元眞五女

君は群馬縣人山崎泰輔の長男にして明治十九年二月を以て生れ同三十一年家督を相續す同四十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大正二年私立熊本醫學專門學校教授となり同七年歐米各國に留學し同十年北海道帝國大學教授に任ぜられ醫學部長にして昭和六年歐米に出張す家族は尙二姉夫夫(大一一、三、生)三男英雄(同一三、三、生)あり姉夫夫(明一一、一、生)は愛媛縣土族松浦次郎に同(同一三、五、一、生)熊本縣土族山崎正重に嫁せり(北海道、札幌、藻岩村) 參照 松浦次郎、山崎正重の項

山崎 秀治

肥前合同貯蓄銀行取締役、唐津銀行監査役、佐賀縣在籍 明二二、一、生、福岡、大原範次 妻 イマ 明二二、一、生、福岡、大原範次 男 治一郎 大二、一、生 女 シマ 明三五、一、二、生

君は佐賀縣人山崎常藏の二男にして明治六年一月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時肥前合同貯蓄銀行取締役の外前記銀行の重役たり家族は尙四女シナ(大六、六、生)あり(佐賀、東松浦、唐津町電一〇)

山崎 秀三

村木商 東京府在籍 明二二、四、生、千葉、田中佐右衛 妻 とめ 明二二、四、生、千葉、田中佐右衛 女 初江 大三、六、生

君は東京府人山崎主馬藏の三男にして明治十九年四

を以て生れ同四十五年兄孝造方より分れて一家を創立す村木商を營むA二二八一B五六一(東京、深川、大和町六電本所四三七三)

山崎 秀太郎

横濱正金銀行員 東京府在籍 明二七、五、生、兵庫、松島泰夫妹 妻 はる 明二七、五、生、兵庫、松島泰夫妹 女 淑子 大四、一、生

君は東京府人山崎定兵衛の三男にして明治十七年六月を以て生れ同四十年兄喜三郎方より分れて一家を創立す同三十七年東京高等商業學校を卒業し直ちに横濱正金銀行に入り天津シドニー支店に在勤後漢口孟買青島濟南各支店支配人を經て現時同行内國課長たり(東京小石川、小日向町一ノ四電小石川五四八〇) 參照 京橋本萬之介の項

山崎 武兵衛

土地建物賣出社社員 東京府在籍 嘉永五、五、生、和歌山、山名六左 妻 せき 衛門長女 養子 太郎 大八、三、生、弟山比長男

山崎家は元紀州に代々農を業とせる素封家にして莊官を勤め苗字帶刀を許されたる家柄なり先代武兵衛に至り江戸に移る君は其長男にして同由比同武重の兄なり明治五年一月を以て生れ大正十年家督を相續し前名和太郎を改め襲名す夙に土地建物合資會社を創立し之を主宰し現在に至る又兼に東京座三崎座改良座等の劇場を經營せり妹その(明一一、一、生)は栃木縣土族文學士伊東邦彦に嫁せりA一三一〇六(東京、神田、表裏藥町四電神田一五〇六) 參照 山崎武重、山崎由比の項

山崎 文五郎

青梅電氣鐵道取締役、西武興業監査役、東京府在籍 安政五、八、生、東京、小澤吉十郎 妻 クヨ 明三一、四、生、東京、福田甚五兵衛長女 男 正 大一、九、生

君は東京府人山崎勘平の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十五年早稻田大學商科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は

尙二男登(昭二、一、生)兄理吉(明一六、二、生)同妻ヤヲ(同一六、四、生、東京、高橋三三妹)あり弟武夫(同一三、二、生)は分家せり(東京、西多摩、三田村)

山崎 文次

愛知縣會議員、名古屋製糖、一誠社各社長、名古屋地、大正産業名古屋鐵業、内外紡績、加福土地名古屋鐵道、長浦海園土地各監査役 愛知縣在籍 明二二、七、生、愛知、田島五郎作 妻 ふさ 三女

君は愛知縣人山崎徳左衛門の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同三十七年家督を相續す現時前記各會社の重役にして愛知縣會議員たり義に名古屋市會議員名古屋商工會議所議員に推されし事あり家族は尙弟三七介(明二六、八、生)同妻秀(同三三、八、生、愛知、日比野廣吉長女)は其二子を伴ひ分家し姉さだ(同一四、一、二、生)は愛知縣人小栗七郎に嫁せり(同二三、四、生)は三重縣人小津與右衛門に嫁せりA三七〇四(名古屋、南、呼続町深ノ内一〇電南一三四〇) 參照 小栗七郎、石川八郎、治家、田島治治の項

山崎 正董

從四位勳三等、醫學博士、熊本醫科大學長兼教授、同大學附屬醫院長、熊本縣土族 安政二、六、生、高知、土、廣井喜十郎長女 妻 とね 明一五、六、生、群馬、山崎春雄姉 男 正文 明三五、一〇、生、東北帝國大學出身、同大學助教 男 正武 明三九、四、生、京都帝國大學出身、同大學院學生 女 敏 明四一、七、生、熊本縣第一高女高等科出身 女 順 明四五、四、生、熊本縣第一高女出

君は高知縣土族山崎正源の長男にして明治五年四月を以て生れ同二十三年家督を相續す同三十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し東京帝國大學醫學科大學助手兼立熊本病院産科婦人科部長愛知縣立醫學專門學校教授愛知縣立醫學專門大學附屬醫院長を経て現時前記の

官職に在り大正二年醫學博士の學位を授けらるる明治四十二年及大正十二年歐米視察を命ぜられ昭和六年三月支那視察を命ぜらるる先哲の手續に趣味を有し近世産科學肥後醫史の著あり家族は尙三男正忠(大三一、〇、生)三女愛(同六、一、生)四女孝(同九、九、生)妹(明八、一、生)あり(熊本、餉託、畫園村) 參照 山崎春雄、松浦次郎の項

山崎 正秀

岩崎家庭事務所秘書役 東京府在籍 明一九、八、生、東京、鈴木伊之助 妻 美知 三女 男 正大 明三五、一、生 女 信子 橋詰熊五郎三女 女 佳年子 大四、一、生

君は高知縣土族山崎正義の長男にして慶應三年九月を以て生れ後家督を相續す東京日々新聞記者滿鐵東京支社庶務課長を経て現時岩崎家庭事務所秘書役たり家族は尙三男御橋(大一一、一、生)四男春成(同一二、一、生)ありA三七九(東京、本郷、湯島梅岡町二電下谷二二二)

山崎 政富

東京米穀商品取引所取引員 東京府在籍 明一七、五、生、埼玉、中村梅太郎 妻 美津 二女 女 敏子 大二、一、生

君は埼玉縣人山崎與三郎の三男にして明治十六年三月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す東京米穀商品取引所正米部取引員たり養子は女(明三八、二、生)埼玉中村庫二郎長女)は群馬縣人飯島惣次郎長男長藏に嫁せりA二六二六(東京、神田、佐久間町一ノ七電下谷六七二〇)

山崎 雅吉

山浦商店、農商 東京府在籍 明一六、六、生、東京、山崎忠藏妹 妻 さき 明三五、三、生、長女幾子夫、東京 養子 壽輔 神谷三藏四男 女 幾子 明四一、一〇、生、養子壽輔妻

女 幸子 大二、四、生 君は東京府人山崎浦太郎の二男にして明治十七年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す山浦商店と稱し疊商を營む家族は尙三女富美子(大八、八、生)あり妹豊(明二五、九、生)は東京府人河合欣三郎に嫁せりA九七八(東京、市外千住町中組六九電千住二二) 參照 河合欣三郎、山崎忠藏、河合榮次郎の項

山崎 松次郎

正八位、陸軍歩兵中尉、函館市會議員、北海道多額納稅者、函館商工會議所議員、函館菓子製造社社長、日本製糖、函館常務取締役、山崎汽船、辨天倉庫各取締役、地主 北海道在籍 安政二、三、生、現戸主 妻 タカ 明二二、一〇、生、北海道、安森善吉三女 男 正 免 大四、四、生 女 ユキ 明四五、三、生

君は北海道人山崎松藏の長男にして明治十八年十月を以て生れる地主にして現時前記各會社の重役に擧げられ直接間接税五千二百五十圓を納め北海道多額納稅者に列し函館市會議員函館商工會議所議員たり家族は尙三女(大八、二、生)四女ムツ(同一一、三、生)三男康夫(昭二、七、生)あり(函館、辨天町四六電六五九) 參照 山崎松藏、齊藤藤五郎の項

山崎 松藏

北海道多額納稅者、函館造船所、山崎汽船各取締役、地主 北海道在籍 明一八、一〇、生 君は新潟縣人小濱太藏の弟にして安政二年三月を以て生れ先代スリの養子となり明治十九年家督を相續す地主にして現時前記各會社の重役に擧げられ直接間接税五千八百九十一圓を納め北海道多額納稅者たり長女イマ(明二四、五、生)は其一男一女を伴ひ分家し三男健治(同二九、九、生)四男隆三郎(同三六、一〇、生)も亦各分家し二女チエ(同二七、一、生)は北海道人齊藤藤五郎に嫁せり(函館、天神町七、電六五九) 參照 齊藤藤五郎、山崎松次郎の項

山崎 宗直

從五位勳六等、海軍教授、海軍經理學校教官、熊本縣在籍

父 大藏 安政四、一、二生、現戸主、造林業
母 キジユ 文久元、八生、熊本、津川茂兵二

山崎 善夫 博多商工會議所副會頭、山崎商店
代表社員、砂糖麥粉澱粉商
福岡縣在籍

山崎 吉松 能登鐵道取締役、能登商行監
査役、石川縣在籍

山崎 彌久太郎 正五位勳三等、大分高等商業學校
長、高知縣在籍

山崎 盛次 東京府土族
妻 廣子 明二、六生、東京、士、袴田瀧
子 三郎長女

山崎 彌兵衛 山崎代表社員
兵庫縣在籍
妻 秀和 明二、八生、岡山、士、森信時長
子 明三、七生、長男秀和妻、大阪
山口都三妹

山崎 由比 土地建物賣出資社員、山六、賣商
東京府在籍
妻 靜 明二、九、一、二生、埼玉、野口源次
子 辰之助 大、一〇、五生

山崎 吉熊 賣商家
東京府在籍
妻 フミ 明二、一〇生、福島、遠藤廣吉長
子 昭四、一、生、東京、齋藤伸之助二

山崎 勇吉 水戸市參事會員
茨城縣在籍
妻 あさ 明二、六、三生、本間次郎介庶子
子 明三、一〇生、養子忠兵衛妻

山崎 三郎 福島縣多額納稅者、福島貯蓄銀行
取締役、東武電力監査役、山
崎縣在籍
妻 タケ 明三、一、生、福島、坂田藤助二女
子 忠兵衛 明三、八、五生、長女喜代子夫、福
島、吉田正雄弟

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山崎 静一 正五位、男爵、南滿洲鐵道會社員
東京府華族
妻 幾枝 明一、四、二生、故南滿洲鐵道會社
總裁早川千吉郎妹
子 明三、九、一〇生、熊本、内藤官太
昭二、七生

山地 四郎 神戸市議員、城東土地地権調査役
 妻 春恵 女 三〇、二生、高知、西川貞佐二
 男 貫太 大五、三生
 女 淑 大四、七生

君は高知縣人山地吉吉の四男にして同土佐太郎の弟なり明治二十一年六月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す現時城東土地地権調査役に推されて神戸市會議員たり義に大東紡績會社取締役たりしことあり家族は尙二女和子(大二三、一生)あり(神戸、元町三ノ四五八電番四一五五)

參照 山地土佐太郎の項

山地土佐太郎

君は高知縣人山地吉吉の長男にして明治十一年十二月を以て生れ同二十五年家督を相続す海運業を營み山地汽船明治物産各會社を經營し其社長となり傍ら前記諸會社の重役を兼ね又南洋栽培協會事務理事に擧げられ義に神戸商業會議所議員に推されて明治四十三年南北各地を巡遊し移民貿易海運事業を視察し又再度南洋各地を巡遊す乘馬に趣味を有し現時海軍政務委員會委員東京乘馬俱樂部常務理事たり家族は尙二男三平(大八、九生)あり長女富美(明三七、五生、雙葉高女出身)は高知縣人安藝國雄に妹光恵(同一七、二生)は同縣人桑津一兵衛長男重美に同光留(同一三、一生)は長野縣人下川芳太郎に嫁し弟四郎(同一二、一生)は同妻貞子(同一二、四生、高知、土、中島直吉二女)は其一女を伴ひ分家せりA五七〇(東京、麹町、中六番町五電九段一八二)

參照 山地四郎の項

山地寅太郎

日本陶器廠取締役
高知縣在籍

妻 龜喜 明一六、一〇生、高知、東山菊馬
 男 米幸 大四、七生
 女 幸三

君は高知縣人山地熊太郎の長男にして明治十二年十二月を以て生れ同三十九年家督を相続す現時日本陶器會社取締役たり義に森村商會社取締役に擧げらるる家族は尙二女登喜子(大六、一生)二男幸雄(同一二、一生)三女英子(同一四、一生)あり長女春(明四〇、四生)は東京府人宇田弘道に嫁せりA一二四七(名古屋、東横木町一ノ三電東二六七七)

山地 元忠

東京府華族
 嫡祖母 弘化四、七生、高知、土、中島三
 祖母 津屋 長女、八生、東京、倉本彦五郎

當家は先々代元治より家名を揚ぐ元治は舊土佐藩士にして戊辰の役鳥羽伏見より奥羽の野に轉戦す明治五年陸軍少佐に任じ陸軍中將に累進す西南の役別働隊第三旅團參謀を以て任じ武功あり尋で熊本大隊各營參謀司令官第二旅團長等に歷補し同二十一年華族に列し男爵を授けらるる日清の役第一師團長として偉勳を奏し同二十八年勳一等功三級に叙し子爵に陞せられ後西部都督に任ぜらるる長男元彦其後を襲ぎ陸軍騎兵大尉に累進す君は元彦の長男にして明治四十四年十二月を以て生れ大正十年家督を相続し襲爵被仰付家族は尙妹華子(大三、四生)あり(東京市外石神井村下石神井一五六〇)

山路 一善

正四位勳一等功三級、海軍中將
 愛媛縣在籍

君は愛媛縣士族山路一善の三男にして明治二年三月を以て生れ大正十五年兄一遊方より分れて一家を創立す

君は東京府人先代治郎兵衛の長男にして安政元年十一月を以て生れ後家督を相続し前名を改め襲名す地主たり家族は尙孫貞子(大九、三生、亡二男勝夫長女)同美知子(同一四、七生、四男憲夫長女)同陽彦(昭四、二生、同長男)あり長女千代(明一九、一生)は東京府人岡田健三郎に二女トシ(同一二、一生)は同府人野村幸太郎に三女まき(同三六、一生)は同府人中島鐵五郎に二女勝次に四女勢舞(同三九、四生)は同府人堀越恒雄に嫁し美子喜勢(慶應三、一生、東京、永久保元次郎妹)は分家し三男昭夫(明三一、一生)は分家美姉喜勢の養子となれりA二六三五(東京市外荏原町戸越三七五電番原二〇四八)

山路 鎮夫

從五位、大藏事務官、主計局勤務
 東京府在籍

君は東京府人山路良三の三男にして明治二十七年九月を以て生れ大正八年東京帝國大學法科大學法科を卒業し高等文官試験に合格し爾來大藏廳財務書記等に歴任し後大藏事務官等に任じ昭和四年主計局勤務を命ぜられ今日に至る其間歐米に出張を命ぜられ又大正十四年瑞西ジュネーブに於て開催の國際聯盟會第六回會議に於ける帝國代表者隨員を命ぜらるる家族は尙二男恒夫(昭五、五生)あり(東京、牛込、水道町四一電牛込八一六)

山路 太良助

賣藥商
 兵庫縣在籍

君は兵庫縣人山路谷松の長男にして明治二十七年三月

山路喜兵衛

田中屋、米穀商
 東京府在籍

君は神奈川縣人板垣庄八の二男にして慶應三年八月を以て生れ先代喜兵衛の養子となり大正十一年家督を相続し前名仙藏を改め襲名す田中屋と稱し米穀商を營む家族は尙孫房子(大一一、二生、長男精一郎長女)同伊基子(同一五、七生、同二女)同勝彦(昭四、三生、同長男)あり二女貞(明三三、四生)は宮城縣人阿部利久三男貞治に三女春(同三六、二生)は東京府人菅沼明三に四女静江(同三九、八生)は岐阜縣人江崎純二郎に嫁せりA一一六六(東京、牛込、市谷八幡町一四電牛込五七一)

參照 深山小島兵衛和稻田吉の項

山路治郎兵衛

地主
 東京府在籍

君は大正十三年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ爾來果進して大正七年海軍中將に進む其間日露戰役には出羽戰隊先任參謀片岡北道隊先任參謀として出征し次で警手副長海軍各司令部參謀並置波各艦長世界大戰には第一艦隊參謀長第三特務艦隊司令官として濠洲西蘭方面に轉戦し後馬公要港部司令官第二艦隊司令官鎮海要港部司令官等に歷補し大正十二年豫備役に編入せらるる家族は尙四女梅子(大八、一生)五女鏡子(同一一、四生)あり長女春子(明三九、六生、聖心女子學院出身)は工學博士今岡純一郎長男賀雄に嫁せり(東京、芝、白金三光町五一九電高輪八〇八一)

參照 伯爵山本權兵衛、男爵内山小二郎、今岡純一、郎宗男爵上村從義、東京府部部松方乙彦、山本盛正の項

山下 興家

正五位勳四等、鐵道省工作局長
 愛媛縣在籍

君は兵庫縣人山下芳太郎の弟にして明治十四年四月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し南滿洲鐵道會社となり英國に留學し米國に出張し歸朝後鐵道院技師鐵道局技師兼鐵道技師東京鐵道局大井工場長同大宮工場長工作局工場課長機械課長を経て昭和四年工作局長になり今日に至る昭和三年第十一回國際労働會議政府委員顧問として歐米各國に出張す家族は尙二女道(大一一、二生)三女澄子(同一三、一〇生)あり(東京、子市外澁谷町景丘五四電高輪四四八九)

山下 兼滿

正五位勳四等、海軍大佐、艦政本
 部總務部第一課長、鹿兒島縣士族

君は鹿兒島縣士族山下慶助の長男にして明治十六年九月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治三十八年海軍兵學校を卒業し翌年海軍少尉に任じ大正十四年海軍

山下 規矩次

山下酒造總代表取締役
福岡縣在籍

山下 龜三郎

勳三等、山下汽船、阪神、港各港、火災保險、浦賀船渠、尼崎、扶桑海、各港監督、山下鐵業、相談役、山下代表社員、東京府在籍

妻 エイ 弘化二、七生、埼玉、島崎久七長女
養子 慶二 明二六、一一生、大阪、山下治助
婦 龍 明三三、一一生、養子慶二妻、大阪
 君は大阪府人先代和助の長男にして安政三年十二月を以て生れ明治元年家督を相続し、養子慶二長男あり、A七八六(兵庫、武庫、住吉村新堂五二電脚影二五五二)参照、祭原源治郎の項

山科家言

從四位、伯爵
 父 晉 安政四、三三、正四位
 妻 悦子 明三二、九生、兵庫、末正久左衛門長女、神戸市立第一高女出身
 男 晉 大、一四、五生

當家は左大臣藤原魚名十一代の裔中納言家成の六男推中納言實教の後なり實教四條家より分たれ一家を立て其男朝成山科の庄を賜り依て氏となす世々有職職官を以て朝成に仕へ又御衣調進衣等の事を家職とす夫より二十三世を経て正二位晉繼に至り明治十七年伯爵を授けらる長男晉繼其後を繼ぎ君は晉繼の長男にして男爵藤原山科言先代言長は其叔父なり明治二十八年二月を以て生れ大正十三年家督を相続し、養子同十年京都帝國大學法學部政治科を卒業す家族は尙長女美惠子(大一一、七生)あり(京都、左京、岡崎法勝寺町七七電上二〇三九)
 参照 男爵藤原山科言、末正久左衛門石丸其兵衛、宗國金平の項

山科賢次郎

名古屋聯合同運送取締役
 愛知縣在籍
 男 秀 夫 明三六、四生
 男 秀 夫 明四四、八生

君は愛知縣人山田嘉助の二男にして明治七年九月を以て生れ先代かきの養子となり同三十六年家督を相続す現時前記各會社の重役にして養に推されて名古屋市長議員名古屋水産市場社長たり家族は尙五男英一(大五、二生)あり四女鈴子(同三九、七生)は同縣人小林茂に姉ふさ(同二、九生)は同縣人長崎男五郎に嫁せり

A二五〇(名古屋、西、澤井町三三)
山科良夫 近海郵船會社員、船舶業
 父 幸三郎 明二、一一生
 當家は數百年來の素封家にして世々學を以て聞ゆ義祖勝島惟徳は伊藤仁齋の高弟にして垂裕嘉言の著書を以て知られ詩人菅茶山は先代禮藏の外祖父たり君は東京府人山科幸三郎の長男にして明治三十八年一月を以て生れ先代禮藏の養子となり昭和五年家督を相続す船舶業を營み近海郵船會社に勤務す先代禮藏の志を立て獨力海軍工業を創設し遺贈船貨物の引揚に従事し内外汽船及貨物の救助に努め又實業界の重鎮として幾多會社の重役となり推されて南米企業組合理事長日本羅甸亞米利加協會副會長水難救濟會海軍協理理事東京商會會議所副會長等として其の間支那經濟提携の爲支那に出張實業特使として世界各國を巡遊南米視察團長として南米各國を視察す大正五年多年海軍工業に盡したるに依り勲章を賜せられ又佛國政府よりコンマンンドール・ドラゴン・ドランナン勲章を授けらる姉榮子(明三〇、六生)は絶家勝島氏を再興し從姉由己子(同二八、一一生)は伯父慎次郎長女は醫學博士増田二郎に嫁せり(東京、麻布、櫻田町三八電青山三三四〇)

山階芳太郎

鐵工業
 大阪府在籍
 妻 コマ 明二三、四生、大阪、河内喜助養子
 君は大阪府人山階卯市市長にして明治元年十二月を以て生れ大正十五年家督を相続す鐵工業を營む家族は尙二女管子(大七、二生)三女經(同一〇、一〇生)弟新治郎(明一九、一〇生)同妻利子(同二三、二生)滋賀青木善應長女及其一男一女ありA七七九二六六(大阪、東成、中道町三八四電東八一〇)

山階芳廣

正四位勳一等、侯爵、陸軍砲兵中尉、貴族院議員、山階宮家御一門
 妻 壽賀子 明三七、一一生、伯爵酒井忠克妹
 君は故大勳位海軍大佐山階宮家御一門の第二子にして山階宮武彦王の御弟侯爵波藤廣伯爵鹿島萩侯爵葛城茂廣の兄なり明治三十三年七月を以て生れ大正九年七月情願を允され臣籍に降下し山階の家名を賜ひ華族に

山階芳廣

正四位勳一等、侯爵、陸軍砲兵中尉、貴族院議員、山階宮家御一門
 妻 壽賀子 明三七、一一生、伯爵酒井忠克妹
 君は故大勳位海軍大佐山階宮家御一門の第二子にして山階宮武彦王の御弟侯爵波藤廣伯爵鹿島萩侯爵葛城茂廣の兄なり明治三十三年七月を以て生れ大正九年七月情願を允され臣籍に降下し山階の家名を賜ひ華族に

山階芳廣

正四位勳一等、侯爵、陸軍砲兵中尉、貴族院議員、山階宮家御一門
 妻 壽賀子 明三七、一一生、伯爵酒井忠克妹
 君は故大勳位海軍大佐山階宮家御一門の第二子にして山階宮武彦王の御弟侯爵波藤廣伯爵鹿島萩侯爵葛城茂廣の兄なり明治三十三年七月を以て生れ大正九年七月情願を允され臣籍に降下し山階の家名を賜ひ華族に

て其養子に迎へられ明治二十五年家督を相続し養名して前名市三良を改む祖業を繼ぎ酒造業を營む家族は尙孫裕子(大八、一一生)養子信三(二女)同光子(同一二八生)同三女(同昌子)同一四、一一生、同四女(同都子)同四、四生、同五女(同五女)ありA一八七八(大阪、北、朝日町九九電北四五六四)

山城了

神戸又新日報社監査役
 大阪府在籍
 妻 伊三郎 明七、五生、現戸主
 妻 マス 明二七、一〇生、養父伊三郎長女
 女 香津子 大、一四、一一生

山城了

君は大阪府人山田吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

山瀬重夫

家主
 大阪府在籍
 母 ウタ 明一四、一〇生、京都、平田芳次
 妻 伊三郎 明七、五生、現戸主
 妻 マス 明二七、一〇生、養父伊三郎長女
 女 香津子 大、一四、一一生

山瀬重夫

君は大阪府人山瀬吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

山瀬重夫

君は大阪府人山瀬吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

山瀬重夫

君は大阪府人山瀬吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

山瀬重夫

君は大阪府人山瀬吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

山瀬重夫

君は大阪府人山瀬吉の二男にして明治四十二年一月を以て生れ大正九年家督を相続す家主たり家族は尙姉タミエ(明四二、一一生)妹マサエ(大、一一生)同ヒサ(同五、九生)弟雄平(同八、三三)あり姉ヨネ(明三二、四生)は大府人井上平一に同タマ(同三三、一一生)は同府人稲村益藏養子繁治に嫁し男實(大九、四生)難縁養兄勝次郎長男)は山口縣人平賀春次の養子となれりA一一二(大阪、天王寺、石ヶ辻町一〇八)

列し侯爵を授けらる陸軍士官學校を卒業し同十年陸軍砲兵少尉に任じ同十三年同中尉に任じ翌年豫備役に編入せらる養に陸軍技術本部附たり(東京市外濠谷町南平臺四九電青山四五六〇)
 参照 山階宮家、侯爵波藤廣、伯爵鹿島萩、伯爵葛城茂廣、伯爵酒井忠克、男爵二條豐基、淺野長之の項

山城太兵衛

山城屋、砂糖商
 東京府在籍
 妻 たけ 明二一、五生、東京、森戸清吉長女
 男 義秀 大一一、八生
 女 千代子 明四三、七生
 女 米子 大、一四、一一生

山城高興

沖繩縣多額納稅者
 文久元、四生、沖繩、士、金武朝
 君は東京府人先代太兵衛の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名義三を改め養子山城屋と稱し砂糖商を營む家族は尙四女安子(大七、六生)五女光子(同一四、一一生)二男弘行(昭四、五生)姉しづ(明一一、八生)あり妹たき(同一七、八生)は東京府人加藤留三郎に嫁せりA七五五B一七九(東京、芝、松本町二二電三三三七五)

山城高興

君は東京府人先代太兵衛の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名義三を改め養子山城屋と稱し砂糖商を營む家族は尙四女安子(大七、六生)五女光子(同一四、一一生)二男弘行(昭四、五生)姉しづ(明一一、八生)あり妹たき(同一七、八生)は東京府人加藤留三郎に嫁せりA七五五B一七九(東京、芝、松本町二二電三三三七五)

山城高興

君は東京府人先代太兵衛の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名義三を改め養子山城屋と稱し砂糖商を營む家族は尙四女安子(大七、六生)五女光子(同一四、一一生)二男弘行(昭四、五生)姉しづ(明一一、八生)あり妹たき(同一七、八生)は東京府人加藤留三郎に嫁せりA七五五B一七九(東京、芝、松本町二二電三三三七五)

君は鹿兒島縣人荒巻高孝の庶子にして安政五年三月を以て生れ明治十年分れて一家を創立す現時沖繩縣多額納稅者にして直接國稅五千五百三十三圓を納む養に沖繩興業銀行の重役たりし事あり家族は尙庶子豊子(大一一、二生)生母、沖繩、照屋ツル(同富子)同一五(六生、生母同上)孫フミ(同六、一一生)二男高義(四女)同高登(同一〇、六生)同高英(同一二、九生)同六男(同敏)同一四、一一生、同六女(あり)那那、本

山添吉太郎

藤屋、蕎麥粉卸商
 京都府在籍
 祖母 フミ 嘉永五、七生、京都、妹尾仲二女
 妻 勢以 明四〇、九生、京都、井口眞次郎

山添吉太郎

君は京都府人山添良太郎の長男にして明治二十八年八月を以て生れ昭和五年家督を相続す藤屋と稱し蕎麥粉卸商を營む家族は尙養姉繁(明一四、一一生)英城、士松浦濱雄三女)及其一男一女あり妹好子(同三四、二生)は大府人川勝秀吉郎に嫁せり(京都、中京、室町御池上ル御池ノ町一三)

山添清兵衛

京都取引所證券取引員
 京都府在籍
 妻 あ 門二女
 君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田彰

日本硫黄專務取締役、鐵工礦業
 理化学工業各專取締役、東京府在籍
 君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田彰

君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田彰

君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田彰

君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田彰

君は京都府人山添藤兵衛の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十二年兄百藏方より分れて一家を創立す現時京都取引所證券取引員たりA二二二八B三〇七(京都、中京、錦小路東洞院東入ル電本局四三〇)

山田英二

明二八、三三、東京、松本福松二
 君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

山田英二

君は舊福井藩主松平家の爲替係りを勤め苗字帯刀を許されたる山田慎の四男にして同様の弟なり明治十四年一月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同四十年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に日本硫黄會社に技術として就職し爾來進んで現時專務取締役の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女美枝子(大一一、一一生)二女裕子(同一三、四生)三女由紀子(昭三、一一生)ありA三三八(東京、麻布、廣尾町五九電高輪六一七〇)
 参照 松本福松、山田福松、秋田豐藏の項

王寺町二三三(一) 參照山田宮崎雄、山田彰の項

山田 有實 從五位勳五等、陸軍技師、陸軍造兵廠火工廠員、沖繩縣士族 妻 千代子 明三六、八生、新潟、池田恒司孫 男 茂 大一四、五生

君は沖繩縣士族山田有章の五男にして明治二十四年五月を以て生る。東京帝國大學工科大学火藥學科を卒業し陸軍技師に任じ東京砲兵工廠附となりしが後技師に進み陸軍造兵廠火工廠員たり家族は尙長女美代子(大一一、三生)四男勇(昭三、一生)兄有銘(明一六一生、現戸主)同妻静子(同二二、一生)沖繩、比嘉賢長女)及其子女弟有吉(同三〇、一生)同妻都年子(同三六、一生)沖繩、安里普待(二女)及其子女あり(京都、宇治、宇治村陸軍官舎)

山田 イチ 南はり半、料理業 大阪府在籍 養子 ユキ 明四三、一生、京都、清水忠義從

君は京都府人山田フクノの姉にして明治十四年四月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す南はり半と稱し料理業を營む家族は尙養子公子(昭三、四生、大阪、乾由之助庶子)ありA一〇一〇B四七二(大阪、南、宗右衛門町二五電兩五二)

山田猪之七 直江津商工會議所常議員 新潟縣在籍 明二一、一生、亡長男伊助妻、新湯、近藤平次郎姉

君は新潟縣人山田惣左衛門の四男にして文久二年九月を以て生れ先代猪之七の養子となり後家督を相続し前名八太郎を改め襲名す現時直江津商工會議所常議員にして吳服太物組合長直江津小賣商組合長たり義に町會議員に推されし事三回に及ぶ家族は尙孫俊雄(大二、一〇生、亡長男伊助三男)同浩治(同八、一生、同四男)あり二女(ハル(明二九、二生)は新潟縣人遠藤善之助長男俊造に嫁し四女タキ(同三五、二生)は同縣人青山榮作の養子となれり(新潟、中環城、直江津町)

山田 一郎 川崎百銀行池袋支店長 妻 高吉 明八一、一生、山田茂三郎三男 母 高 明五、七生、埼玉、高野眞作二女 妻 和江 明三六、四生、東京、橋本篤一長女

君は群馬縣人山田金五郎の長男にして明治二十五年三月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時川崎百銀行池袋支店長たり家族は尙二男道彦(大一一、一生)弟晋三(明三三、一生)同妻さだ子(同三八、二生)神奈川、山根榮治(三女)及其一子弟繁司(同四〇、一生)妹敏子(同四五、五生)同ヒロ(大四、八生)あり姉ふで(明二三、六生)は群馬縣人金澤七藏二男清三に嫁くら(同二八、二生)は同縣人總見宗鳳に同ち(同三〇、三三)は同縣人細谷友藏弟藤次郎に嫁せり(東京、赤坂、青山高樹町三)

山田市治郎 山田商店、大同各縣取締役、大阪警備隊監査役、大阪府在籍 妻 トミ 明一一、二生、奈良、米谷政吉長

君は大阪府人山田市兵衛の長男にして同藤次郎の養弟同岸太郎の兄なり明治十年三月を以て生れ昭和三年家督を相続す現時山田商店取締役に任じ同會社の重役たり家族は尙養子トキ(大一一、四生、弟岸太郎養子)あり(大阪、東、南久太郎町二ノ四三電船場二八〇)

山田宇一郎 栗林商會、室蘭埠頭倉庫各縣取締役、室蘭在籍 妻 シナ 明二七、二生、北海道、伊藤金太郎長女 男 實 大四五、四生

君は北海道人山田宇作の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正十三年家督を相続す少少の頃より栗林商會に勤務し現時同取締役に任じ外記各會社の重役たり

山田 歛 正六位、福井縣多額納稅者、農業 妻 かつ 弘化長女 母 つる 福井縣士族 父 孝 明三三、二生、愛知、土、坂井秀夫 明二二、七生、早大政治經濟科出身 男 市 明二三、五生、長男市妻、福井、大和田莊七四女 女 魚 明二七、八生、名古屋高等工業學校出身 男 保 明三三、二生、二男保妻、愛知中村三三、二女 女 治 明三四、八生、日本齒科醫專出身 男 保 明三三、三男保妻、鹿兒島宮里熊五郎四女

君は福井縣士族山田歛の長男にして慶應元年八月を以て生れ同二十五年家督を相続す福井師範學校及明治法律學校を卒業し農業を營む直接國稅四千九百六十五圓を納め福井縣多額納稅者たり義に米穀調査委員米穀委員會委員帝國農會顧問及び評議員縣農會會長產業組合中央會支會副會長等の公職に推され又貴族院議員に當選し公共事業に盡力したる功績顯著なる故を以て藍綬褒章を賜り正六位に叙せらるる家族は尙孫も、え(大六、三生、長男市二女)同春子(同八、三生、同三女)同峻一(同一一、一生、同二男)同弟二(同二一、四、六生、同三男)同富美子(同二一、九生、二男傳長女)同慶子(同三三、五生、同二女)同節子(昭二、二生、同三女)同早苗(同二、一〇生、三男保長男)同豐子(同五、四生、同長女)あり長女和(明二四、九生)は福井縣人八杉良宗に嫁せり(福井、坂井、高松村電九四〇一〇五)參照山田和正吉、八杉良宗、大和田勇、大和田金之助、大和田正吉、吉田忠吉の項

山田 乙三 正五位勳三等功五級、陸軍少將、陸軍騎兵學校教育部長 東京府士族

君は愛知縣士族山田中辰の長男にして文久二年十一月を以て生れ同四十二年家督を相続す同十二年愛知師範學校同十八年東京專門學校を卒業し朝野民報新聞記者たり事數年後愛知縣會議員大谷派學校教頭等を経て同三十年日本鐵道會社に入り幹事庶務課長常務取締役事務清算人等に歴任し在職十五年同鐵道國有後更に成田鐵道會社取締役會長及社長に任じ同鐵道亦國有に歸し清算人長として後事を處理す現時同鐵道會社有る前記鐵道國有後は實業家としてより教育家公益事業家として執筆しつゝあり義に鐵道協會理事鐵道同志會副會長同監事等に擧げられ現時大日本國鐵會々長道路改良會常任理事たり家族は尙孫幾久子(大一一、三生、長男俊夫長女)同淳英(同二一、一生、同長男)同茂英(昭二、一生、同二男)同夫(同三、一〇生、三男武夫長男)同眞澄(同五、一〇生、同長女)あり二女(明二四、六生)は盛岡縣人三井物産會社事務石朝政に三女壽子(同三七、五生)は岐阜縣人三井物産會社員加野吉次郎に四女茂子(同三八、九生)は千葉縣人三菱銀行員三木順一郎に嫁せりA一〇七七(東京、芝、白金臺町二ノ五四電高輪一四五四)參照山田野々村、佐一、高木隆吉の項

山田 悦治 兵庫縣多額納稅者、酒類商並金融業、兵庫縣在籍 妻 ふし 明元、八生、兵庫、中田儀平三女 男 定 治 明四一、二生

君は兵庫縣人山田悦治の弟にして明治四年六月を以て生れ先代くまの養子となり同三十一年家督を相続す

山田 卯助 家主 大阪府在籍 妻 イト 元治元、二生、養父助助長女 男 孝 治 明三一、四生、慶大經濟學士 女 孝 治 明三一、四生、長男孝治妻、大阪、和田半兵衛三女

當家は大阪に土着し代々古着問屋を營み資産を傳へたる舊家にして先代卯助に至り祖業を廢し兩替商を營めり君實は大阪府人山田卯兵衛の弟にして文久二年十一月を以て生れ明治二十三年先代卯助の養子となり家督を相続し前名淺次郎を改め襲名す家主たり家族は尙孫つむ(大一一、二生、長男孝治長女)同せよ(昭二、三生、同二女)同麻次(同四、四生、同長男)ありA八七四(大阪、南、安堂寺橋通四ノ五八電船場五九四)參照山田半兵衛、岡橋芳太郎、志方勢七の項

山田馬次郎 大倉ビルディング、昭和製作所各縣社長、大倉商會常務取締役、日本無線電信電話、佛國通商、大倉冷藏、日本共立火災保險、南部製鐵製造所各縣取締役、大倉製鋼所監査役、東京府士族 妻 孝 治 明八、六生、和歌山、宮本榮藏長 女 孝 治 明四〇、一生

君は和歌山縣士族森雅の二男にして明治三年八月を以て生れ先代正信の養子となり同四十五年家督を相続す同二十七年東京高等商業學校を卒業し現時大倉ビルディング昭和製作所各縣社長にして傍ら前記諸會社の重役を兼ね長女千鶴子(明四〇、一生、雙葉高女出身)は東京府人高橋辰次郎長男政一に嫁せりA四〇七五(東京市外千駄ヶ谷町四電青山二〇四四)參照山田高橋辰次郎の項

山田英太郎 日清生命保險取締役會長、東洋印刷監査役、日章火災海上再保

君は長野縣人市川確の三男にして明治十四年十一月を以て生れ先代貴之の養子となり同四十年家督を相続す夙に陸軍士官學校を卒業し明治三十六年陸軍騎兵少尉に任じ昭和五年陸軍少將に擧進す其間日露戰役に從軍し陸軍大學校を卒業し陸軍騎兵學校教官騎兵第二十六聯隊長朝鮮軍參謀本部課長陸軍大學校教官等に歴補し昭和五年八月騎兵學校教育部長に補せらるる家族は尙二女想子(大九、一生)二男二郎(同二一、四生)あり(東京市外井荻町上井草寺分一五三〇)

山田 馨 大阪商業取締役 妻 正 義 二男、現戸主 父 正 義 慶應三、八生、愛知、大橋喜八三 母 孝 治 明二九、三生、香川、高尾清吉四女

君は大阪府士族山田正義の長男にして明治十二年九月を以て生る。現時大阪商業取締役に任じ家族は尙二男大二(大二、一生)二女民(同六、三生)三女とよ子(同七、六生)四男耕平(同八、二生)四女濱子(同二〇、一生)あり弟正男(明二三、三生)は新潟縣人小泉武一の養子となり亡弟弘妻サタ(同一九、三生、新潟、前田惠隆二女)は其三子を伴ひ分家せり(東京市外井荻町高圓寺下屋敷五四一)

山田 學而 東洋電氣、東洋硝子各代表社員 東京府在籍 妻 なつ 明二七、七生、福井、門前彌兵衛 女 とし子 大四、三生

君は福井縣人山田彌右衛門の五男にして明治二十五年五月を以て生れ大正十年兄部方より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たりA二九四(東京市外西巢鴨町庚申線二四五電大塚一八九八)

妻 イチ 明三一、一〇生、青森、佐々木元...

山田銀太郎

大阪府會議員、山銀殖産工業株式...

山田九藏

京都商工會議所議員、丸居商店、...

山田國太郎

長野縣多額納稅者、製絲業...

山田敬亮 共保生命保險專務取締役、日本...

山田謙二 古河銀行本店營業部副長...

山田五三郎 大阪府在籍...

養父 山田 元治元、六生、現戸主...

山田藏三郎

醬油醸造業、愛知縣在籍...

山田桂輔

從五位勳六等、工學博士、地方技...

山田玄太郎

正四位勳三等、農學博士、鳥取高...

山田孝太郎 益田泰造、若松冷蔵各取締役、...

山田浩吉 横濱取引所取引員...

山田五三郎 大阪府在籍...

山田啓之助 大日本製氷糖副社長、鹿兒島製氷...

山田恵一 貴族院議員、香川縣多額納稅者、...

山田浩吉 横濱取引所取引員...

君は東京府人山田久の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年家督を相続す現に横濱取引所取引員たり家族は尙弟武城(明二九、三三)同妻アイ(同四二、三三)、群馬、加藤太郎(明二九、三三)及其二男ありA五三五B一九〇(横濱、中、南浦田四ノ七二電本局七九五)

山田 浩藏 辯護士
秋田縣士族
母 コノ 安政元、一生、祖父常之助長女
妻 ミツ 明二〇、四生、東京、太田昇平長女
男 鷹 夫 明四四、一〇生
女 温 明四二、一〇生

君は秋田縣士族山田幹の長男にして明治十年四月を以て生れ大正十三年家督を相続す現時辯護士たりA九三〇(大阪、東成、東桃谷町一ノ五八三三電天王寺八三六)

山田 耕作 三菱信託庶務部長
山形縣士族
妻 よし 明二二、四生、山形、瀬下亮長女
男 厚 明四一、九生
男 武 明四四、一一生

山田家は舊幕時代米澤藩主上杉家に仕へ五十騎組の一に數へられたる家柄なり君は先代武三郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す現に上京して政社土木科を卒業し元東京市街鐵道會社に技手たりしが同三十九年三菱合資會社に入り爾來同社地所部に勤務し果して同部庶務課長たりしも後三菱信託會社に轉じ現時同社庶務部長たり家族は尙三男英夫(大四、六生)二女和子(昭二、一〇生)あり長女孝(明三九、二生)は東京府人岡見千吉郎二男清二に嫁せりA四八八(東京市外濠谷町松濤四七電青山四三〇)

山田 耕作 日本交響樂協會代表者、作曲家
神奈川縣在籍
妻 菊 尾 明二五、七生、東京、村上新之茶長女
男 耕 一 大九、三生

君は神奈川縣人山田謙造の二男にして明治十九年六月を以て生れ大正六年兄謙雄方より分れて一家を創立す作曲家及指揮者として知られ著書多し昭和六年渡佛し

日本樂壇の爲氣を吐けり家族は尙長女美沙(大六、四生)二女日沙(同一五、二生)ありA一四〇(東京、京橋三十間堀二ノ一電銀座三四九〇)

山田 耕治郎 長岡貯蓄銀行、長岡銀行各監取給
妻 テツ 明四、八生、新潟、岡村實四女
男 麟之助 明二七、七生、早大商科出身、長岡銀行員
女 マサ 明三三、三生、長男麟之助妻、新潟、覺張義平妹

君は新潟縣人山田庄八の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治二十一年家督を相続す現時前記各銀行の重役たり家族は尙孫禮(大一〇、五生、長男麟之助長女)同延(同一四、一〇生、同二女)同潤一郎(昭三、一二生、同長男)あり長女敏(明二四、一二生)は新潟縣人松川第十郎に二女和(同三一、一二生)は同縣人八藤新吉に三女睦(同三六、二生)は同縣人石田友一に四女保(同三九、五生)は同縣人覺張友吉に五女富美(同四一、七生)は同縣人反町十郎に嫁し三男達三郎(同三四、三三)は分家せり(長岡、草津津町二九七電五三六)参照石田友吉、覺張義平の項

山田 耕平 大分縣多額納稅者、佐伯土地總代理、豊後土地各監取給、大分縣在籍
妻 サム 明三三、九生、養父耕平長女
男 喜 代 明四二、七生、長男保妻、大分、佐藤庄太郎長女
女 富 美 明三三、八生
女 ツツヤ 明四四、四生
女 スズ 大元、一一生

君は大分縣人中野巖の三男にして明治五年三月を以て生れ先代耕平の養子となり同四十二年家督を相続し前名門平を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして直接納稅千七百三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫禮子(昭三、一二生、長男保長女)同卓郎(同五、三三)

山田 毅城 新潟新聞社總理、主筆
新潟縣在籍
妻 田 鶴 明一八、六生、新潟、坂上五千八妹
男 耕 作 明三六、一二生
男 又 一 明四〇、六生
男 多 實 男 明四四、八生
女 多 實 子 大元、一一生

君は新潟縣人山田樟の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十四年家督を相続す現に新潟新聞社に入り爾來三十餘年同社に勤務す其間短歌の革新を唱導し雜誌を發行し又歌道及縣政に關する著書あり現時同社理事にして主筆たり尙新潟市史料調査委員として沙史に従ひ又民政俱樂部相談役佐渡郡人會長を兼ね家族は尙六男球城(大八、六生)あり(新潟市西大畑町五二一八)参照山田爲治郎の項

山田 權六郎 新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍

める舊家なり君は同族山田爲治郎の長男にして明治三十七年三月を以て生れ同三十九年先代定兵衛の養子となり家督を相続し前名定兵衛を改め襲名す現に慶應義塾に學び吳服商を營み前記各社に重役たり家族は尙長女擴子(大五、一一生)二女要子(昭三、九生)ありA二六〇(京都、中京、烏丸六角下ル七觀音六三五電本局三〇八)

山田 貞雄 明治製糖、明治商店各監取給役
東京府在籍
父 吉 藏 慶應三、九生、現戶主
母 ヲシ 明三三、一一生、新潟、福富半助姉
妻 フシ 明三三、一一生、新潟、村松顯藏長女
男 一 雄 大元、一一生

君は東京府人山田吉藏の長男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十四年東京高等商業學校を卒業し現時前記各社に重役たり家族は尙二男雄次郎(大五、一六生)長女夏子(昭四、六生)弟武之助(明三二、四生)同寛治(同三七、一一生)あり妹チヨ(同二四、一一生)は同縣人瀬良増五郎庶子倭喜太に嫁し弟龍三(同二六、一一生)は分家せり(東京市外馬込町清水三六六電本局二二五八)

山田 三太郎 昌光硝子監取給役、旭硝子監取給役、東京府在籍
妻 セツ 明二〇、三生、中原貞三郎長女

君は海軍中將山田彦八同直矢の弟にして明治三十年八月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十年東京高等工業學校を卒業し現に昌光硝子會社監取給役會長に推され又前記會社の重役を兼ねA八〇五八(東京、赤坂、青山南町六ノ八二電青山八六三)

山田 三良 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、常設仲裁裁判所裁判官、東京府在籍
妻 し げ 明一八、八生、靜岡、土、江川英武長女、八生、靜岡、土、江川英明四二、五生、雙葉高女出身

君は愛知縣人山田保造の三男にして明治十九年七月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして推されて知多商工會議所常議員たり兼に衣浦織布合資會社代表社員たりし事あり家族は尙二男幸一(大一一、一一生)三男壯三郎(同一五、五生)あり(愛知、知多、龜崎町)

山田 佐久 從四位勳三等、工學博士、海軍造船中將、東京府在籍

君は東京府人山田久の長男にして明治十六年十一月を以て生れ大正二年家督を相続す現に横濱取引所取引員たり家族は尙弟武城(明二九、三三)同妻アイ(同四二、三三)、群馬、加藤太郎(明二九、三三)及其二男ありA五三五B一九〇(横濱、中、南浦田四ノ七二電本局七九五)

山田 浩藏 辯護士
秋田縣士族
母 コノ 安政元、一生、祖父常之助長女
妻 ミツ 明二〇、四生、東京、太田昇平長女
男 鷹 夫 明四四、一〇生
女 温 明四二、一〇生

君は秋田縣士族山田幹の長男にして明治十年四月を以て生れ大正十三年家督を相続す現時辯護士たりA九三〇(大阪、東成、東桃谷町一ノ五八三三電天王寺八三六)

山田 耕作 三菱信託庶務部長
山形縣士族
妻 よし 明二二、四生、山形、瀬下亮長女
男 厚 明四一、九生
男 武 明四四、一一生

山田家は舊幕時代米澤藩主上杉家に仕へ五十騎組の一に數へられたる家柄なり君は先代武三郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す現に上京して政社土木科を卒業し元東京市街鐵道會社に技手たりしが同三十九年三菱合資會社に入り爾來同社地所部に勤務し果して同部庶務課長たりしも後三菱信託會社に轉じ現時同社庶務部長たり家族は尙三男英夫(大四、六生)二女和子(昭二、一〇生)あり長女孝(明三九、二生)は東京府人岡見千吉郎二男清二に嫁せりA四八八(東京市外濠谷町松濤四七電青山四三〇)

山田 耕作 日本交響樂協會代表者、作曲家
神奈川縣在籍
妻 菊 尾 明二五、七生、東京、村上新之茶長女
男 耕 一 大九、三生

君は神奈川縣人山田謙造の二男にして明治十九年六月を以て生れ大正六年兄謙雄方より分れて一家を創立す作曲家及指揮者として知られ著書多し昭和六年渡佛し

日本樂壇の爲氣を吐けり家族は尙長女美沙(大六、四生)二女日沙(同一五、二生)ありA一四〇(東京、京橋三十間堀二ノ一電銀座三四九〇)

山田 耕治郎 長岡貯蓄銀行、長岡銀行各監取給
妻 テツ 明四、八生、新潟、岡村實四女
男 麟之助 明二七、七生、早大商科出身、長岡銀行員
女 マサ 明三三、三生、長男麟之助妻、新潟、覺張義平妹

君は新潟縣人山田庄八の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治二十一年家督を相続す現時前記各銀行の重役たり家族は尙孫禮(大一〇、五生、長男麟之助長女)同延(同一四、一〇生、同二女)同潤一郎(昭三、一二生、同長男)あり長女敏(明二四、一二生)は新潟縣人松川第十郎に二女和(同三一、一二生)は同縣人八藤新吉に三女睦(同三六、二生)は同縣人石田友一に四女保(同三九、五生)は同縣人覺張友吉に五女富美(同四一、七生)は同縣人反町十郎に嫁し三男達三郎(同三四、三三)は分家せり(長岡、草津津町二九七電五三六)参照石田友吉、覺張義平の項

山田 耕平 大分縣多額納稅者、佐伯土地總代理、豊後土地各監取給、大分縣在籍
妻 サム 明三三、九生、養父耕平長女
男 喜 代 明四二、七生、長男保妻、大分、佐藤庄太郎長女
女 富 美 明三三、八生
女 ツツヤ 明四四、四生
女 スズ 大元、一一生

君は大分縣人中野巖の三男にして明治五年三月を以て生れ先代耕平の養子となり同四十二年家督を相続し前名門平を改め襲名す現時前記銀行會社の重役にして直接納稅千七百三圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫禮子(昭三、一二生、長男保長女)同卓郎(同五、三三)

山田 毅城 新潟新聞社總理、主筆
新潟縣在籍
妻 田 鶴 明一八、六生、新潟、坂上五千八妹
男 耕 作 明三六、一二生
男 又 一 明四〇、六生
男 多 實 男 明四四、八生
女 多 實 子 大元、一一生

君は新潟縣人山田樟の長男にして明治九年八月を以て生れ同三十四年家督を相続す現に新潟新聞社に入り爾來三十餘年同社に勤務す其間短歌の革新を唱導し雜誌を發行し又歌道及縣政に關する著書あり現時同社理事にして主筆たり尙新潟市史料調査委員として沙史に従ひ又民政俱樂部相談役佐渡郡人會長を兼ね家族は尙六男球城(大八、六生)あり(新潟市西大畑町五二一八)参照山田爲治郎の項

山田 權六郎 新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍

める舊家なり君は同族山田爲治郎の長男にして明治三十七年三月を以て生れ同三十九年先代定兵衛の養子となり家督を相続し前名定兵衛を改め襲名す現に慶應義塾に學び吳服商を營み前記各社に重役たり家族は尙長女擴子(大五、一一生)二女要子(昭三、九生)ありA二六〇(京都、中京、烏丸六角下ル七觀音六三五電本局三〇八)

山田 貞雄 明治製糖、明治商店各監取給役
東京府在籍
父 吉 藏 慶應三、九生、現戶主
母 ヲシ 明三三、一一生、新潟、福富半助姉
妻 フシ 明三三、一一生、新潟、村松顯藏長女
男 一 雄 大元、一一生

君は東京府人山田吉藏の長男にして明治二十一年三月を以て生れ同四十四年東京高等商業學校を卒業し現時前記各社に重役たり家族は尙二男雄次郎(大五、一六生)長女夏子(昭四、六生)弟武之助(明三二、四生)同寛治(同三七、一一生)あり妹チヨ(同二四、一一生)は同縣人瀬良増五郎庶子倭喜太に嫁し弟龍三(同二六、一一生)は分家せり(東京市外馬込町清水三六六電本局二二五八)

山田 三太郎 昌光硝子監取給役、旭硝子監取給役、東京府在籍
妻 セツ 明二〇、三生、中原貞三郎長女

君は海軍中將山田彦八同直矢の弟にして明治三十年八月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十年東京高等工業學校を卒業し現に昌光硝子會社監取給役會長に推され又前記會社の重役を兼ねA八〇五八(東京、赤坂、青山南町六ノ八二電青山八六三)

山田 三良 正三位勳一等、法學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授、常設仲裁裁判所裁判官、東京府在籍
妻 し げ 明一八、八生、靜岡、土、江川英武長女、八生、靜岡、土、江川英明四二、五生、雙葉高女出身

君は愛知縣人山田保造の三男にして明治十九年七月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして推されて知多商工會議所常議員たり兼に衣浦織布合資會社代表社員たりし事あり家族は尙二男幸一(大一一、一一生)三男壯三郎(同一五、五生)あり(愛知、知多、龜崎町)

山田 佐久 從四位勳三等、工學博士、海軍造船中將、東京府在籍

君は大阪府人山田元五郎の長男にして明治二十六年一月を以て生れ大正八年家督を相続す同年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し文官高等試験に合格直に鐵道院書記となり鐵道局副參事鐵道省事務官兼同參事官鐵道局副參事等に歴任し昭和四年鐵道局參事となり現時大阪鐵道局庶務課長たり大正十四年在外研究員として米獨に出張を命ぜらるる家族は尙長女愛子(大、一、一、一)二女正子(昭三、一、一)生あり(大阪、住吉、天王寺町二六二八鐵道官舎)

參照 田中一郎(京澤田小一郎の項)

山田新太郎

甲府商工會議所議員、山田商事代表取締役、山梨縣在籍

父 彌兵衛 嘉永四、六生

母 せい 安政二、八生、山梨、丸茂平兵衛

妻 ふみや 明二、五、三、山梨、堀内甚之次

男 克彦 大八、一〇生

女 由紀子 大八、一〇生

女 知子 大五、一〇生

君は山梨縣人山田彌兵衛の長男にして明治十八年十二月を以て生れ昭和五年家督を相続す現時山田商事代表取締役にして推されて甲府商工會議所議員たり家族は尙三女玉枝(大七、三、三)二男信彦(同一、八)生妹まつ(明二、四、一〇)生あり姉く(同八、九)生は山梨縣人矢島榮助に同く(同一、一、一)生は同縣人萩原吉美子吉治郎に同く(同一、五、九)生は同縣人大本喬策に妹(同一、一、二)生は宮城縣人若生繁吉に嫁せり(甲府、柳町七八電四四)

參照 大木喬策、丸茂平兵衛、矢島榮助の項

山田佑一

愛知貯蓄銀行、稻澤銀行各頭取、稲澤電燈社長、愛知産業銀行取締役、愛知縣在籍

妻 志津 明一、五、六、生、愛知、丹羽水次郎

養子 十一郎 明三、四、三、生

君は愛知縣人山田三郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続す現時實業界に入り現時愛知貯蓄銀行頭取の外前記銀行會社の重役たりA

一七三(愛知、中島、稻澤町)參照 山田十一郎の項

山田助作

新潟縣多額納稅者、中ノ口電氣鐵道取締役、農業、新潟縣在籍

妻 キイ 文久元、一、二、生、新潟、田中作平

養母 ミイ 明三、五、一、二、生、新潟、本間庄作

男 金次郎 大五、二、生

女 ムツ 明四、四、一、一、生

君は新潟縣人山田治郎の四男にして明治十九年二月を以て生れ先代平太郎の養子となり同四十三年家督を相続す同四十四年盛岡高等農林學校農科を卒業し爾來農業を營み傍ら前記會社の重役を兼ね直接國稅一萬七千八百七十七圓を納め縣下の多額納稅者たり農議院議員に推される家族は尙四女ヒロ(大八、一〇)生、六女イト(同一、二、八)生、七女ノリ(昭五、六)生、八女カズ(生年月同上)あり長女スマ(明四、三、三)生は新潟縣人竹内慎治に嫁せり(新潟、西蒲原、小吉村)

山田進

東京製鋼廠監査役、東京府士族

妻 レン 安政元、六、生、東京、岡田利兵衛

男 昌 明一、五、九、生、新潟、久須美東馬妹

女 智恵子 明四、二、二、生

女 大元、一、二、生

君は東京府士族山田昌邦の長男にして明治十一年七月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時實業界に入り現時東京製鋼廠監査役たり農に東北電化帝國特殊煉瓦東京リベット製造東京針金工業各會社取締役にして農に東京府士族(明一、六、六)生、福岡、大日方要助(庶子)及其二子あり妹君(同二、五、七)生は東京府士族宮部修に嫁せりA一四八(東京、芝、西久保廣町二五電六六一)

山田清吉

信美電力常務取締役、昭和電力信用地課長、大同電力理事、愛知縣在籍

妻 見年 明二、三、一、二、生、滋賀、三宅寅吉妹

君は福井縣人山田仙太郎の長男にして明治九年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す機業を營み傍ら前記諸會社の重役に擧げられ福井縣議員同縣多額納稅者にして直接國稅千二百六十八圓を納む上海及南滿地方を視察す家族は尙五男正義(大元、一〇)生、四女芳子(同七、一)生、孫千鶴子(昭三、四)生、長男身意長女(昭三、四)生、三女武子(明三、八、七)生は福井縣人河合繁に嫁せり(福井、今立、中河村)

山田善三郎

愛知縣多額納稅者、萬善、洋服仕立並羅紗商、愛知縣在籍

妻 しつを 明二、七、二、生、愛知、松本金太郎

男 一之輔 大元、八、生

君は愛知縣人山田善太郎の長男にして明治十四年四月を以て生れ同三十一年家督を相続す萬善と稱し洋服仕立並羅紗商を營み直接國稅二千六百二十一圓を納め愛知縣多額納稅者たり家族は尙二男憲三(大元、七)生、長女澄子(同六、五)生、三男史郎(同七、六)生、二女知恵子(同九、六)生、三女多賀子(同九、七)生、四女弘子(同一、一、三)生、四男輝治(同一、五、四)生、妹のぶ(明二、三、四)生、愛知、天野善四郎(二女)は其子女を伴ひ弟廣吉(同一、八、六)生は各分家し明隆治(大元、一、二)生、妹のぶ(私生子)は愛知縣人山田ささを養子となれり(名古屋、西、下長者町四ノ一電本局二八九三)

山田宗三郎

和泉銀行、和泉貯蓄銀行各頭取、大阪府在籍

妻 ヨシ 嘉永六、三、生、大阪、土、崎山重太郎長女、現戶主

男 庄一郎 大八、一〇生

君は北海道人荒川宗藏の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正三年山田ヨシの養子となる同年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し實業界に入り現時前記各銀

君は京都府人山田權兵衛の三男にして明治十九年一月を以て生れ大正十三年兄太一方より分れて一家を創立す同年慶應義塾法律科を卒業し現時昭和電力會社用地課長大同電力會社理事たる外前記會社の重役たり家族は尙二女澄江(大八、一〇)生、三女圭子(同一、一〇)生、三男與(同一、三、一〇)生、四女鏡子(同一、一〇)生、五女巴(昭二、一〇)生あり長女曾野(明四、五、四)生は京都府人柴田治右衛門の養子となれりA二五七(名古屋、中、白山町七四電南三四四五)

山田清二郎

大阪三品取引所第一部第二部取引員、第一部委員、商議員總代、大阪府在籍

妻 ヨネ 慶應三、九、生、滋賀、辻彌八三女

養子 眞 大元、一、一、生、弟三郎長女、府立大手前高女出身

君は大阪府人山田留吉の長男にして明治十九年十二月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時大阪三品取引所第一部第二部取引員第一部委員にして商議員總代たり家族は尙弟松太郎(明三、一、一〇)生、早大英文科出身、大阪高工講師、同妻敏子(同四、三、一)生、大元、池上徳三郎長女)及其一女弟留治郎(同三、三、一)生、同妻田鶴(同三、七、一〇)生、滋賀、辻政次郎長女)及其子女弟善治郎(同三、八、九)生、府立大手前高女出身)あり弟三郎(同二、一、一〇)生、同定治郎(同二、三、一)生、伊太郎(同二、六、一)生、大阪三品取引所取引員)は各分家せりA一九七九B四三二(大阪、東、安土町一ノ二三電本局一〇五一)

參照 池上徳三郎、萬谷徳松の項

山田清次郎

酒類商、愛知縣在籍

妻 たけを 明一、二、三、生、愛知、伊藤彌助長女

男 健助 明二、六、三、生

男 退助 明三、二、七、生、長男健助妻、大阪赤井鐵次妹

男 明三、一、二、生

男 明三、五、二、生、三男退助妻、愛知九野彌十郎長女

君は長野縣人先代莊左衛門の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正五年家督を相続し前名重平を改め名す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅六千二百六圓を納め長野縣多額納稅者に列し農に河東鐵道會社の重役たり家族は尙三男齊三郎(大元、三)生、弟費(明三、三、五)生、同莊三郎(同四、一、三)生あり姉のぶ(同一、一、一)生は同縣人山田理兵衛に妹鶴子(同三、五、一)生は長野縣人山田三雄に同く(同三、六、一)生、三輪田高女出身)は岐阜縣人安藤嘉七に同く(同二、八、二)生は東京府人安田善兵衛に嫁し同米子(同三、七、六)生は長野縣人木内ころの養子となり養子一衛(同二、五、七)生、長野、小林保衛弟)同妻みね(同三、一、五)生、長野、奥津長助妹)は其の一子を伴ひ分家せり(長野、下高井、平野村)

參照 八田彦次郎、安田善兵衛、入松三郎の項

山田莊左衛門

長野縣多額納稅者、長野温泉自動車、長野電鐵各頭取、農業、長野縣在籍

妻 いち 門長女、四、生、長野、鹽入治右衛門長女

男 顯五 大五、四、生

女 千代子 大四、一、生

君は長野縣人山田莊左衛門の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正五年家督を相続し前名重平を改め名す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅六千二百六圓を納め長野縣多額納稅者に列し農に河東鐵道會社の重役たり家族は尙三男齊三郎(大元、三)生、弟費(明三、三、五)生、同莊三郎(同四、一、三)生あり姉のぶ(同一、一、一)生は同縣人山田理兵衛に妹鶴子(同三、五、一)生は長野縣人山田三雄に同く(同三、六、一)生、三輪田高女出身)は岐阜縣人安藤嘉七に同く(同二、八、二)生は東京府人安田善兵衛に嫁し同米子(同三、七、六)生は長野縣人木内ころの養子となり養子一衛(同二、五、七)生、長野、小林保衛弟)同妻みね(同三、一、五)生、長野、奥津長助妹)は其の一子を伴ひ分家せり(長野、下高井、平野村)

參照 八田彦次郎、安田善兵衛、入松三郎の項

山田總一郎

氣球製作所總社長、和歌山縣士族

妻 キノ 慶應三、四、生、大阪、森田九兵衛

男 信一郎 大元、一、一、生

君は和歌山縣人山田猪三郎の長男にして明治三十一年九月を以て生れ大正三年家督を相続す現時氣球製作所社長たり家族は尙長女芳子(昭三、二)生、二女惠美子(同五、一)生あり姉まり(明二、四、五)生は鳥取縣人山田儀市に同く(同二、九、五)生は秋田縣人豊間謙助二男靖に妹富士子(同三、三、九)生は静岡縣人寺尾俊平に

君は愛知縣人伊藤伊六の三男にして元治元年九月を以て生れ先代又右衛門の養子となり明治十六年家督を相続す酒類商を營む家族は尙孫光光(大、一、三、七)生、三男退助長女)同隆子(昭三、一〇)生、同二女)ありA一〇四〇B八四(名古屋、東、駿河町三ノ二電東六九〇一)

山田清太郎

愛知縣多額納稅者、河内屋、呉服商、愛知縣在籍

妻 たい 明一、二、二、生、愛知、鈴木彌兵衛

男 清一 明四、三、七、生

君は愛知縣人山田鐵藏の二男にして明治七年一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す河内屋と稱し呉服商を營み愛知縣多額納稅者にして直接國稅一千八百九十圓を納む家族は尙二男正信(大元、一)生、三男重信(同一、〇、七)生あり長女やす(明三、二、五)生は愛知縣人山田八右衛門に嫁せり(名古屋、西、東萬町二ノ八二電本局三三〇五)

參照 山田八右衛門の項

山田清兵衛

晴庭堂、藥種商、東京府在籍

妻 悦子 明四、〇、二、生、東京、丹羽東一妹

男 勝彦 昭四、八、生

君は東京府人先代清兵衛の長男にして明治三十四年十月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名清吉を改め名す晴庭堂と稱し藥種商を營む家族は尙弟米三(明四、六)生、妹多嘉(大元、一)生、弟房治(同四、二)生、妹糸(同六、一)生あり弟淺吉(明三、六、六)生は東京府人早川清に妹八重子(同四、二、五)生は同府人山田辰之助に各養子となり同喜代(同四、〇、四)生は同府人山田平太に嫁せりA六五四B八四(東京、淺草、北松山町一電淺草二五〇二)

山田仙之助

福井縣會議員、福井縣多額納稅者、山田織物總代表取締役、福井縣在籍

父 仙太郎 嘉永三、九、生

母 さを 安政元、六、生、福井、辻本久右衛門二女

男 身意 明三、二、三、生

山田多計治 大阪機械製作所専務取締役

山田泰作 日本製鋼所専務取締役

山田大藏 大丸、旅館並刺業

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田隆昭 辯護士

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田爲治郎 山田商店、日本土地商事、大阪山

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田竹治 勲八等、東京府會市部副議長

山田正 靜岡縣在籍

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田足穂 北海道多額納稅者、東邦コンクリ

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田多計治 大阪機械製作所専務取締役

山田泰作 日本製鋼所専務取締役

山田大藏 大丸、旅館並刺業

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田隆昭 辯護士

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田爲治郎 山田商店、日本土地商事、大阪山

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田竹治 勲八等、東京府會市部副議長

山田正 靜岡縣在籍

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田足穂 北海道多額納稅者、東邦コンクリ

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田多計治 大阪機械製作所専務取締役

山田泰作 日本製鋼所専務取締役

山田大藏 大丸、旅館並刺業

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田隆昭 辯護士

山田隆二 正五位勲六等、鐵道技師、工務局

山田應治 勲七等、長崎縣多額納稅者、長崎

山田爲治郎 山田商店、日本土地商事、大阪山

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田竹治 勲八等、東京府會市部副議長

山田正 靜岡縣在籍

山田爲榮 日本勲業銀行理事

山田足穂 北海道多額納稅者、東邦コンクリ

山田爲榮 日本勲業銀行理事

を以て生れ同三十五年家督を相続す土木建築請負業を...

山田忠兵衛

青物乾物商 兵庫縣在籍 母 文久三、九生、兵庫、島崎藤介長女...

山田長左衛門

京都府多額納税者、丸岡山田長左衛門商店代表取締役、丸岡山田長左衛門...

山田貞吉

宮崎農工銀行取締役兼支配人 宮崎縣土族 母 シゲ 萬延元、九生、宮崎、大久保一父...

山田貞策

相馬千五郎代表取締役、全南殖産 日本産業各取締役、岐阜縣在籍...

山田鐵藏

鳥根縣多額納税者、農業 鳥根縣在籍 母 ヤウ 慶應二、一生、鳥根、遠藤嘉右衛門...

山田登代太郎

從三位勳二等、京都高等農林學校 長、新潟縣土族 母 トエ 長女、伴田啓次郎...

山田篤治

新潟市參事、新潟運送船務取締役、農種商、新潟縣在籍...

山田俊夫

山田錦林病院、醫師 京都府土族 母 と も 明一〇、四生、京都、土、奥田又...

山田藤吉

稲澤電燈事務所取締役、愛知貯蓄 銀行、稲澤銀行、稲澤製紙各監査...

山田東三郎

從三位、男爵 熊本縣華族 母 きよ 安政二、七生、茨城、土、關口熊...

山田德太郎

實給冷蔵社社長、鶏卵商 大阪府在籍 母 あき 明八、六生、大阪、淺本信次郎妹...

山田德兵衛

吉徳商店、織人形商 東京府在籍 母 知 惠 大正、一生、大阪府立清水谷高女...

君は愛知縣土族山田林之助の長男にして明治十年九月...

山田貞吉

君は宮崎縣土族山田英教の長男にして明治七年五月を...

山田貞策

君は岐阜縣人山田運四郎の長男にして慶應三年二月を...

山田鐵藏

君は鳥根縣人山田忠四郎の長男にして安政五年九月を...

山田登代太郎

君は新潟縣土族山田重務の長男にして慶應二年十月を...

山田篤治

君は京都府人先代德兵衛の三男にして明治二十九年五月...

山田俊夫

君は京都府土族山田五郎の長男にして明治二十五年十一月...

山田藤吉

君は愛知縣人先代藤吉の長男にして明治十二年三月を...

山田東三郎

當家は先代信通より家名を揚ぐ信通は舊熊本藩士にして...

山田德太郎

君は大阪府人山田庄助の長男にして明治四年一月を以...

山田德兵衛

君は大正四年一月を以て生れ同三十四年家督を相続す...

子(同三二、七生)は醫學博士木村辰三に同千枝子(同三五、一一生)は醫學博士佐々木宗一に同喜代子(同四一、五生)は滋賀縣人伊庭傳次郎に嫁せり(京都、左京聖護院西町一〇電上二二二)

山田敏行

山登商會、保險代理業
男 剛太郎 明三三、三三
妻 貞子 明四二、一、長男剛太郎妻、東
女 ユキ 明四〇、四生、聖心女子學院出身
君は舊津藩の重臣山田誠の二男にして明治七年四月を以て生れ同十九年家督を相続す同十八年慶應義塾を卒業し直ちに日本銀行營業局に入り後十五銀行に轉じ又日本火災保險會社に入り大に貢献する處あり次いで第一火災海上再保險會社を創立し其取締役となりしも現時代理業山登商會を經營す三女キミ(明三五、一、生)、聖心女子學院出身)は東京府人吉田益之助に嫁せり(東京市外東調布町田園調布五八五電田園調布一五七)

山田留次郎

岐阜商工會議所常議員、奈良屋本店、菓子商、岐阜縣在籍
男 富久三 明三七、一、生
孫 道子 明四四、三、生、亡長男中三長女
孫 富美 大二、一、生、亡長男中三三女
孫 八重子 大四、八、生、亡長男中三三女
君は政卓縣人先代留次郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同二十七年家督を相続し前名留三郎を改め號名す奈良屋本店と稱し菓子商を營み現時岐阜商工會議所常議員たり長女ちやう(明二〇、一、生)は北海道入富田繁藏に三女しげ(同二三、三、生)は岐阜縣人長谷虎吉長男助松に五女ひで(同三〇、一〇、生)は同縣人河合幸太郎弟善吉に嫁せり(岐阜市今小町四〇電六七)

山田留治郎

日本クロス工業、ナフトール、大阪合同各機取給役、大阪府在籍
妻 シャウ 明二二、一、生、大阪、長谷川善吉
君は滋賀縣人山田善八の二男にして明治十五年四月を以て生れ同四十三年分れて一家を成す少壯京都市早田染料商店に入り同四十五年獨立して山田染料商店を開

山田直一

旭硝子硝子工場長、東京府在籍
妻 妙子 明二八、七、生、東京、櫻井基夫姉
男 直明 大一、五、一、生
君は東京府土族山田直の長男にして明治二十一年六月を以て生れ同三十七年家督を相続す大正三年京都市帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し旭硝子工場に入り同社山田工場副長を経て現時旭硝子工場長たり義に米國及白耳義に出張す家族は尙二男正明(昭二、七、生)長女文子(同四、一、生)あり妹成(明三〇、八、生)は京都府人岩瀬龍太郎に嫁せり(尼崎、別所村八三二、二)

山田直矢

從六位、工學博士、北海道炭礦汽船取給役、三井名譽參事、東京府在籍
妻 久 慶應二、六、生、工學博士大島道太郎妹
男 武雄 明二六、一、生、經濟學士、三井物産會社員
妻 ユリ 明三二、七、生、長男武雄妻、子爵實吉安純二女、學習院女學部出身
男 文雄 明三二、二、生、從七位、經濟學士京城帝大助教
妻 ミヨ 明三四、一〇、生、二女文雄妻、子爵實吉安純三女、學習院女學部出身
男 兼雄 明三五、四、生
男 常雄 明四二、一、生
女 ふじ子 明四四、二、生
君は後備海軍中將山田彦八の弟同三太郎の兄にして萬延元年三月を以て生れ明治三十五年分れて一家を創立す同十八年東京大學工學部探礦冶金學科を卒業し同二十七年同大學教授に任ぜられ同三十二年工學博士の學位を受く後三井礦山會社に入り三池炭礦の經營に従事し次で石狩石炭會社取締役會長北海道製紙會社社長等を経て現時前記各會社の重役たり家族は尙孫伸雄(大八、六、生、長男武雄長男)同昌子(同一、九、生、同長女)同葉子(昭二、七、生、同二女)同健兒(大一一、三、九、生、二男文雄長男)あり二女アル(明二九、四、生、跡見女學校出身)は東京府土族山口堅吉に三女澄(同三八、九、生、御茶の水高女出身)は同府人杉原雄吉に嫁せりA一〇九

設立爾來經營十數年大正十一年同志と謀り大阪合同會社を創立して其專務取締役となる現に前記各會社の重役たりA二九六八(大阪、東、北久寶寺町一ノ四二電船場二四五)

山田友次郎

兩國運送店、運送業、東京府在籍
妻 たま 明三、一、生、千葉、小林眞鐵妹
君は山梨縣矢島家の出にして明治十四年二月を以て生れ後山田泰助の養子となり昭和四年家督を相続す大正四年明治大學法律科を卒業し兩國運送店を經營し運送業を營むA一二二B三九二(東京、本所、東兩國一ノ三ノ一電本所一三三七)

山田豊三郎

南海銀行取給役、紀勢運輸租運監査役、和歌山縣在籍
妻 あきよ 明四、一、生、和歌山、安阪國平長女
男 龍一 明三三、二、生
妻 ヲツヤ 明三九、一、生、二男龍一妻、三男ヲツヤ、日浦孫助長女
君は大阪府人中谷豊吉の三男にして慶應三年十二月を以て生れ明治十九年先代作藏の死後養子となり家督を相続す現時前記銀行會社の重役にして義に宇野製粉所瀨尾商店各監査役たりしことあり家族は尙孫浩世(大一一、一、生、二男龍一長女)同寄世(昭五、二、生同二女)あり(和歌山、東牟婁、新宮町電二〇七)

山田虎夫

正四位勳二等功三級、陸軍中將、愛知縣土族
妻 サヰ 明一二、二、生、愛知、土、野田妻綱長女
男 英男 明三二、八、生、正七位陸軍歩兵大尉陸軍大學校在學
男 榮子 明四二、四、生、長男英男妻、東京副島茂二女
女 廣子 明四二、三、生
君は愛知縣土族加藤喜左衛門の三男にして明治二年七月を以て生れ先代忠の養子となり同六年家督を相続し前名寅吉を改む同二十五年陸軍歩兵少尉に任じ陸軍中將に昇進す其間臺灣守備混成第一旅團副官歩兵第八聯隊大隊長同第二十五聯隊長同第二十八旅團長熊本第七六(東京、小石川、水道端町二ノ四八電小石川二七二)

山田忍三

正六位勳六等、陸軍歩兵少佐、白木屋專務取締役、自動車投資會社、山口縣在籍
妻 明 明四、一、生、養父隆一長女
男 明 明四、一、生
君は山口縣人浪山眞成の四男にして明治十八年十二月を以て生れ先代隆一の養子となり大正八年家督を相続す夙に軍籍に入り果して同十三年陸軍歩兵少佐に任ぜられ豫備役仰付らる現時白木屋專務取締役の外前記會社の重役たり(東京、麹町、中六番町五二電九段三四八九)

山田縫次郎

殖林業及薪炭材木商、京都府在籍
妻 く 明八、一〇、生、養父義右衛門長女
男 弘 明三九、六、生、三男弘妻、京都、石正辰次郎五女
男 良平 明三四、一、生
男 定之 明三八、一、生、京大在學
君は京都府人入見武助の二男にして明治元年四月を以て生れ先代義右衛門の養子となり同二十七年家督を相続す殖林業及薪炭材木商を營む家族は尙六男實(大八、五、生)ありA九九七(京都、中京、二條千本西入ル電西陣四五七七)

山田信昌

十二銀行、第三信託各機取給役、富山縣土族
妻 とみ 明二、一〇、生、富山、加藤直道三女
男 昌作 明二三、三、生
男 ヒサノ 明二九、四、生、長男昌作妻、富山古川小三郎長女
君は富山縣土族山田平兵衛の長男にして安政元年四月を以て生れ明治三年家督を相続す現時十二銀行取締役

六師團長等に應補す大正十二年豫備役仰付けらる長女富美(明三六、七、生)は愛知縣人伊東宗男に嫁せり(名古屋、中、御器所町字吹上二〇ノ一電南三〇一一)

山田虎次郎

紀陽銀行、紀伊貯蓄銀行各機取給役、和歌山縣在籍
妻 喜久 明三三、八、生
男 孫一 明三八、八、生
男 武二 明四一、三、生
男 謙三 明四四、四、生
男 登喜子 明三三、八、生
君は和歌山縣人山田孫兵衛の二男にして明治十一年五月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時紀陽銀行取締役たる外前記銀行の重役たり家族は尙四男登四夫(大六、一、生)二女和子(同九、九、生)五男五郎(同一、四、一、生)あり(和歌山、今福町一六六電九一一)

山田寅次郎

東洋錫紙專務取締役、國際商事取給役、東京葉煙草監査役、大阪府土族
妻 タミ 明一五、四、生、大阪、中村久兵衛孫
男 長守 明四一、三、生
女 富士子 明三四、七、生、相愛高女出身
女 長敏 明四二、一〇、生
女 三保子 大五、五、生
君は舊上州沼田藩老中村莞爾の二男にして慶應二年八月を以て生れ明治十三年茶道宗嗣流の宗家山田宗壽の養子となり家督を相続す横濱英和學校に學び新聞記者たりし事あり同二十三年土古軍艦エルトロール號紀州沖に沈没の事あるや率先して義捐金を募集し之を携へて土古國を訪問同國皇室の優遇を受け勳章を授けらるる事二回に及び尙是を機として同國に止まる事十八年其の間巴爾幹並に波斯埃及露國等の國情を探る事東歐貿易を開始す現時東洋錫紙會社專務取締役たる外前記各會社の重役にして又日土貿易協會理事長日通貿易協會理事たり茶事俳句古學を修め「土古畫觀」「山田宗傳」の著あり家族は尙三男博道(大二、六、生)ありA四七六(大阪、東、内淡路町二ノ三〇電東一六七)参照 中村健次郎の項

山田寅次郎

正五位勳五等、臺灣總督府技師、殖産局勤務、岩手縣在籍
妻 安 明二九、三、生、陸軍中將首藤多喜馬妻妹
男 一彦 大一、二、一〇、生
君は岩手縣人山田學治の三男にして明治十八年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し同四十四年臺灣總督府農事試驗所技師となり大正三十四年同府技師となり同十五年臺灣總督府技師に任ぜられ昭和二年より同年間歐米各地東亞弗利加及南米に出張す現時殖産局勤務にして義に東部農産試驗場長を兼ねる家族は尙長女美世子(大九、一、生)二女惠美子(同一〇、三、生)三女喜美子(生年月同上)四女伊代子(同一四、一〇、生)二男洋郎(昭二、九、生)あり(臺北、大正町二ノ八)参照 首藤多喜馬岩瀬瀨車之佐中屋良雄の項

山田拍探

正五位勳五等、臺灣總督府技師、殖産局勤務、岩手縣在籍
妻 安 明二九、三、生、陸軍中將首藤多喜馬妻妹
男 一彦 大一、二、一〇、生
君は岩手縣人山田學治の三男にして明治十八年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治四十三年東北帝國大學農科大學農學科を卒業し同四十四年臺灣總督府農事試驗所技師となり大正三十四年同府技師となり同十五年臺灣總督府技師に任ぜられ昭和二年より同年間歐米各地東亞弗利加及南米に出張す現時殖産局勤務にして義に東部農産試驗場長を兼ねる家族は尙長女美世子(大九、一、生)二女惠美子(同一〇、三、生)三女喜美子(生年月同上)四女伊代子(同一四、一〇、生)二男洋郎(昭二、九、生)あり(臺北、大正町二ノ八)参照 首藤多喜馬岩瀬瀨車之佐中屋良雄の項

山田

日東スレート代表取締役、小濱製糖各機取給役、福島縣土族
妻 富衛 明四〇、三、生
男 匡藏 明四三、四、生
男 千代 明四三、四、生
君は福島縣土族山田信の長男にして明治八年十二月を以て生れ大正十年家督を相続す明治二十六年慶應義塾正科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり義に第百七

銀行只見川水力電氣會社各取締役二本松銀行監査役に就任す家族は尙姉タカ(明六、三)同夫宗三郎(同三、一)生、福島、土、梅原親周弟)及其子女あり長女貞(同三、七、一)生は福島縣人伊藤織に嫁セツ(同二、四、六)生、養兄宗三郎長女)は宮城縣人窪田尙に嫁し弟省吾(同二、五、八)生は同縣人藤崎源六の養子となれり(福島、安達、二本松町)
參照 伊藤織、堀切善兵衛、瀨川瀨作兵衛、堀切善次郎、渡邊又四郎の項

山田八右衛門

瀨戸電氣鐵道監査役、ゴム製品商、愛知縣在籍
妻 ヤサ 明三、三、三、愛知、山田清太郎
長女 明三、三、三、愛知、山田清太郎

君は愛知縣人先代八右衛門の長男にして明治二十六年七月を以て生れ大正三年家督を相続し前名拾吉を改め襲名すゴム製品商を營み傍ら瀨戸電氣鐵道會社監査役たり家族は尙長女玉江(大、一、一、三)生、二女房江(同二、一、三)生あり養姉しげ(明、一、一、三)生、愛知縣人櫻井清三郎の母たり(大、一、一、五、九、一、三、八)名古屋、東、大曾根町一五〇(電七七一)
參照 櫻井清三郎、山田清太郎の項

山田初治

山初商店代表取締役、長郷組監査役、玩具商、東京府在籍
妻 ム 明九、一〇、一〇、東京、長郷儀八姉
長女 明三、九、一〇、東京、長郷儀八姉

君は福井縣人山田四郎吉の五男にして慶應元年七月を以て生れ明治二十二年弟由松方より分れて一家を創立す玩具商を營み山初商店代表取締役にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙孫治(昭四、一、一、一)生、長男洋長男あり長女静子(明三、七、六)生は神奈川縣人鈴木忠治長男三千代に三女信子(同四、四、五)生は東京府人鈴木新兵衛弟新助に嫁せり(大、一、一、五、六、一、〇)東京、日本橋、横山町一ノ二(電漢花一〇三一)
參照 鈴木三郎助、鈴木三千代、鈴木忠治、鈴木六郎の項

山田初治郎

大阪株式取引所短期取引員、福井縣在籍
妻 をりう 明二、八、一〇、生、福井、大村敬太
長女 明二、八、一〇、生、福井、大村敬太

君は福井縣人小林和三郎の孫にして明治十二年二月を以て生れ先代藤四郎の養子となり同三十七年家督を相続す現時大阪株式取引所短期取引員たり山田商事會社取締役たりし事あり家族は尙養姉そで(安政四、七)生あり(大、四、六、八、六、五)大阪、北、紅梅町四電本局三五七〇

山田春通

正五位勳四等、檢事、川越區裁判所檢事、福島縣在籍
母 ヲ 嘉永五、九、九、生、福島、土、桑原積
長女 明一、八、四、生、奈良、土、梨羽俊

君は福島縣人山田忠夫の長男にして明治八年十二月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十九年京都帝國大學法科大學法律科を卒業し同四十二年檢事に任じ同四年山田酒田大館飯田上田長野區同地方各裁判所檢事に任じ同四年現職川越區裁判所檢事に任ぜらるる家族は尙三男國和(大、八、二)生、三女淑子(同九、九)生あり弟徹郎(明一、三、一)生、同妻ハナ(同三、三、一)生、福島、齋藤武郎妹)は其子女を伴ひ弟盤藤(同二、一、一〇)生、同妻キキ(同三、〇、一)生、福島、水竹善太郎長女)は各分規し妹(同、一、一、一)生、は茨城縣人石川俊に嫁し二男勇夫(大、六、五)生、は奈良縣人梨羽ロクの養子となれり(川越、宮下町倉町)

山田半次郎

陶器商、東京府在籍
妻 いし 慶應二、一、二、生、東京、尾崎治助
長女 明一、九、九、生

君は陶器商山田半次郎の長男にして明治二十二年三月を以て生れ先代弘毅の養子となり同二十八年家督を相続し前名繪二郎を改め襲名す同三十九年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同三十九年陸軍二等軍醫に任じ大正六年陸軍省醫務總監に累進す其間陸軍省醫學校教官豊橋衛戍病院長陸軍省醫務局長等第十二第一各師團軍醫部長朝鮮軍醫局長陸軍省醫務局長等に任じ昭和三年豫備役に編入さる明治四十四年醫學博士の學位を授けらる(東京市外中野町四〇九八電四谷一五三〇)

山田弘倫

從三位勳二等功四級、醫學博士、陸軍省醫務總監、岡山縣在籍
妻 ノフエ 基賢養子
長女 明一、二、一、一、生、東京、土、御牧

君は岡山縣人山田真一の子にして明治二年三月を以て生れ先代弘毅の養子となり同二十八年家督を相続し前名繪二郎を改め襲名す同三十九年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同三十九年陸軍二等軍醫に任じ大正六年陸軍省醫務總監に累進す其間陸軍省醫學校教官豊橋衛戍病院長陸軍省醫務局長等第十二第一各師團軍醫部長朝鮮軍醫局長陸軍省醫務局長等に任じ昭和三年豫備役に編入さる明治四十四年醫學博士の學位を授けらる(東京市外中野町四〇九八電四谷一五三〇)

山田復之助

工學博士、古河鐵業取締役、古河理學、東京帝國大學工學部講師、東京府在籍
母 ヲ 安政元、一、一、生、徳島、大類養長
長女 明二、四、一〇、生、京都、小野政吉

山田家は舊讃岐高松藩譜代の臣にして代々醫を以て仕ふ先代純安風に宗家より分れて一家を創立し英國に留學して鐵山學を修むる事數年歸朝後古河家に招かれて院内鐵山所長に擧げらる古河家の柱石にして我國鐵山學界の權威たり君は其長男にして明治十三年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十五年東京帝國大學工學部探査冶金科を首席にて卒業し直に古河家に入り鐵山所長となり米獨逸各國に遊學す歸朝後足尾銅山に勤務し大正七年古河鐵業會社の創立せらるるにや入りて鐵山所長となり同十年取締役に擧げられ現在に及ぶ先是同九年工學博士の學位を授けられ母校東京帝國大學工學部講師を囑託せらる(明一、六、六)生は北海道工學士今井長治に同ノブ(同二、三、二)生、東京女學館出身)は東京府人小倉陽吉に嫁せり

山田彦八

正三位勳一等功三級、海軍中將、東京府在籍
妻 ミネ 慶應元、一、一、生、鹿兒島、土、種子
長女 明三、五、四、生、法學士、三十四銀行員

君は鹿兒島縣人山田有庸の長男にして侯爵大久保利武伯爵野仲大久保利賢の從兄なり安政二年二月を以て生れ明治二十六年家督を相続す同十一年海軍兵學校を卒業し同四十二年果進して海軍中將に陞る其間天城天龍岩手朝日各艦隊長第三艦隊司令官旅順橫須賀各鎮守府司令官の要職に歷補し日清戰役に活躍し功績を擧げて功三級金功勳章を賜はるる家族は尙妹クラ(安政四、一)生あり二女幾(明二、三、一)生、は奈良縣人今村奇男に三女竹(同二、六、一)生、は鹿兒島縣人竹内實敏に四女トミ(同二、七、三)生、は東京府人佐藤一に五女福(同三、二、九)生、は大府人理學士香妻直路に嫁し弟直矢(萬延元、三)生、工學博士)同三女郎(明三、八)生は

山田房吉

川越貯蓄銀行取締役、第八十五銀行監査役、埼玉縣在籍
妻 みつ 明二、一、一、二、生、埼玉、橋本三九郎姉
長女 明二、一、一、二、生、埼玉、山口正興

君は埼玉縣人山田平左衛門の長男にして明治十六年七月を以て生れ大正二年家督を相続す現時前記各銀行の重役にして義に武州商會社重役たり家族は尙二男泰資(大、三、三)生、五男達雄(同九、一)生、四女郁子(昭二、四)生、弟芳三(明二、七、一)生、同妻巴(同二、七、九)生、及其三子あり妹登與(同三、一、七)生、は埼玉縣人繁田武平長男誠一に嫁せり(埼玉、入間、大田村)
參照 繁田武平、橋本三九郎、伊藤長三郎の項

山田文慈

北樺太石油取締役、新潟縣在籍
妻 イシ 文久元、二、二、生、新潟、樋口義近長女
長女 明二、〇、四、生、新潟、荒木助太郎

君は新潟縣人山田治禮の長男にして明治十一年八月を以て生れ同四十四年家督を相続す同三十四年東京高等工業學校機械科を卒業し現時北樺太石油會社取締役たり家族は尙二男文雄(大、三、三)生、三男利雄(同六、一)生、四男貞雄(同九、二)生、二女マサ(同三、一、一)生、弟金男(明二、一、二)生、同妻信乃(同三、二、一)生、新潟、清水源藏五女)及其三女あり長女かをり(同四、一、六)生、神奈川縣立高女出身)は群馬縣人赤堀惠助弟英三に妹ミネ(同、一、一、〇)生、は新潟縣人宮本實成弟眞三に妹キキ(同二、一、二)生、は同縣人北川永太郎二男清治郎に同キキ(同二、六、四)生、は秋田縣人金澤忠作甥茂助に嫁せり(大、九、一、五)横濱、鶴見、鶴見町三三六電鶴見四八

山田英夫

從三位勳三等功五級、伯爵、陸軍歩兵中佐、東京府華族
妻 眞 明二、〇、一、二、生、子爵柳澤光治姉
長女 明四、二、一、〇、生、從五位

山田彦兵衛

不易糊工業代表取締役、墨並繪具商、大阪府在籍
妻 ヲネ 明元、一、一、生、大阪、足立市兵衛
長女 明元、一、一、生、大阪、足立市兵衛

山田文七

村銀行常務取締役、村瀨貯蓄銀行、鶴沼銀行各取締役、稻澤電燈監査役、愛知縣在籍
妻 こと 明九、一、二、生、愛知、土、村井高
長女 明九、一、二、生、愛知、土、村井高

妻 つた 明三三、三三、養父文七三女
男 明三、四生

君は岐阜縣人平光孝松の二男にして明治三十年十一月を以て生れ先代文七の養子となり大正十年家督を相続し前名悦二郎を改め悦三と現時村瀬銀行常務取締役たる外前記銀行會社の重役たり家族は尙長女ふみ(大八六生)二女ふみ(同一二、八生)三男東作(昭五、二生)あり(愛知、中島、稻澤町電一七)

山田 平吉 地主
妻 あさ 明一、一〇生、養父平吉長女
男 平八郎 明四〇、一七生
女 芳子 明三八、一七生

君は兵庫縣人樋口吉平の四男にして明治五年一月を以て生れ先代しげの養子となり前名山田を改め同四十二年家督を相続す地家主たり家族は尙二男義夫(大八、一八生)あり長女千代(明三〇、二生)同夫正隆(同二五、八生)兵庫、八木鶴松(二男)は其子女を伴ひ分家せりA一九二九B一〇四(神戸、東川崎町四ノ七一電兵庫二〇一六)

山田 平次郎 東京府在籍
妻 はな 明一五、八生、東京、西田清七長女
男 信也 明三三、一〇生
女 ノブ 原政吉長女

君は新潟縣人山田佐藏の二男にして明治四年八月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す吳服卸商を営む家族は尙二女和子(大一〇、一〇生)孫まさ子(同一四、A一二三B四三六東京、神田、岩本町三〇電漢方四七〇四)

山田 正隆 從四位勳四等、九州電氣軌道、筑豊電氣軌道各務取締役
妻 コウ 明二、七生、和歌山、山本勝之助長女
男 嘉夫 明四三、三三

君は和歌山縣人山田豊補の三男にして明治十五年七月を以て生れ大正八年兄長彌方より分れて一家を創立す明治四十年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し直に帝國鐵道に奉職し爾後引續き鐵道院工務課に勤務し大正四年以來東部鐵道管理局東京改良事務所及總務官房勤務を経て大正八年英米兩國へ留學す歸朝後本省工務局神戸門司鐵道局下關改良事務所勤務を経て神戸改良事務所長となりしが現時職を辭し實業界に入り前記各會社の重役たり家族は尙長女陽子(大九、三三)二男慎治(同一二、七生)三男毅(昭二、三三)四男博(同四、一〇生)ありA一七〇〇(福岡市荒戸町六三電二四七)

山田 正年 勳四等、富山縣多額納稅者、富山紡績株式會社取締役、石川縣在籍
妻 かね 明一六、一〇生、富山、小澤與三妹

君は富山縣人山田正景の長男にして明治十二年四月を以て生れ同三十四年家督を相続す酒造業を営み傍ら富山紡績株式會社取締役に直接間接三千五百八十八圓を納め富山縣多額納稅者に列し兼に衆議院議員に當選すること二回日獨戰爭の功に依り勳四等に敘せらる長女眞知子(明三三、六生)は富山縣人大間知喜一郎に二女(同三六、一〇生)は同縣人赤間徳壽弟秀徳に四女(同四四、五生)は同縣人南日實弟凱夫に嫁せり(富山、東郷、福野町)

山田 正徳 從四位勳四等、檢察、青森地方裁判所檢察正、茨城縣士族
妻 しづ 明一、七生、徳島、蜂須賀喜彰叔母
女 トヨ 明一、二生、徳島、蜂須賀喜彰

君は茨城縣士族山口正義の長男にして明治七年十月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治三十三年東京帝國大學法科大学英法科を卒業し同三十五年檢察所に任じ神戸地方裁判所檢察事に補せられ爾來本區大阪地方各裁判所檢察事大阪控訴院檢察事奈良地方同區山田區同時區各裁判所檢察事名古屋控訴院檢察事宮崎徳島各地方裁判所檢察正等に歴補し昭和二年青森地方裁判所檢察事に轉じ今日に至る(青森市青森地方裁判所官舎)

山田 政二 京都府在籍
妻 さな 明二、二生、福井、稻垣藤助長女
男 嘉一郎 明二四、八生
女 フク 明三〇、二生、長男嘉一郎妻、京都府人山田政七の長男にして文久三年十月を以て生れ明治二十三年家督を相続す稻垣大阪商店と稱し絹布卸商を営む家族は尙孫政雄(大一一、一〇生)長男嘉一郎(長男)あり長女キキ(明二八、一〇生)は京都府人津田幸之助に三女キキ(同三四、一〇生)は福井縣人永井四郎に妹トミ(同一六、三三)は京都府人藤原貞藏に嫁し二男眞三(同二六、九生)同妻トミ(同三四、三三)京、京都、大角時光妹)は其子女を伴ひ分家し三男眞三(同四四、一〇生)二女ヨシ(同三〇、一〇生)も各分家せりA一三三四B五〇一(大阪、東、南本町二ノ二電船場七五五)

山田 又治郎 山又機業株式會社取締役、清水商店監査役、石川縣在籍
妻 とめ 明三〇、九生、石川、三森虎吉三女
男 秀司 明四三、八生
女 愛子 大三、一〇生

君は新潟縣人山田清興の四男にして明治十三年一月を以て生れ同三十九年山田寅吉より分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙二女佳壽子(大一一、一〇生)三女知子(昭二、二生)四女惠美子(同四、二生)あり(石川、江沼、大聖寺町)

山田 道兄 正五位、衆議院議員(岐阜縣選出)
妻 ハツミ 明一七、一〇生、小關渡次郎長女
男 吉彌 明四七、一〇生
女 あや 明四二、二生

君は岐阜縣人山田房吉の長男にして明治十三年九月を以て生れ同四十一年家督を相続す同四十年早稲田大學政治經濟科を卒業し扶桑新聞社筆東京毎日新聞讀賣新聞各記者たりしが後民友通信社を創設し其社長となる大正十三年以來衆議院議員に當選する事三回現に立憲民政黨に屬し昭和四年農林參事官に任ぜられ同六年退官す長女みち(明四〇、一〇生)は東京府人岡村二郎に嫁し養子豊作(同二九、八生)岐阜、山田菊藏(六男)同妻高惠(同三七、七生)岐阜、恩田龜之助(二女)は共に分家せり(東京市外濠谷町常盤松一四電青山三三三八)

山田 又司 衆議院議員(新潟縣選出)、日本金業會社理事、北越産業株式會社社長、日蘭公司中央證券取引所、由利炭礦、北越製鐵所各取締役、長岡鐵道、米新商店各取締役、鐵業
妻 きやう 明三、五生、兵庫、福田藤四郎長女
男 明三、五生、兵庫、西村重義妹
女 かすみ 明二九、一〇生、兵庫、西村重義妹

君は兵庫縣人山田常太郎の長男にして明治二十四年八月を以て生れ先代ときの養子となり後家督を相続す貿易商を営み前記會社の重役たりと見え(明三七、一〇生)は分家せり(神戸、羽坂通三ノ六二電漢川四六六七)

山田 萬里四郎 東京煉瓦株式會社取締役
妻 きやう 明六、七生、東京、中山讓治長女
男 萬喜男 明三一、九生
女 文代 明四三、一二生、長男萬喜男妻、

君は宮城縣人現山田周吉の弟にして明治十七年十月を以て生れ大正五年東京帝國大學法科大学法科を卒業し味噌醬油醸造販賣業を営み傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙長女とし子(大七、八生)二女愛子(同一〇、五生)三女千枝子(同一三、一〇生)あり(仙臺、掃部町五電一八八七)

山田 光雄 正五位勳四等、東北帝國大學教授、理學部勤務、北海道在籍
妻 久子 明三六、六生、東京、浦口善爲二女、聖心女子學院出身

君は富山縣人山田正景の長男にして明治十二年四月を以て生れ同三十四年家督を相続す酒造業を営み傍ら富山紡績株式會社取締役に直接間接三千五百八十八圓を納め富山縣多額納稅者に列し兼に衆議院議員に當選すること二回日獨戰爭の功に依り勳四等に敘せらる長女眞知子(明三三、六生)は富山縣人大間知喜一郎に二女(同三六、一〇生)は同縣人赤間徳壽弟秀徳に四女(同四四、五生)は同縣人南日實弟凱夫に嫁せり(富山、東郷、福野町)

山田 茂助 京都府多額納税者、京都商工會議所議員、生絲商、京都府在籍
 妻 安政五、八生、京都、勝見伊助三女
 長女 明一七、二生、京都、平尾孫七
 養子 就 將 明三二、三生、長女福子夫、京都
 女 福子 明三五、一〇生、養子就將妻
 女 小五 明四四、七生

君は京都府人服部文造の三男にして明治十四年三月を以て生れ先代茂助の養子となり同三十七年家督を相続し前名喜三郎を改め養子生絲商を督み京都府多額納税者にして直接納税一萬五百六十二圓を納め又推されて京都商工會議所議員たり家族は尙孫喜代江(大一四八生、養子就將長女)同幸代(昭二、四生、同二女)同進一(同四、四生、同長男)あり(京都、上京、大宮今出川上九郎町一三四電話西陣一六)

山田 元次郎 板前子商 大阪府在籍
 妻 明一七、一一生、大阪、山田龜治
 男 元一 明四〇、一一生、現戸主
 女 モトエ 明四二、九生
 男 元次 明四四、三生

君は和歌山縣人碓磯の養父にして明治七年六月を以て生れ同三十六年山田チウの夫となる板前子商を督む家族は尙三男元三(明四五、三生)四男元四(同二六、六生)あり長女イト(明三六、一一生)は同夫守(同四一、二生、三重、松宮磯一弟)と共に分家せりA四一八〇B三六七(大阪、南、順慶町通四ノ四八電話三三七) 参照 山田修一の項

山田 安民 東亞公司監査役、胃活及ロート目薬本舖、製菓業、奈良縣在籍
 妻 安政三、三生、奈良、藤村熊次郎姉
 男 輝 郎 明二七、一一生、早大法科政治科出身
 女 八重 明三一、一一生、長男輝郎妻、大阪、川崎佐治右衛門長女

君は奈良縣人山田安治の長男にして明治元年二月を以て生れ同十六年家督を相続し前名明之助を改む夙に東京法學を卒業し製菓業に志し現に胃活及ロート目薬本舖として知られ東亞公司監査役たり義に奈良盲啞學校主幹原銀行頭取大阪賣藥組合長たりし事あり和歌山縣津和野町安田銀行支店在籍

山田 盛男 安田銀行倉吉支店長 長野縣在籍
 君は長野縣人山田與衛門の三男にして明治二十二年一月を以て生れ昭和五年兄與方より分れて一家を創立す夙に明治商業銀行に入り桐生足利松本各支店次長を経て安田銀行上田支店長となり現時同行倉吉支店長たり(鳥取、東伯、倉吉町安田銀行支店在籍)

山田 基 正五位勲三等功五級、醫學博士、陸軍三等軍醫正、須磨浦病院長、醫師、兵庫縣在籍
 妻 富子 明二七、八生、京都、木村榮吉二女
 男 肇 明四〇、七生

君は兵庫縣人山田元周の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十五年家督を相続す同年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し更に大阪帝國大學に入り同四十二年陸軍三等軍醫正となり後南滿洲鐵道會社の招聘により安東縣醫院院長兼内科部長となり大正三年同社より調遣に留學を命ぜられ歸朝後南滿洲醫學堂教授長崎醫學博士の學位を授けられ同十三年歐米視察を命ぜらる現時須磨浦病院長たり家族は尙二女美子(大八、八生)二男稔(同二〇、三生)三男保(同二一、一〇生)四男旺(同二四、九生)五男格(昭二、五生)三女幸子(同四、六生)あり妹操(明二〇、五生)は東京府土族中村實三男實三に嫁せりA二一八(神戸、寺畑町九電須磨一〇三) 参照 山田三郎の項

山田 雄吉 泰北銀行、藤山海運各取締役 北海道在籍
 妻 サヨ 明三四、二生、北海道、赤木顯次妹
 君は北海道人藤山要吉の三男同健次の弟にして明治十九年十一月を以て生れ後山田家に入り大正十年分れて一家を創立す現時各銀行會社の重役たり家族は尙長女系(大一二、二生)あり(小樽、富岡町) 参照 藤山健次、藤山要吉西貞吉の項

山田 勝 鶴見港鐵道運務取締役、三岐鐵道取締役、福岡縣在籍
 妻 ミネ 明二七、二生、東京、士、徳尾政均長女
 男 淳 治 大八、六生

君は福岡縣人山田正修の七男にして現戸主新一郎の弟なり明治十九年五月を以て生れる同四十五年東京帝國大學工科大学を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙三男浩藏(大一、八生)長女八重(昭二、一〇生)四男洋夫(同五、九生)ありA五八六(東京、芝、白金今里町九六電話高輪六〇四九) 参照 山田新一郎の項

山田 由藏 長野縣多額納税者、岡谷乾菓委託取扱取締役、製絲業、長野縣在籍
 妻 あやの 明八、五生、長野、増澤八郎二女
 養子 國太郎 明二〇、一一生

君は長野縣人山田長藏の長男にして元治元年六月を以て生れ明治二十七年家督を相続す製絲業を督み傍ら前記會社の重役にして直接納税六千五百六十八圓を納め長野縣多額納税者たり義に諏訪工村會社監査役たりしことあり二女ふみ(大三、一一生)は長野縣人今井衆人の養子となり(長野、諏訪、下諏訪町) 参照 山田國太郎の項

山田 芳市 名古屋鐵道運務取締役兼支配人、東美鐵道、尾北鐵道、城北電氣鐵道各取締役、愛知縣在籍
 妻 とし 明六、九生、愛知、士、平川正衛長女
 妻 胤子 明二五、九生、愛知、山田慶太郎長女
 男 剛一 明四四、一一生
 女 きよ子 大三、九生

君は愛知縣人佐藤半右衛門の三男にして明治十五年十二月を以て生れ同十四年先代胤子の入夫となり家督を相続す現時名古屋鐵道會社取締役兼支配人にして傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尙二男圭二(大六、九生)三男洋三(同二、一一生)二女幸子(昭三、一一生)ありA七五四(名古屋、東、水筒先町四一七電東八〇九)

山田 美治 雲陽實業銀行運務取締役 鳥根縣在籍
 父 鐵藏 安政五、九生、現戸主

山田 陸楯 從三位勲一等功三級、陸軍中將 福岡縣土族
 妻 ヨネ 明九、八生、福岡、士、北澤俊夫叔母
 男 統 一 明三一、二生、日本醫學出身
 女 文 鳥、玉利薫妹
 女 隆子 明四二、九生、東京府立第二高女出身

君は鳥根縣人山田鐵藏の二男にして江角興義の兄なり明治十七年四月を以て生れる現時雲陽實業銀行運務取締役にして義に山陰製炭關西電氣化學各會社の重役たりし事あり家族は尙二男泰治(大七、三生)三男悠久(同二一、一〇生)二女明子(同四、九生)あり(鳥根、鎌川、大津村) 参照 江角興義、遠藤嘉右衛門、山田鐵藏神田良二郎坂本朝高橋隆一坂手鏡白三郎三好次郎の項

山田 禮三 資産家 愛知縣在籍
 妻 しやう 安政元、九生、愛知、伊藤鶴次郎姉

君は愛知縣人山田朝之助の三男にして明治四十年十一月を以て生れ先代清三郎の養子となり昭和三年家督を相続す資産家にして目下慶應義塾大學經濟學部に通學中なりA二七五四(名古屋、南、熱田白鳥町六六ノ三) 参照 山田清三郎の項

山田 良之助 從三位勲二等功五級、陸軍中將、賀陽宮附別當、和歌山縣土族
 參照 有賀松彦、中村喜代植、山口誠一の項

山田 陽朔 東京府土族 資産家
 妻 珠樹 明二六、二生、文學士、東大助教
 男 巴 未 明三〇、四一一生、二男珠樹妻、東京、四ノ宮一丁目二二女
 女 俊 輔 明三二、七生、慶大理財科出身
 男 豊 彦 明三八、八生

君は和歌山縣土族山田保永の長男にして明治五年二月を以て生れる父保永は夙に身を軍籍に置き陸軍少尉となり西南の役に功あり勲五等に叙せらる爾來果して明治三十九年陸軍中將に任ぜられ日清日露の兩戰役に参加し功三級を賜ふ君亦其後を享け同二十七年陸軍歩兵少尉に任ぜられ果して大正十二年陸軍中將に陞り同十五年豫備役被仰賀陽宮々務監督となり昭和五年三月別當に任じ賀陽宮附仰付けらる其間第二軍第三軍各兵站參謀臺灣守備混成第一旅團參謀參謀本部々員露山聯隊區司令官歩兵第三聯隊長陸軍戸山學校長歩兵第二十三旅團長憲兵司令官第十六師團長等に歴補す義に日露戰役の功に依り功五級を授けらる家族は尙七男義元(大元、九生)あり長女秀子(明三一、一〇生)學習院女學部出身(は東京府人大木操に二女美智子(同三三、八生、雙葉高女出身)は同府人酒井康に嫁し弟哲三郎(同九、九生)は分家せり(東京、四谷、北伊賀町二四電四谷五二〇二) 参照 大木操山田中重の項

山田 六郎 上岡村長、福島縣會議員、機業 福島縣在籍
 男 新太郎 大二、一一生

山中松治郎

山中商會取締役、京都美術俱樂部...

山中元雄

文具商、熊本縣在籍...

山中要藏

山口縣多額納稅者、伊豫要、雙油...

山中義貞

愛媛縣工銀行、藝備銀行各監...

山中良樹

從五位、鐵道局技師、大阪鐵道局...

山中義信

臺灣電力株式會社社長、東京府在籍...

山中利右衛門

興業無盡取締役、山中商店代表...

山中良太郎

空軍中尉、兵庫縣在籍...

山西源三郎

三共商會、土木建築努力供給及運...

山西定吉

米穀問屋、大阪府在籍...

山西定之進

伊那合同銀行取締役、農業...

山梨勝之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨半造

正三位勳一等功二級、陸軍大將...

山成喬六

新興土地採取取締役會長、大成化學...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

山梨之進

從四位勳二等功五級、海軍中將、佐...

ヤ之部 山(梨、成、西)

(※印は姻族関係)

ヤ一四七

人谷口平太郎に同マサエ(明三、六生)は同縣士族馬場主計に嫁し二男信廣(同二二、五生、東京商科醫專出身)商科醫師(同妻シゲヨ(同二九、五生、和歌山、士、大林増次郎長女)は二男一女を伴ひ分家し三男幸臣(同二八、八生、明大出身、會計士)四男馬場(同三七、一一生)弟政市(同二〇、七生)も亦各分家せりA三五〇〇(和歌山、那賀、長田村)

山根馬之丈 日本クロム工業専務取締役
大阪府在籍
妻 トフ 明三、一一生、鳥根、宮本久六妹
女 子規 明四〇、六生
君は鳥根縣人森臨平作の弟にして明治元年六月を以て生れ先代榮四郎の養子となり同三十年家督を相続す現に日本クロム工業専務取締役たり(大阪、中河内八尾町大字東郷四〇四電八尾一三八)

山根 治 正五位勳四等、檢事、福山區裁判所檢事、岡山縣在籍
妻 ため 嘉永六、四生、岡山、日笠信治長女
妻 リウ 明二〇、一一生、山口、士、河村福藏長女
男 馨 明三三、一一生
男 千鶴子 山近熊太郎二女
女 松枝 明四二、二生
君は岡山縣人山根榮太郎の長男にして明治十年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十四年日本法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十八年判事に任じ山口地方山口區津山區岡山區三次區各裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來今治區西郷區今市區松江地方高梁區玉島區各裁判所檢事に應補し大正十三年前記現職に轉ず家族は尙孫判子(明四四、三生、長男馨長女)あり妹ちよふ(明一三、八生)は静岡縣人坂上宗詮養子嗣吉に同なを(同一九、一〇生)は岡山縣人時實吉三郎長男作次郎に嫁し弟寛江(同二五、四生)同妻茂枝(同三一、一〇生、岡山、赤松章妹)は其一子を伴ひ分家せり(福山、區裁所檢事局)

山根 觀市 松江府參事、松江商工會議所常議員、安道湖温泉土地總取締役、鳥根縣在籍
妻 加代 明四一、九生、北海道、豊澤通明姉
男 祐一 昭二、九生
當家は先代信成より顯る信成は舊山口藩士にして維新の際國事に奔走し明治四年陸軍少尉に任じ西南の役に從軍す日清戰役には陸軍少尉近衛第二旅團長として出征し同二十八年病を以て臺灣の陣中に歿す勳功に依り華族に列し男爵を授けらる養子一貫其後を襲ひ亦陸軍に入り陸軍少尉に累進し日清日露の役に從軍して功四級を賜り侍從武官軍事參議院幹事東宮武官長等に歴補す君は其長男にして明治三十四年一月を以て生れ大正六年家督を相続し製糖被仰付學院高等科を經て同十四年東京帝國大學經濟學部を卒業し現に十五銀行に勤務す家族は尙弟三郎(明四三、四生)妹美代子(大二、四生)あり姉信子(明三一、一一生、女子學院出身)は栃木縣人田中直通に叔母ヨシ(同八、九生)は陸軍中將白井二郎に嫁し弟弘之(同三六、一一生、陸軍歩兵中尉)は男爵松村家を相続し妹數子(大三、一一生)は山口縣人小島清介の養子となれり(東京市外世田ヶ谷町若林九四)

男 弘 明四一、六生
女 萬千子 明四五、一一生
君は鳥根縣人山根眞三郎の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十一年家督を相続す現に安道湖温泉土地會社取締役にして松江府參事會同商工會議所常議員に推される家族は尙二男嚴(大七、二生)あり(松江、寺町電八一六)

山根 賢 横濱市主事、栃木縣在籍
妻 タケ 明二八、五生、栃木、山根タマ女
男 政徳 大元、一一生
女 園子 大元、五生
君は栃木縣人山根長一郎の四男にして明治二十年五月を以て生れ大正九年先代タケの夫となり家督を相続す現時横濱市主事たり家族は尙五男銀六郎(大九、九生)三男進(同一一、三生)四男宏(同一一、八生)二女恭子(昭二、一一生)五男清(同四、九生)あり(横濱、神奈川、六角橋町五九三)

山根 銀藏 地主、鳥取縣在籍
妻 三代 明一〇、一〇生、鳥取、早川半之助長女
男 銀一 明三五、三生
男 銀二 明三九、一一生
男 銀三 明四一、一一生
男 銀四 明四四、一一生
男 銀五 明四四、一一生
君は鳥取縣人岡島彌三郎の二男にして慶應三年二月を以て生れ後先代その養子となり明治十六年家督を相続す地主にして資産家たり家族は尙五男銀六郎(大九、五生)六男銀七郎(同六、三生)ありA一九二七(東京、龜町、三番町二九電九號三三八五)

山根 光次郎 東光堂、小間物商、東京府在籍
妻 謙子 大元、一〇生
女 基佐子 大元、八生
君は兵庫縣人山根源七の三男にして明治十六年五月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す東光堂と稱し小

間物商を營む家族は尙庶子光枝(大一一、九生、生母、千葉、澁谷のふ)同聲榮(昭二、五生、生母同上)あり(東京、淺草、下平右衛門町一〇電澁谷四〇四七)

山根 茂樹 十五銀行支店長、鳥根縣在籍
妻 貞子 明三四、二生、鳥根、板倉隆治長女
男 淳平 大元、七生
君は鳥根縣人山根恒三郎の三男にして明治二十四年六月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す現時十五銀行支店長にして兼に同行大阪西支店支店長たり家族は尙長女節子(大一一、七生)三男基助(同一一、一一生)四男壯助(昭三、二生)二女陽子(同五、七生)あり(堺、藤野町十五銀行支店内)
參照 淡久保田豊吉氣佐藤喜八郎家手錢白三郎の項

山根 眞治郎 國策新聞社取締役兼主幹、山口縣在籍
妻 セン 文久三、一一生、山口、士、山本眞彦養子、一〇生
女 詢子 大元、一〇生
君は山口縣人山根平兵衛の長男にして明治十七年九月を以て生れ大正十二年家督を相続す現に中央大學を卒業し時事新聞中央新聞各記者となる後國民新聞社に入り同編輯局長を経て取締役兼主幹となる兼に商工審議會委員臨時國語調査會委員たり新聞紙法制その他の著書あり新聞法制の權威として知らる(東京、赤坂、青山高樹町三電青山一八八)

山根 甚信 從五位勳六等、農學博士、北海道帝國大學助教授、農學部勤務、鳥取縣士族
父 五百藏 安政四、一一生、鳥取、清水爲十郎二男、現戶主
妻 茂世 明二二、一一生、福島、田口銀次郎長女
男 乙彦 大元、一一生
女 淑子 大元、一〇生
君は鳥取縣士族山根五百藏の二男にして明治二十二年一月を以て生れ大正二年東北帝國大學農科大學水産學科を卒業し同大學農科大學助手となり次いで助教授に進み同八年北海道帝國大學助教授に任じ同九年農學博

士の學位を受け同十五年獨米各國に留學を命ぜられ昭和三年歸朝し引續き其任にあり家族は尙二女敏子(大一〇、一一生)兄保信(明一四、六生)同妻とみ(同一三、三生)鳥取、岡垣たか二女)及其子姉ふみ(同一七、三生)弟正信(同二五、一一生)妹しん(同三二、八生)あり姉すま(同一九、一一生)は鳥取縣人河上金藏の養子となり弟信(同二九、七生)同妻幸(同三二、一一生)鳥取、岡本清八長女)は其一子を伴ひ分家せり(札幌、北七條四十二丁)

山根 須江吉 酒造業、京都府在籍
妻 壽賀 明二一、一一生、京都、中島軍治妹
男 治三郎 大元、九生
君は兵庫縣人松井幸治郎の三男にして明治十八年十一月を以て生れ同四十二年叔父辰三郎の死跡を相続す酒造業を營む家族は尙長女良枝(大六、一一生)ありA一九一〇B一四二(京都、中京、樂樂廻東町三電西陣一七三)

山根 成一 正五位、男爵、十五銀行員、東京府華族
妻 加代 明四一、九生、北海道、豊澤通明姉
男 祐一 昭二、九生
當家は先代信成より顯る信成は舊山口藩士にして維新の際國事に奔走し明治四年陸軍少尉に任じ西南の役に從軍す日清戰役には陸軍少尉近衛第二旅團長として出征し同二十八年病を以て臺灣の陣中に歿す勳功に依り華族に列し男爵を授けらる養子一貫其後を襲ひ亦陸軍に入り陸軍少尉に累進し日清日露の役に從軍して功四級を賜り侍從武官軍事參議院幹事東宮武官長等に歴補す君は其長男にして明治三十四年一月を以て生れ大正六年家督を相続し製糖被仰付學院高等科を經て同十四年東京帝國大學經濟學部を卒業し現に十五銀行に勤務す家族は尙弟三郎(明四三、四生)妹美代子(大二、四生)あり姉信子(明三一、一一生、女子學院出身)は栃木縣人田中直通に叔母ヨシ(同八、九生)は陸軍中將白井二郎に嫁し弟弘之(同三六、一一生、陸軍歩兵中尉)は男爵松村家を相続し妹數子(大三、一一生)は山口縣人小島清介の養子となれり(東京市外世田ヶ谷町若林九四)

山根 宗太郎 千切屋本館、旅館業、京都府在籍
妻 とみ 萬延元、六生、京都、内田治助長女
男 宗一郎 明三九、七生
男 春子 明四二、三三、長男宗一郎妻、京府人鈴木孫兵衛に嫁せりA一六四七B二八〇(京都、中京、錦樂師富小路西入ル電局本局一八二八)
參照 柴田嘉三郎の項

山根 健男 正五位、男爵、東京府華族
妻 敏子 明四〇、二生、東京、山崎龜吉養子
男 敏子 明四〇、二生、東京、山崎龜吉養子
當家は先代武亮より顯る武亮は舊藩士山根修平の二男にして夙に陸軍に出仕し西南の役に從軍して功あり累進して明治三十九年陸軍中將に陞る其間第六第十二各師團參謀長佐世保下關各要港司令官第八近衛各師團長等に歴補す日清戰役には第二兵站參謀長臨時臺灣鐵道總長として出征し功四級を賜り日露戰役には朝鮮鐵道總長に授けられ後貴族院議員に列す君は其二男にして明治二十九年三月を以て生れ昭和三年家督を相続し製糖學習院高等科を卒(米國に遊びオレゴン州立大學を卒業す家族は尙長女淑子(昭四、一〇生)弟勝亮(明四〇、一一生)同元雄(同四三、一一生、六高在學)同陸郎(大二、九生)あり妹竹次郎(明三二、三生、御茶の水高女出身)は栃木縣人釜井竹次郎に同恒(同四三、三三、三三、出身校同上)は山口縣人長宗純に同貞(同四一、一五生、女子學院出身)は東京府人松下市太郎長男寛一に嫁せり

山根 敏三 柏原銀行總取、滋賀縣農工銀行、興業無盡各取、滋賀縣在籍
妻 もと 慶應三、一一生、岐阜、岡崎安妹
男 爲藏 明二四、一〇生、大阪、小杉佐兵衛妹
女 しな 大六、三三
君は滋賀縣人山根庄太郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ大正九年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二女あき(大九、三三)あり弟令吉(明二九、六生)は兵庫縣人米澤むめの養子となれり(明石、東本町)

山根 肇 加島屋製糖取締役、共新運輸監査、東京府士族
妻 龍吉 明三五、一一生、鳥取、高藤虎太郎二男、慶大出身、横濱市電氣局勤務
君は東京府士族山根正幸の長男にして明治八年六月を以て生れ同十二年家督を相続す現時加島屋會社取締役にして傍ら前記會社の重役たり(東京市外目黒町下目黒二五)

本商工會議所常議員たり家族は尙三女澄子(六七、六生)四女國子(同九、一〇生)二男善雄(同一五、二生)あり(熊本市新島町電一六八三)

山邊 武彦

東洋紡績株式會社取締役 佐賀縣士族 嘉永五、一〇生、佐賀、士、福島 利儀長女 明一六、四生、長崎、士、山口修 助二女 明三三、七生 男 道彦 明四〇、一〇生

君は佐賀縣士族山邊輝明の長男にして明治十二年九月を以て生れ同三十年家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大学機械科を卒業し現に東洋紡績株式會社取締役たり家族は尙四男武郎(大四、四生)五男武磨(同八、九生)六男英彦(同一二、八生)四女朝子(昭二、三生)ありA二五〇九(兵庫、武庫、精道村蘆屋中ノ内一〇五電蘆屋五〇九) 參照 沢永井好信の項

山邊 常重

衆議院議員(長野縣選出)、大雄山 鐵道三協商事各取締役、妙高 温泉土地監査役、東京府在籍 妻 なか 明一三、一、生、茨城、鈴木龜太郎 女 靜子 明三九、一〇生

君は長野縣人山邊萬作の四男にして明治九年八月を以て生れ大正七年兄重方より分れて一家を創立す明治三十五年中央大學を卒業し現時前記各會社の重役にして衆議院議員に當選する事三回に及び立憲民政黨所屬たり家族は尙四男亨(大四、八生)五男博文(同九、二生)六男孝(生年月同上)あり(東京、本郷、駒込林町一 一二電小石川五〇五五)

山邊 知春

正四位勳三等、陸軍歩兵少尉、宮 中顧問官、北白川宮加當 東京府在籍 妻 殖 明一九、一、生、福島、今井鐵太郎 女 知 明三九、一〇生 男 知 明四三、三生

知長崎縣同長野島取各縣師範學校長等に歴任し現時島取縣女子師範學校長及島取縣立八頭高等女學校長たり長女千代子(明三六、一、生)は京都府人池田三雄に二女玉子(同三八、一、生)は東京府人町田久一郎に嫁せり(鳥取、八頭、賀茂村官舎)

山道 襄一

正五位勳三等、衆議院議員(廣島 縣選出)、廣島縣在籍 妻 コマツ 明二三、三生、廣島、林泰次郎叔母 女 シカ子 明四五、三生 女 ハマ子 明四五、三生

君は廣島縣人山道續造の三男にして明治十五年三月を以て生れる早稲田大學政治經濟科を卒業し鳥取新聞大韓日報等の主筆となり後朝鮮京城に於て雜誌半島を主宰す支那西比利亞方面に漫遊する事數回又列國議會同盟會議に參列す廣島縣より推されて衆議院議員に當選する事七回立憲民政黨に屬し昭和六年同黨幹事長に推される兼に文部省參事官鐵道政務次官たり大正三四年事件の功に依り勳三等に叙せらるる家族は尙兄一夫(明九、六生、現戸主)同妻イチ(同一〇、四生、大分、井門榮太郎三女)あり父續造(嘉永六、三生)は繼母タシ(明二、四生、廣島、加川四郎姉)弟成之(同四四、三生)を伴ひ分家し妹ミサヲ(同一八、一、生)は廣島縣人池田友三郎長男英一に同イワ(同二〇、六生)は同縣人菅廣八百藏長男悦次に同コキ(同二三、一、生)は同縣人伊藤久義長男正之に嫁し甥輝夫(大二、七生、妹ミサヲ三男)は同縣人川上與右衛門の養子となれり(東京市外落合町目白文化村一電大塚二〇五)

山村伊左衛門

地主 兵庫縣在籍 安政六、一二生、兵庫、西谷太一 郎長女 明二一、八生、兵庫、植田善七長 妻 よを 女 明二一、八生、兵庫、植田善七長 男 眞一 大六、一、生 女 みづ 明四四、一、生

君は兵庫縣人先代伊左衛門の長男にして明治十三年八月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名宗吉を改め襲名す地主たり家族は尙二男明(大九、六生)三男至

君は福島縣人山邊知一の長男にして明治六年十二月を以て生れ同三十九年家督を相續す同三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し陸軍歩兵少尉に任ぜられ後宮内官となり秩父宮別當兼式部官たりしが現時北白川宮別當たり家族は尙四男知正(大五、六生)五男知秀(同八、三生)四女春惠(同一〇、四生)五女登茂惠(同一二、七生)あり長女智恵(明三六、一、生)は福島縣人坂路進に嫁し弟知臣(同一二、六生)は分家せり(東京、芝、高輪南町一七官舎電高輪五九六)

山邊 横太郎

大坂市議員、都市計畫大坂地方 委員會委員、自轉車商 大阪府在籍 妻 ヤス 明一五、一、生、香川、大熊七藏 長女 明三四、一、生 男 忠博 明三九、一、生、長男忠博妻、香 七五三子 明三九、一、生、久保茂太郎五女 女 秀雄 明四二、八生 女 郁子 明四四、七生 女 滿子 明四四、七生

君は大坂府人山邊榮吉の長男にして明治六年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す自轉車商を營み推されて大坂市議員にして又都市計畫大坂地方委員會委員たり家族は尙孫一郎(昭四、六生、長男忠博長男)あり二女千代子(明三五、八生)は大坂府人岸田喜一郎に嫁せり(大阪、南、空堀町四一電栗二二九三)

山邊 政太郎

共榮土地株式會社取締役 兵庫縣在籍 妻 志津 明一八、四生、兵庫、士、石田友 三郎長女 明四四、二生

君は兵庫縣人山邊龜吉の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す現時共榮土地會社取締役たり長女壽子(明四二、一、生)は兵庫縣人廣瀬顯三に嫁せり(神戸、宮本通七ノ四電美合二〇三五) 參照 入江與一郎の項

山星 徳太郎

大和毛織株式會社 東京府在籍 妻 ヤスタリ 明五、八生、東京、深江常吉從妹

男 暢夫 明三六、一〇生、早大出身 妻 勇美子 明四四、九生、二男暢夫妻、東京 藤田鐵助長女

山樹 儀重

衆議院議員(鳥取縣選出)、内閣總 理大臣秘書官、鳥取縣在籍 元治元 八生、鳥取、士、原田永 誠長女 明二四、二生、鳥取、士、武信慶 妻 末枝 輝四女 明四四、一、生

君は鳥取縣人山樹友藏の二男にして明治二十二年四月を以て生れる京都帝國大學文科大學出身にして師範學校教諭大坂市視學等に歴任す兼に歐米各國を歴遊し大正十三年の總選舉に際し郷里鳥取縣郡部より推されて衆議院議員に當選し昭和五年再び當選す現時其任に在り同六年内閣總理大臣秘書官に任ぜらるる家族は尙三女千代子(大一一、三生)四女あい子(同一五、一、生)の外兄儀寛(明一六、五生、現戸主、巴屋化粧品製造所、萩原本店、合同レコード石輪各會社取締役)同妻廣子(同二九、七生、鳥取、井上恒徳妹)及其二男一女姉きた(同一〇、二生)弟儀保(同二五、三生、巴屋化粧品製造所取締役)同妻富子(同三二、八生、兵庫、前田雄之助長女)及其一男二女あり(東京市外巢鴨町一〇四三) 參照 前田雄之助儀保長女角藏の項

山松 鶴吉

從五位勳五等、鳥取縣女子師範學 校長、鳥取縣立八頭高等女學校長 三重縣在籍 妻 實文 大二、二生 女 久子 明四四、七生

君は大分縣人山村藤三郎の二男にして明治三年六月を以て生れ大正十三年家督を相續す明治二十五年東京專門學校を卒業し同三十二年判檢事登用試験に合格す同三十四年判事に任じ爾來小倉區福岡地方中津區大分地方佐賀地方飯塚區山口區津山區熊本區兼同地方各裁判所判事に歴補し現時前記の職に在り家族は尙弟新(明一九、三生)同妻幸子(同二七、四生、廣島、三浦正太郎長女)及其子女あり(熊本、八代、八代町)

山村 勘次

養産家 兵庫縣在籍 妻 しゅん 明一〇、一、生、兵庫、天野小平 次女 明二〇、一、生、兵庫、天野小平 妻 ふく 次女 明四五、六生 女 政美 明四五、六生 女 ふみ子 大四、一〇生

君は兵庫縣人山村勘藏の二男にして明治二十一年十二月を以て生れ大正十五年家督を相續す養産家たり家族は尙二女静子(大一一、〇、二生)三女ちよ子(同一四、三生)弟階吉(明三七、一、生)妹ひで(同四〇、一、生)同政子(同四二、二生)ありA一五〇〇(神戸、坂口通六ノ二)

山村 吉次郎

兵庫縣多額納稅者、地主 兵庫縣在籍 妻 たに 嘉永六、八生、祖父善九郎長女 長女 明一六、六生、兵庫、坂本多十郎 男 雅之祐 明三三、一、生 男 春一 明四五、四生

君は兵庫縣人山村善三郎の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す地主にして直接國稅二千二百十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙孫雅弘(大一一、一、生、長男雅之祐長男)あり二女みづ(明三〇、一、生)は兵庫縣人吉川實に嫁し弟善五郎(同二〇、一〇生)は同妻貞(同三四、三生、三重、若澤慶久雄從妹)と共に分家し弟善六(同二二、九生)は兵庫縣人茶谷千代の入夫となれり(神戸、坂口通六ノ二二電美合三三八)

參照 大塚和郎、星島二郎、山邑英一郎、山邑喜三郎、和田半兵衛の項

山室 軍平 救世軍中將、救世軍日本司令官 東京府在籍

妻 三つ 長女 明一七、六生、愛知、水野半五郎 男 武 明三五、九生 女 周 明三三、九生 男 周 明四二、六生 女 善 明四四、三三 女 善 大二、三三

君は岡山縣人山室佐八の三男にして明治五年八月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す救世軍本幹部として汎く知らる昭和五年中將に陞任す義に數度歐米に巡遊す「平民の福音」其他の著あり家族は尙五女徳(大七、九生)五男源(同一〇、一二生)あり(東京市外濠谷町羽澤四三電青山五八五三)

山室 宗文 三菱銀行常務取締役 熊本縣士族

妻 シツ 明一九、二生、男爵野田龜喜妹 女 文子 大五、四生

君は熊本縣士族山室宗文の長男にして明治十三年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十年東京帝國大學法科大學を卒業し歐米に留學すること三ヶ年歸朝後三菱合資社に入り銀行部部長業務課支配役社務支店長倫敦支店長大阪支店長等を経て現時三菱銀行常務取締役たり義に大阪商工會議所特別議員に推さる「社債論」「倫米財界近情」「我國の金融市場」等の著あり家族は尙弟宗武(明一三、一〇生、陸軍砲兵大佐)同妻多鶴(同一二、三三、宮中顧問官陸軍少將田内三吉長女)及其二子あり姉登年(同一九、二生)は熊本縣人宇野新九郎弟同五郎に妹登和(同一七、九生)は福岡縣人井上伴學に姪多龜子(同一二、一〇生)は福岡縣人安藤銀作に姪弟宗親(同一二、三三)は富山縣人前川彌三郎の養子となれりA一〇〇四〇(東京市外濠谷町向山一〇電高輪三三四) 參照 男爵野田龜喜、田内三吉家楠瀬熊治の項

山元 金右衛門 正五位勳四等、帝室技藝員、帝國美術院會員、京都府在籍

妻 ため 明八、八生、滋賀、生駒秀一三女 養子 孝吉 明三九、七生、京都、三宅清三郎 男 三男

君は滋賀縣人山元善三郎の二男にして明治五年一月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す夙に野村文學森寬齋等に就き繪畫を修得し春翠と號し日本畫家として令名あり同三十二年京都府立美術工藝學校教授となり同三十七年美術及美術教育視察の爲歐米各國に出張を命ぜらる歸朝後京都府立繪畫專門學校教授兼京都市立美術工藝學校教授を命ぜられ現時帝室技藝員帝國美術院會員たり(京都、上京、高倉丸太町下ル坂本町二〇二電上一五八九)

山元 玄十郎 鹿兒島市參事會員、鹿兒島電氣、大日本酒類、鹿兒島南海鐵道各社取締役、百四十七銀行、鹿兒島朝日新聞社、鹿兒島木材各種監査役、山元商會名譽代表社員

妻 リン 嘉永二、九生、鹿兒島、弓削茂平 養母 次四女 明四〇、八生 妻 正 明四〇、八生 女 千鶴子 明四三、六生 女 通江 大三、九生

君は鹿兒島縣人山元重太郎の二男にして明治十七年十一月を以て生れ後先代次兵衛の養子となり同四十四年家督を相續す現時前記諸會社の重役にして鹿兒島市參事會員たり家族は尙二男正弘(明四五、一〇生)三女和(大七、三三)三男達郎(同一〇、二二)四女秀(同一二、一〇)五女京(同一四、一〇)四男英作(同一二、一〇)あり(鹿兒島市山下町一三〇電五一〇)

山本 英輔 正四位勳二等功四級、海軍大將、第一艦隊司令官兼聯合艦隊司令官、鹿兒島縣在籍

妻 ノブ 安政四、五生、鹿兒島、大田休左衛門長女、現戸主 女 光 明二二、三三、東京、菊地武和長女 男 英 大五一、一〇生 女 勳 大五一、三三

君は鹿兒島縣人山本英輔の長男にして明治九年五月を以て生る同三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍

山本 永一 山安商店、素麵馬糧問屋業 大阪府在籍

妻 はな 明一六、七生、山本安太郎長女 女 恒代 明四三、九生、和歌山、大浦榮藏 男 素一 昭五、一〇生

君は大阪府人山本永一の長男にして明治三十六年十一月を以て生れ大正九年家督を相續す山安商店と稱し素麵馬糧問屋業を營むA一五五〇B五〇六(大阪、北中之島五ノ五〇電園土佐堀二五二〇)

山本 市三 從四位勳三等、檢事、和歌山地方裁判所檢事正、福岡縣在籍

妻 マサ 明一六、二生、佐賀、戸川實見妹 女 芳子 明四四、九生 女 郁子 大三、五生

君は福岡縣人山本市三郎の三男にして明治十年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す通信書記を経て同三十四年文官普通試験に合格同三十五年和佛法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十九年檢事に任じ爾來竹田區大分區同地方兩館區同地方札幌區同地方室蘭區小樽區豊岡區大坂區同地方京都府地方兼同區長崎地方兼同區小倉區各裁判所檢事正を經て昭和二年現職に轉ず家族は尙弟兵吉(明一六、三三)あり同兵藏(同一三、四生)同妻コウ(同一二、六生、福岡、内田留吉長女)は共に分家し姉タラ(同一三、一〇)は福岡縣人知新藏に同ナカ(同一八、三三)は岡山縣人高田敏三郎に嫁せり(和歌山市地方裁判所内)

山本 英輔 正四位勳二等功四級、海軍大將、第一艦隊司令官兼聯合艦隊司令官、鹿兒島縣在籍

妻 ノブ 安政四、五生、鹿兒島、大田休左衛門長女、現戸主 女 光 明二二、三三、東京、菊地武和長女 男 英 大五一、一〇生 女 勳 大五一、三三

君は鹿兒島縣人山本英輔の長男にして明治九年五月を以て生る同三十年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍

山本 伊太藏 高知縣多額納稅者、土庫銀行應取 高知縣在籍

妻 達 明九、一二生、高知、森彦平二女 男 吉 明一八、一二生 女 榮 明二四、一〇生、二男豐吉妻、高知、山本政太郎二女 男 才 明二五、八生 孫 靜代 明四四、一〇生、二男豐吉長女 孫 蕙 意 大四、一〇生、二男豐吉二女

君は先代伊太藏の養子にして安政四年二月を以て生れ明治二十九年家督を相續し前名半次郎を改め豐名三現時土庫銀行取締役に直接國稅二千六百六十八圓を納め高知縣多額納稅者に列し義に津大木電製材會社代表取締役たり家族は尙孫充(同一〇、六生)二男豐吉二男(同敏雄(同一二、四生)同邦夫(同一五、一〇生)同四男(同昭四、一〇生)同三女)あり三男龜之助(明二一、五生)同妻梅(同一二、六生)高知、野村香松(二女)は其子女を伴ひ分家し長女美惠(同三三、一〇生)は高知縣土族御川信之の家籍に入り姪惠伊(同七一、二生)同夫乙吉(同五、四生)高知、岡村幾太郎長男)は其子女を伴ひ分家せり(高知、幡多、中村町)

山本 一作 住友銀行舊名古屋支店長 兵庫縣士族

妻 ちか 文久元、五生、兵庫、武田多喜藏姉 女 高 明二二、一〇生、兵庫、横山敬之姉 男 高 大三、三三 女 高 明四四、六生

君は兵庫縣士族山本林士の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正六年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學法科を卒業し住友銀行に入り兵庫支店長本店人事課長支店長を経て現時名古屋

山本 英輔 正四位勳二等功四級、海軍大將、第一艦隊司令官兼聯合艦隊司令官、鹿兒島縣在籍

妻 ノブ 安政四、五生、鹿兒島、大田休左衛門長女、現戸主 女 光 明二二、三三、東京、菊地武和長女 男 英 大五一、一〇生 女 勳 大五一、三三

父 謙介 喜永五、四生、男爵新田義美伯父現戸主

山本 勘藏 資産家 慶應元、一一生、兵庫、青木與左衛門五女

山本 龜吉 寶塚有馬自動車、大阪タクシードライバ

山本 龜光 三井銀行庶務主任監査役 東京府土族

谷三五九七 山本 勘藏 資産家 慶應元、一一生、兵庫、青木與左衛門五女

山本 勘藏 資産家 慶應元、一一生、兵庫、青木與左衛門五女

山本 勘藏 資産家 慶應元、一一生、兵庫、青木與左衛門五女

山本 勘藏 資産家 慶應元、一一生、兵庫、青木與左衛門五女

山本 寛太郎 横濱正金銀行員 大阪府在籍

山本 寛太郎 横濱正金銀行員 大阪府在籍

山本 寛太郎 横濱正金銀行員 大阪府在籍

山本 寛太郎 横濱正金銀行員 大阪府在籍

山本吉五郎

廣島縣多額納税者、東亞木材防蝕 廣島縣在籍

山本吉治

織物製造業 京都府在籍

山本吉藏

英城縣多額納税者、石岡電氣 英城縣在籍

山本吉太郎

山吉商店、帽子商、白毛染君が代 本館、東京府在籍

山本吉太郎

新島松竹園監査役、東京府在籍

山本久顯

大島炭礦取締役、ザ・オリエンタル・エクスプレッス・カムパニー

山本久三郎

帝國劇場事務取締役、日本麥酒 東京府土族

山本久次郎

堺商工會議所常議員、惠比須織物 大阪府在籍

山本公富

萬公卿家 當家は西園寺左大臣實晴の男孫勝忠の後なり

生)は伯爵室町公藤に嫁せり(東京市外大久保町西大久保四六一室町伯爵邸)
參照 伯爵室町公藤、男爵野行和、大森橋次京子
爵梅園篤彦の項

山本九八郎

愛知縣多額納稅者、京口屋、酒商
及金融業、愛知縣在籍
母 明三、一一生、愛知、三輪甚兵衛
妻 明二七、一一生、愛知、土、野崎
長女 光之丞二女
男 典彦 大四、一〇生
女 信子 大三、一一生

山本熊太郎

山本鐵道代表社員、鐵鑛製造業
東京府土族
母 安政元、一一生、祖父義治長女
妻 正 大二、一一生、東京、土、吉田生
養子 大二、一一生、東京、土、吉田生
君は東京府土族先代熊太郎の長男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年家督相続と共に前名義之を改め熊名鐵鑛製造業を營み傍ら前記會社の重役たり姉玉明一九、三生は前記吉田生に嫁せりA二四九(東京、小石川、武島町二二)
參照 京西河惟一の項

山本慶治

培風館主、圖書出版業
東京府在籍
母 安政元、一一生、祖父義治長女
妻 正 大二、一一生、東京、土、吉田生
養子 大二、一一生、東京、土、吉田生
君は東京府土族先代熊太郎の長男にして明治二十三年十二月を以て生れ大正四年家督相続と共に前名義之を改め熊名鐵鑛製造業を營み傍ら前記會社の重役たり姉玉明一九、三生は前記吉田生に嫁せりA二四九(東京、小石川、武島町二二)
參照 京西河惟一の項

君は兵庫縣人山本與三右衛門の二男にして明治十四年四月を以て生れ大正十四年兄菊太郎方より分れて一家を創立す明治四十一年東京高等師範學校を卒業し同校助教に任ぜられ又奈良女子高等師範學校教諭に任ぜらるる後之を辭し出版業を營み培風館と稱し中等教科書及教育學術圖書類を發行して名あり家族は尚二男健二(大元、一〇生)三男達三(同三、八生)二女愛子(同七、九生)ありA三七九B二二四(東京、神田、錦町三ノ一七電報田三七七四)

山本健吉

鐘淵紡績澁川支店技師
京都府土族
母 慶應二、一一生、京都、辻善善兵衛
妻 秀 明二、一一生、滋賀、辻元立三女
男 正 治 大二、八生
女 文 子 明四、三生

山本健治

臺灣銀行大阪支店支配人
福島縣在籍
妻 慶應二、一一生、京都、辻善善兵衛
養子 大二、一一生、東京、土、吉田生
君は福島縣人山本常次郎の二男にして明治二十二年三月を以て生れ先代辰吉の養子となり家督を相続す同十四年東京高等商業學校を卒業し臺灣銀行に入り紙育出張所支配人上海支店支配人を経て現時同行大阪支店支配人たり家族は尚長女ハシ子(大九、二生)二女長光(同二、九生)二男健次郎(同二五、五生)三女禮子(昭一、一〇生)ありA七三〇(大阪、東成、友通町二二三)
參照 京塚本喜八郎の項

山本健治

臺灣銀行大阪支店支配人
福島縣在籍
妻 慶應二、一一生、京都、辻善善兵衛
養子 大二、一一生、東京、土、吉田生
君は福島縣人山本常次郎の二男にして明治二十二年三月を以て生れ先代辰吉の養子となり家督を相続す同十四年東京高等商業學校を卒業し臺灣銀行に入り紙育出張所支配人上海支店支配人を経て現時同行大阪支店支配人たり家族は尚長女ハシ子(大九、二生)二女長光(同二、九生)二男健次郎(同二五、五生)三女禮子(昭一、一〇生)ありA七三〇(大阪、東成、友通町二二三)
參照 京塚本喜八郎の項

二、六生)三男健三郎(同三、八生)あり養父辰吉(明一九、一一生)は福島縣人塚原平七の養子となれり(大阪東、北濱三丁目)

山本憲介

三井物産會社員
兵庫縣在籍
妻 明一八、四生、廣島、藤本友平二女
長女 明三八、一〇生、兵庫、櫻井三治

山本顯

日本ノート用品專務取締役
大阪府在籍
妻 明三四、六生、大阪、山中清七長女
君は和歌山縣人佐々木三郎の三男にして明治二十七年十一月を以て生れ後先代嘉藏の養子となり大正十一年家督を相続す現時日本ノート用品專務取締役たり家族は尚長女篤子(大、一〇生)二女恭子(同三、四生)三女節子(昭三、四生)あり(大阪、東、南久寶寺町三ノ二九電天下茶屋二七三)

山本源吉

山本商會代表社員、大阪合同紡績
監査役、大阪府在籍
妻 明一〇、一一生、大阪、宮本榮次郎姉
男 弘一 明三三、八生
女 麗子 明四四、九生
君は廣島縣人山本富助の弟にして同利吉の兄なり慶應三年六月を以て生れ明治三十二年分れて一家を創立す石炭商を營み傍ら海運業に従ひ夙に住友鐵業所に於ける石炭の一手販賣を司る大正七年山本商會社を創立し其社長として經營の衝に當り以て今日に至る又前記會社の重役たり家族は尚五女常代(大六、一一生)三男健治(同二〇、八生)あり二男和雄(明三六、二生)は分家し長女登美子(同三八、七生、大阪府立夕陽丘高女出身)は大阪府人小寺元治郎弟三に二女玉枝(同四一、四生)は廣島縣人山本安市に嫁せりA七七一六(大阪、

住吉、住吉町七五八電天下茶屋二二三六

參照 山本弘一、山本利吉の項

山本源吉

西宮銀行支配人
兵庫縣在籍
妻 明二、一一生、兵庫、俱羅定乘長女
男 源一 明三〇、二生
女 トミエ 明三四、九生、長男源一妻、大阪
女 みつえ 大四、二生
君は兵庫縣人先代源吉の二男にして明治九年十月を以て生れ同二十三年家督を相続し前名作太郎を改め源吉す現に西宮銀行支配人たり家族は尚孫喜代子(昭三、一一生、長男源一長女)あり弟源治(明一〇、一一生)は分家せりA四六五(西宮、石在町二六電五〇三)

山本源三郎

かたかけや、肩掛洋傘雜貨商
京都府在籍
母 明一二、一一生、京都、竹内藤助
妻 あい子 明三九、七生、山口、園山龜太郎
君は京都府人先代源三郎の長男にして明治三十四年十一月を以て生れ大正十年家督を相続し前名誠一郎を改め源吉すかたかけやと稱し肩掛洋傘雜貨商を營む家族は尚弟二郎(明三七、八生)同四郎(同四一、四生)ありA八二八B二五三(京都、下京、四條寺町東入九御旅町四〇電本局一〇四〇)

山本源太

池袋聯合自動車社社長、茅沼炭礦
監査役、東京府土族
妻 明一六、二生、佐賀、土、西岡途
男 寅雄 明三五、四生、農學士
女 忠雄 明三七、一一生、經濟學士
君は舊會津藩士山本源珍の長男にして明治元年十二月を以て生れ同三十二年家督を相続す夙に上京して東京馬車鐵道會社工務課長東京電氣鐵道會社營業課長東京鐵道會社理事各課長を経て同十四年同社の東京市の經營となるに及び電氣局に入り運轉課長を拜命

し爾來累進して東京市主事に任ぜられしが大正八年是を辭し再び實業界に投じ横濱電氣鐵道横濱土地各會社の重役を経て現時前記各會社の重役として知らるる家族は尚三男正三(大元、一一生)四女春江(同七、四生)五女桃代(同一〇、三生)六女松枝(同四一、一一生)孫總子(昭四、四生、長男寅雄長女)あり長女美枝(明四〇、四生、東京府立第三高女出身)は東京府人小川清次郎(男)に二女伊彌子(同四二、一〇生、香蘭女學校出身)は京都府人藤直吉弟竹雄に養子小雲(明二二、一一生、亡姉シヅ子長女、會津高女出身)は特命全權公使堀田正昭に同愛子(同二九、五生、同三女)は岐阜縣人高木常彌養子常太郎に嫁せりA一五〇〇(東京、芝、三田綱町九電高輪一〇三七)
參照 小川清次郎、堀田正昭塚本喜八郎の項

山本源兵衛

地主主
大阪府在籍
妻 明一七、三生、大阪、稻村重兵衛妹
女 重子 明三八、六生、大阪、稻村重兵衛
君は大阪府人山本太三郎の二男にして明治三十七年九月を以て生れ大正十三年先代祖父源兵衛の後を承け家督を相続し前名治三郎を改め源吉す元大源と稱し蒲團綿商を營みしが現時之を廢し地主たり家族は尚長女惠美子(昭二、一一生)二男泰規(同五、三生)弟喜一郎(大三、六生)ありA一三五六(大阪、南、上本町筋二ノ一六電四二六)
參照 稻村重兵衛の項

山本小四郎

大昭組取締役會長、湯淺蓄電池
製造專務取締役、日本蓄電池
監査役、東京府土族
妻 明二、六生、東京、土、八幡實秋
養子 敏夫 明三四、一一生、福岡、三浦實夫三
女 節子 明四一、二生、養子敏夫妻、熊本
君は舊熊本藩士山本信重の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十三年家督を相続す同二十五年專修學校理財科を卒業し三井物産會社に入り累進して倫敦支店

長代理鐵道掛主任機務部長參事長等に歷任す大正十四年退社して湯淺蓄電池會社專務取締役に就任し傍ら前記會社の重役を兼ぬ家族は尚孫光男(昭元、一一生)養子敏夫長男(同四〇、三生、同長女)妹よし(明六一生)あり養子壽(同四〇、九生、福岡、三浦立市妹)は愛知縣人木村孝則二男法學士鴻池信託會社員友則に嫁せりA一八九九(西宮、松原町七一電一七四七)

山本小四郎

大正組專務取締役、明正社
妻 明一九、一〇生、東京、土、山本
女 照世 明四〇、二生
女 榮子 明四四、三生
君は千葉縣人山本新右衛門の長男にして明治十年十二月を以て生れ先代長六の養子となり同四十二年家督を相続す現時大正組專務取締役に就任し前記會社の重役たり家族は尚四女松子(大八、一一生)四男泰(同二〇、一一生)五女幸代(同二三、一一生)あり(東京市外戸塚町諏訪八二)

山本願彌太

山本願彌太代表社員、綿布商
兵庫縣在籍
妻 明二二、五生、東京、金田芳太郎
長女 明四五、五生
君は兵庫縣人山本博一の弟にして明治十九年一月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治三十八年大阪高等商業學校を卒業し薩摩商會大阪支店に綿布係として入り同四十一年同支店支配人に進みしが後山本商店を創立して昭和三年合資會社となし現に其代表社員たり兼に大阪商工會議所議員日本綿絲布商聯合會常任委員大阪綿布商同業會評議員兼幹事綿絲布商同業會理事貿易協理等に擧げらるる家族は尚二男久彌(大六、九生)長女滋代(同二三、九生)二女ふさ子(昭四、八生)あり(兵庫、武庫、精道村打出宮川一五電寶産三三四七)
參照 山本博一、山本村平八の項

山本信次郎 正四位勳二等功五級、海軍少將、宮内省御用掛、神奈川縣在籍

妻 千代 明一七、七生、東京、士、吉原重

男 一 明四二、二生

女 武子 明四〇、四生

男 正 明四三、五生

女 貞子 明四四、七生

男 貞子 大三、六生

養子 ムメ 明二四、一十生、神奈川、益田五郎

君は神奈川縣人山本庄太郎の二男にして明治十年十二月を以て生れ同三十六年兄百太郎より分れて一家を創立す凡に海軍兵學校を卒業し明治三十三年海軍少尉に任じ果して海軍少將となる其間海軍大學校を卒業し日露戰役に三笠分隊長として出征日本海に於ける露國艦隊降伏事件海軍休戦條約締結等に功績あり爾來東郷元帥副官伊太利大使館附武官海軍軍令部參謀副官安藤副官等に歴補し大正八年講和全權委員附として巴里に出張し尋で南洋群島宣教師問題に關し羅馬法王座に差遣せらる後東京御學問所御用掛東宮職御用掛等を拜命皇太子殿下の御爲め主として佛蘭西語御教授に御通譯に任じ同御殿下海外御巡遊に際し供奉御付られ歸朝後宮内省御用掛となり引續き御通譯並に佛語御研究御相手奉仕昨今は皇太子殿下海外御巡遊に佛語御研究に従事すA三〇〇、東京、麹町、下六番町三電九段三三七〇

參照 濱井龍起の項

山本眞藏 綱干町長、三十八銀行取締役、兵庫縣在籍

妻 ひて 明一四、一〇生、兵庫、和田久作

男 博通 明三四、七生

女 つゆこ 明三七、八生、兵庫、三木拙三三女

君は兵庫縣人山本宗右衛門の長男にして明治十年五月を以て生れ同十六年家督を相続す現時三十八銀行取締役にして綱干町長に擧げらる妹は女(慶應元、三生)は兵庫縣人一羽政念に養子松枝(明二五、二生、兵庫、一羽)

覺念(姉)は同縣人中山治助弟孝太郎に嫁し弟宗治(同一九、二生)は同縣人山本かつの養子となれり(兵庫、掛保、綱干町)

參照 濱井龍起の項

山本慎平 長野新聞社社長、大日本法令出版、鹿川水電氣各社取締役

妻 あさ 明一五、七生、長野、宮崎七重二女

男 力 明四四、四生

女 さだ 明四一、一二生

君は長野縣人山本仁左衛門の二男にして明治九年一月を以て生れ同三十三年家督を相続す同三十四年早稲田大學政治經濟科を卒業し操縦界に入り現時長野新聞社長にして大正十三年以來衆議院議員に當選する事二回又長野日報を主宰し縣會議員同參事會員に擧げらる來各國を巡遊す長女えい(明三六、二生)は長野縣人山本方平に二女とし(同三八、一二生)は同縣人宇都宮利春に亡叔父喜作妻けい(慶應二、四生、長野、酒井圭策長女)は其一女を伴ひ分家し從弟義一(明一九、一一生)は東京府人中澤彦吉の養子となれり(長野、更級、稻荷山町)

參照 中澤義一の項

山本甚右衛門 第五十七銀行取締役、日野土地電社社長、越前電氣、日野川水力電氣、福井信託、江沼土地、山甚商店各社取締役、福井縣在籍

妻 しな 明元、二生、福井、重野新藏妹

君は福井縣人先代甚右衛門の二男同和助の兄にして明治元年三月を以て生れ同二十五年家督を相続し大正十三年養子甚三郎に家督を譲り昭和三年分れて一家を創立す現時第五十七銀行取締役の外前記諸會社の重役たり(福井、南條、武生町)

參照 山本甚三郎、山本和助の項

山本甚三郎 福井縣多額納稅者、山甚商店専務取締役、福井縣在籍

妻 いゑ 明二六、八生、養父甚右衛門長女

男 俊一郎 明四七、七生

君は福井縣人尾形新平の三男にして山本和助の養男なり

明治二十四年五月を以て生れ先代甚三郎の養子となり大正十四年家督を相続し前名英雄を改め養子現時山甚商店専務取締役にして福井縣多額納稅者に列し直接國稅二千三百七十六圓を納む家族は尙ほ二男英二郎(大七、三生)三男敏雄(同九、六生)長女嘉壽子(昭二、三生)あり養父甚右衛門(明元、三生)養母しな(同元、二生)、福井、重野新藏妹)は共に分家せり 福井、南條(武生町)

參照 山本甚右衛門、山本和助の項

山本助三郎 大阪府多額納稅者、地主、大阪府士族

妻 ハナ 明一六、九生、大阪、富田貞藏長女

養子 きぬへ 大元、一〇生、三重、植村由藏二女

君は三重縣人植村仁左衛門の長男にして明治九年十二月を以て生れ先代才藏の養子となり同三十三年家督を相続す凡に大阪に出で袋物商を營み傍ら土地の經營に従事す地主として知られ大阪府多額納稅者に列し直接國稅五千七百圓を納む(大阪、天王寺、細工谷町二七電南二六一六)

山本清三郎 大阪三河屋菓子専務取締役、東京三河屋製菓専務取締役、菓子商、大阪府在籍

妻 フサ 明四四、一〇生、關大在學

男 清 明四四、一〇生、關大在學

君は東京府人山本泰太郎の弟にして明治九年四月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す菓子商を營み傍ら前記各會社の重役たり(大阪、東淀川、北長柄西通二、三三電堀川一七七〇)

山本清次 第四位勳三等功四級、陸軍中將、岡山縣在籍

妻 榮 明二〇、六生、岡山、士、屋葺友次郎長女

男 康 明四一、一〇生

君は岡山縣人山本治三郎の三男にして明治六年六月を以て生れ同三十七年兄平太方より分れて一家を創立す同三十年陸軍歩兵少尉に任じ昭和二年陸軍中將に累進す其間歩兵第十五旅團長第九師團司令部附等に歴補し昭和二年豫備役に編入せらる家族は尙五男義雄(大五、昭)

七生、六男光義(同七、二生)七男正雄(同九、一一生)三女澄枝(同一、二生)八男清亮(同一三、一〇生)あり(東京市外杉並町田端七〇〇)

山本善四郎 中島商業銀行専務取締役、石川縣在籍

祖母 かつゑ 文久二、二生、石川、淺井慶秀姉

母 かす 明一二、二生、石川、三枝三平長女

妻 千里 明四〇、五生、石川、河合松太郎長女

君は石川縣人先代善四郎の長男にして明治三十四年三月を以て生れ同四十五年家督を相続し前名善一を改め養子現時中島商業銀行頭取たり家族は尙長女芳子(大一一、五、三生)三女里枝(昭五、五生)あり妹は子(明三六、一一生)は石川縣人坂本貫一に叔母みちよ(同三〇一〇生)は同縣人淺井慶秀二男慶昭に同ゆり子(同三六一二生)は同縣人金田金雄に嫁せり(石川、鹿島、中島村)

山本善治 昭和製糖、永樂土地建物各社取締役、臺灣銀行專務取締役、臺灣銀行在籍

父 清治郎 安政二、八生、現戸主

妻 百合 明三三、一一生、長野、木下憲妹

君は千葉縣人山本清治郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時臺灣銀行本店支店八兼調査課長の外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙弟吉(明二四、五生)同妻靜江(同二四、九生、千葉、田中龜吉妹)弟克(同三〇一〇生)あり(臺北、臺灣銀行在籍)

山本宗一 大阪府在籍、大阪府在籍、醫師

妻 マチ 明一五、一二生、佐賀、士、牟田口健兒妹

君は大阪府人山本洪輔の長男にして明治六年十月を以て生れ同三十二年家督を相続す同二十八年岡山醫學專門學校を卒業し現に大阪府精神科長たり家族は尙弟弟淳(明一五、三生、醫學博士)同妻鏡子(同二七、五生、奈良、今村幸男妹)及其子女妹フユカ(同一九、一一生)あり同浪香(同一二、四生)は醫學博士増山正信に嫁せりA一〇四、大阪、天王寺、逢坂上之町一〇電天王寺四三三

參照 増山正信、山本淳二の項

山本宗三郎 富國火災海上保險専務取締役、大華電氣監査役、京都府在籍

妻 むめ 明一七、三生、徳島、筒井種吉妹

男 東平 明一八、一一生

男 廣吉 明四二、五生

男 宗吉 明四四、四生

君は京都府人山本吉兵衛の長男にして明治九年二月を以て生れ同十九年母むめの後を承け家督を相続す同三十年京都商業會議所書記となり次で日本酒造明治火災保險各會社を経て日本火災保險會社に入り京都大阪各支店長に擧げらる現時前記各會社の重役たり家族は尙五男隆造(大三、二生)六男仁三(同五、一一生)長女清子(同七、一一生)七男吉三(同九、二生)ありA一六(東京市外澁谷町永住五〇電高輪五二六〇)

山本惣治 戸畑物産取締役、東京府在籍

妻 トク 明二六、一一生、新潟、伊藤一隆三女

男 素明 明二六、一一生、新潟、伊藤一隆三女

君は新潟縣人山本明治郎の五男にして明治二十一年十月を以て生れ昭和三年兄惣平より分れて一家を創立す明治四十五年東京外國語學校を卒業し大正八九年米國に學ぶ現時戸畑物産取締役たり家族は尙二男隆明(大八、一〇生)三男敏明(同一〇、七生)長女正子(同一二、一一生)二女春子(同一三、四生)四男英明(同一五三生)六男泰明(昭五、九生)あり(東京市外東調布町下沼部三二電田圃調布五七二)

參照 三田田圃調布五七二

山本他家松 正五位勳三等、海軍教授、海軍兵學校普通學教官、石川縣士族

母 く 嘉永六、八生、石川、士、相川豊

妻 文子 明二四、七生、石川、士、山瀬一元長女

男 太郎 大四、六生

女 鈴江 明四三、六生

君は石川縣士族山本克之の三男にして明治十年十一月を以て生れ同三十八年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業し海軍に入り同年海軍教授に任ぜられ海軍兵學校普通學教官に補せらる大正十四年海軍生徒採用試験常置委員となり現時前記の職にあり家族は尙兄孝太郎(明三、三生、現戸主)同妻ツネ(同一〇、一一生、石川、士、松田宗吉妹)及び其子女弟新磨(同一八、二生)同妻富美子(同二九、四生、石川、士、竹内外長松二女)あり姉みさを(同五、一一生)は京都府士族河合十太郎に嫁せり(廣島、安藝、江田島村海軍兵學校在)

參照 河合十太郎の項

山本泰造 六十八銀行、大和索道各社取締役、奈良縣在籍

妻 ユタヘ 明四三、七生

女 健一 明四三、七生

女 品 明四五、七生

女 秀 大三、五生

君は奈良縣人山本七九郎の長男にして同米三の養弟なり明治十九年七月を以て生れ大正十五年家督を相続す現に前記銀行會社の重役たり家族は尙二男卓治(大五、六生)三女高(同八、四生)あり 奈良、宇智、五條町電一五三

參照 山本米三の項

山本大次郎 靜岡縣多額納稅者、此花商事専務取締役、醬油醸造業、靜岡縣在籍

妻 かね 安政五、二生、靜岡、曾田總太郎妹

男 吉雄 明四〇、四生

男 雄之輔 明四二、一一生

男 錦次郎 明四四、八生

君は靜岡縣人山本善吉の長男にして明治十五年九月を以て生れ先代茂三郎の養子となり同三十八年家督を相続す醬油醸造業を營み傍ら此花商事會社取締役にして直接國稅二千四百八十九圓を納め靜岡縣多額納稅者たり義に靜岡實業銀行の重役たりしことあり家族は尙四男鏡治(大二、六生)七男朋三郎(同九、六生)八男鏡太郎(同一、一一生)二女園(同一三、八生)あり(靜岡市研屋町二八)

山本武夫 日本郵船香港支店長、岡山縣士族

高中洲に師事し又獨逸學協會に於て同十九年獨逸に留學し御料局給費生を命ぜられてボツダム・ホーヘンハム各大學に農藝化學經濟學を専攻す同二十六年英國に轉じ翌二十七年歸朝に御料局囑託となる爾來第二高等學校講師同教授日本勸業銀行鑑定課長に歴任し實業界に投じ臺灣倉庫亞細亞煙草各會社社長を初め多數會社の重役に就任す同三十七年毎回衆議院議員に當選し立憲政友會の領袖にして昭和二年田中内閣成るや入りて農林大臣となる現時閑地に在り日露事件の功に依り旭日小勳章を日露事件の功に依り瑞寶章を賜ひ又大正八年多年政界に盡したるを以て旭日中級章を賜はるA二五〇(東京市外目黒町上目黒五本木二六五八電番山五六五八)

參照 有田八郎の項

山本傳兵衛

福井縣多額納稅者、教習中央倉庫(社長)、教習二十五銀行、教習兼港倉庫各取締役、地主、福井縣在籍

妻 藤 明三、一、一生、滋賀、村田虎次郎

男 良 明三、一、一生、立命館大學出身

女 英子 明三、一、一生、長男良男妻、大阪府小野市兵衛長女

男 忠 明三、一、一生、一、一生

山本東作

鐵鋼商 大阪府在籍

山本藤助

大阪府多額納稅者、山本藤助商店、山本汽船、別府土地各社長、大阪鐵製鐵器取締役、地主、大阪府在籍

母 八、五、一生、祖父藤助長女

山本德治郎

東京府多額納稅者、海音商

妻 ミチ 明三、一、一生、養叔父保三郎長女

男 繁太郎 大、四、一生

女 繁美子 大、四、一生

山本篤一郎

安田銀行小倉支店長 和歌山縣在籍

妻 イト 明二、五、三、一生、大阪、小島喜三郎妹

男 彌太郎 大元、八、一生、小倉高女在學

女 マサ 大元、八、一生、小倉高女在學

山本留次

東京商工會議所常務議員、博通社、文運堂、大日本鉛筆各社長、東京商會會長、北越製紙、日本フエルト、富谷製藥所、博文館、日本加工製紙、南滿製業、オリエンタル電氣、明治製業、日本クロロス工業各監査役、東京府在籍

妻 スヅ 明一、〇、八、一生、早大出身

男 博 明一、〇、八、一生、早大出身

女 菊子 明一、〇、八、一生、早大出身

山本友彦

澤田隆三平生八郎廣岡松三郎の項

妻 サト 明二、〇、五、一生、大阪、米澤安太郎

女 正居 明三、五、九、一生、二女富美子夫、大富美子 明四、一、九、一生、養子正居妻

女 きみ子 明三、九、一、一生

山本俊慶

小林機寸製造所代表取締役、辯護士、辨理士、兵庫縣在籍

妻 麻子 明二、五、八、一生、東京、山口孝太郎

男 誠行 大、三、二、一生

女 辰子 大、五、一、一生

山本豊吉

福岡縣多額納稅者、山本殖産取締役、金銀業、福岡縣在籍

妻 コマ 慶應元、二、一生、養父與平四女

男 豊次 慶應元、二、一生、養父與平四女

山本豊次

宮城電氣興業社長、宮城電氣鐵道代表取締役、山口縣在籍

妻 ミムロ 明一、九、一、〇、一生、新井太郎長女

男 壽雄 大、三、八、一生

女 千鶴子 明四、二、四、一生

女 菊香 明四、三、一、〇、一生

山本敏一

南奏育英會主事 和歌山縣在籍

妻 カメエ 明二、一、一、二、一生、和歌山、森岡萬吉長女

男 敏郎 大、五、七、一生

山本留次

東京商工會議所常務議員、博通社、文運堂、大日本鉛筆各社長、東京商會會長、北越製紙、日本フエルト、富谷製藥所、博文館、日本加工製紙、南滿製業、オリエンタル電氣、明治製業、日本クロロス工業各監査役、東京府在籍

妻 スヅ 明一、〇、八、一生、早大出身

男 博 明一、〇、八、一生、早大出身

女 菊子 明一、〇、八、一生、早大出身

山本豊次

宮城電氣興業社長、宮城電氣鐵道代表取締役、山口縣在籍

妻 ミムロ 明一、九、一、〇、一生、新井太郎長女

男 壽雄 大、三、八、一生

女 千鶴子 明四、二、四、一生

女 菊香 明四、三、一、〇、一生

山本篤一郎 安田銀行小倉支店長 和歌山縣在籍

山本俊慶 小林機寸製造所代表取締役、辯護士、辨理士、兵庫縣在籍

山本留次 東京商工會議所常務議員、博通社、文運堂、大日本鉛筆各社長、東京商會會長、北越製紙、日本フエルト、富谷製藥所、博文館、日本加工製紙、南滿製業、オリエンタル電氣、明治製業、日本クロロス工業各監査役、東京府在籍

山本豊吉 福岡縣多額納稅者、山本殖産取締役、金銀業、福岡縣在籍

山本豊次 宮城電氣興業社長、宮城電氣鐵道代表取締役、山口縣在籍

山本敏一 南奏育英會主事 和歌山縣在籍

山本留次 東京商工會議所常務議員、博通社、文運堂、大日本鉛筆各社長、東京商會會長、北越製紙、日本フエルト、富谷製藥所、博文館、日本加工製紙、南滿製業、オリエンタル電氣、明治製業、日本クロロス工業各監査役、東京府在籍

山本友彦 澤田隆三平生八郎廣岡松三郎の項

山本徳治郎 東京府多額納稅者、海音商

山本友彦 澤田隆三平生八郎廣岡松三郎の項

山本徳治郎 東京府多額納稅者、海音商

山本豊次 宮城電氣興業社長、宮城電氣鐵道代表取締役、山口縣在籍

山本敏一 南奏育英會主事 和歌山縣在籍

し直に支那政府の招聘に應じ福建學堂の教授となり大正元年歸朝するや高田鐵業會社に入り高田山鐵業會社...

山本虎之助

山本虎之助代表社員、土木建築請負業、京都府在籍

君は兵庫縣人山本喜三治の二男にして元治元年十一月を以て生れ明治十五年先代叔父角右衛門の跡を承け家督を相続す土木建築請負業を營み山本虎之助代表社員たり...

山本寅雄 從五位、裡農林學校長、熊本縣士族

山本寅吉

大阪府在籍

君は熊本縣士族山本長三郎の三男にして現戸主秀規の弟なり明治二十三年十一月を以て生れ大正五年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し大分縣立農學講習所講師に任じ十年朝鮮總督府に入り全州公立農學校教諭同校長を経て現時裡農林學校長の職にあり家族は尙長女泰子(大七、六生)三女朝子(同一〇、七生)四女律子(同一四、二生)三男秀秀(昭五、八生)あり(朝鮮、全羅北道、裡農林學校内) 參照 山本秀規の項

山本直治郎

神戸又新日報社取締役、大阪府在籍

君は香川縣人山本藤太の三男にして明治二十六年十二月を以て生れ大正十二年現戸主さくらの入夫となる現時神戸又新日報社取締役たり家族は尙長女淑子(大九、四生)三女あり養母チヨ(天保一〇、一女生、大阪、浪川伊兵衛四女)は分家し養父正三郎(明一四、一女生)も亦分家し養妹さん(同二六、六生)は大阪府人寺田ツル養子儀太郎に嫁せり(大阪、住吉、天王寺町)

山本直太郎

正五位勳四等、逓信省郵務局長、京都府士族

君は京都府士族山本長敬の長男にして明治十八年一月を以て生れ同四十五年家督を相続す同四十四年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し同年文官高等試験に合格す

山本直文

正六位、學問院教授、京都府在籍

君は東京府人伊藤直光の二男にして明治二十三年八月を以て生れ先代忠道の子となり大正十四年家督を相続す同六年東京帝國大學文部大學佛文科を卒業し現に學問院教授たり同十三年宮内省在外研究員を命ぜらる昭和四年七月一日附を以て佛國政府より文藝有功章一等(アンストリニクシヨウ・ピンブリック)を贈與せらるる家族は尙二女ユカ(大六、一〇生)二男辰二郎(同一二、九生)三男興三郎(同一五、九生)あり A四〇〇(東京)

市外高田町鶴山一四六七電牛込六二七五

山本直良

日本郵船監査役、東京府士族

君は舊小濱藩士山本直成の二男にして明治三年二月を以て生れ同三十年先代兄直行の跡を襲ひ家督を相続す夙に帝國大學農科大學を卒業し一時官職に就けるも之を辭し現に日本郵船會社監査役に千歳火災海上再保險スマトラ興業明治製糖明治製菓各會社の重役たりし事あり兼に輕井澤に三笠ホテルを經營し傍ら同地に農園を開闢す大正十一年南米企業組合代表者として南米を視察し尋で歐米各國を漫遊し翌年歸朝す妹挺子(明五、一女生)は東京府士族尺秀三郎に嫁せり A三六七四(東京、麹町、紀尾井町三電九段二〇六) 參照 有馬行光、與野野寬、高木喜寬の項

山本仲助

岡山縣多額納稅者、岡山縣在籍

君は岡山縣人山本仲治の長男にして安政三年六月を以て生れ明治十年家督を相続す尙商にして直接國稅三千五百圓を納め岡山縣多額納稅者たり家族は尙孫三(大元、一〇生)長男仲太郎(同一三、七生)同二男同章(同七、七生)同三男同勝子(同一二、一女生)同二女...

山本仁作

若尾保全總取締役、山梨貯蓄銀行監査役、山梨縣在籍

君は山梨縣人山本伊作の二男にして明治八年四月を以て生れ同三十九年分れ一家を創立す現時前記銀行會社の重役にして兼に若尾銀行取締役甲府商工會議所常議員に擧げらるる家族は尙三男三郎(大九、七生)あり二女成子(明四四、四生)は山梨縣人相澤晋造の養子となれり(甲府、紅梅町一電一〇三五)

山本長方

從四位勳三等、工學博士、大阪工業大學教授、東京府士族

君は東京府士族山本長充の長男にして明治三年一月を以て生れ同三十八年家督を相続す夙に英國に航し同二十八年グラスゴウ大學理工學部造船科を卒業しパナマ・オパ・サイエンスの稱號を受け長崎造船所技師となり同四十四年グラスゴウ大學よりドクトル・オブ・サイエンスの學位を受く大正八年工學博士の學位を授與せらるる同十年東京帝國大學教授に任ぜられ昭和五年大阪工業大學教授に轉じ今日に至る長女長子(明四〇、二生)は京都府人醫學士安田守雄に嫁せり(大阪、大阪工業大學内)

山本信夫

住友肥料製造所常務取締役、住友炭礦取締役、滋賀縣在籍

君は舊彦根藩山本重信の長男にして明治十三年四月を以て生れ同十六年家督を相続す同四十年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し直ちに住友合資會社に入り同社若松炭礦所勤務となり大正二年同所忠誠炭坑主任に進む同七年海外留學を命ぜられ米國ボストン市マサチューセツツ・インスチテュート・オブ・テクノロジに學び同九年歸朝同所技師長支配人部長等を歴任し昭和三年同所の組織變更と共に同社の常務取締役に擧げらるる翌年之を辭し住友肥料製造所常務取締役に就任現任の海外視察の爲日下洋行中なり家族は尙二男俊夫(大一一、四生)あり弟太郎(明二四、一女生)は滋賀縣士族山本金一郎の家籍に入れり A二一〇〇(大阪、東、谷町二ノ三電東一三二)

山本信博

都新聞社總理理事兼編輯局長、愛媛縣在籍

君は愛媛縣人山本盛信の長男にして明治十年十二月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し同三十八年都新聞社に入り爾來兼進して現時同社理事兼編輯局長たり家族は尙孫昭子(昭五、四生)養子文彦(長女)あり弟信隆(明三二、七生)同妻美代子(同三九、八生)愛媛、門屋龜三郎孫は共に分家せり A八三(東京市外入新井町新井宿一五六電大森九〇六)

山本信政

從六位、判事、東京地方裁判所判事、東京府在籍

君は岡山縣人山本信治の長男にして安政三年六月を以て生れ明治十年家督を相続す尙商にして直接國稅三千五百圓を納め岡山縣多額納稅者たり家族は尙孫三(大元、一〇生)長男仲太郎(同一三、七生)同二男同章(同七、七生)同三男同勝子(同一二、一女生)同二女...

山本文六 東京府札印印刷取締役、東北開墾監査役、片岡辰次郎商店會計主任、愛知縣在籍

山本政太郎 山本商店代表社員、大阪株式取引所引員、下駄漕商

山本萬太郎 大澤銀行頭取、兵庫縣在籍

山本正英 從五位勳五等、地方技師、東京府立園藝學校校長、静岡縣在籍

山本倍三 日清紡績取締役、東京府在籍

山本美越乃 正四位勳三等、法學博士、京都帝國大學教授、經濟學部勤務

山本政一 兵庫縣在籍、雜貨商

山本又三郎 川又商店、醬油商

山本彌吉 同商工會議所議員、東海製菓總務取締役、愛知縣在籍

山本幹雄 正五位勳三等、陸軍軍醫監、廣島衛戍病院長、石川縣在籍

山本盛正 川崎造船所專務取締役、川崎汽船、川崎車輻各取締役

山本安太郎 愛知縣多額納稅者、豊橋商工會議所副會頭、漁網製造販賣業

山本茂三郎 寺田同族社長、帝都座專務取締役、伊勢茂、木綿類及足袋地製織卸業、東京府在籍

山本彌右衛門 從七位勳六等、陸軍歩兵中尉、宮崎縣多額納稅者、延岡銀行、宮崎縣在籍

山本康太郎 辯護士、家主、大阪府在籍

山本政一 兵庫縣在籍、雜貨商

山本又三郎 川又商店、醬油商

山本彌吉 同商工會議所議員、東海製菓總務取締役、愛知縣在籍

山本幹雄 正五位勳三等、陸軍軍醫監、廣島衛戍病院長、石川縣在籍

山本盛正 川崎造船所專務取締役、川崎汽船、川崎車輻各取締役

山本安太郎 愛知縣多額納稅者、豊橋商工會議所副會頭、漁網製造販賣業

山本茂三郎 寺田同族社長、帝都座專務取締役、伊勢茂、木綿類及足袋地製織卸業、東京府在籍

山本彌右衛門 從七位勳六等、陸軍歩兵中尉、宮崎縣多額納稅者、延岡銀行、宮崎縣在籍

山本康太郎 辯護士、家主、大阪府在籍

山本政一 兵庫縣在籍、雜貨商

山本又三郎 川又商店、醬油商

山本彌吉 同商工會議所議員、東海製菓總務取締役、愛知縣在籍

山本幹雄 正五位勳三等、陸軍軍醫監、廣島衛戍病院長、石川縣在籍

山本盛正 川崎造船所專務取締役、川崎汽船、川崎車輻各取締役

山本安太郎 愛知縣多額納稅者、豊橋商工會議所副會頭、漁網製造販賣業

山本茂三郎 寺田同族社長、帝都座專務取締役、伊勢茂、木綿類及足袋地製織卸業、東京府在籍

山本彌右衛門 從七位勳六等、陸軍歩兵中尉、宮崎縣多額納稅者、延岡銀行、宮崎縣在籍

山本康太郎 辯護士、家主、大阪府在籍

山本政一 兵庫縣在籍、雜貨商

山本又三郎 川又商店、醬油商

山本彌吉 同商工會議所議員、東海製菓總務取締役、愛知縣在籍

妻 トシ 明三七、二二生、衆議院議員一松君は大阪府土族山本淳吉の長男にして明治三十四年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す同十五年東京帝國大學法學部英法科を卒業し辯護士にして家主として知らる家族は尙長女英子(大、一四、一〇)生、二女美知子(昭四、一二)生、三女あり妹敏子(明三三、八)生、和歌山縣人法學士藤本哲に同高都子(同四、二)生、は大阪府人城矢太郎三男理學士憲三に嫁せりA八七六(大阪、天王寺、東高津南之町一三電南一八一)

參照一松定吉の項

山本 幸枝 日本郵船大阪支店長
高知縣土族

母 三喜 嘉永三、七生、高知、土、山本重行長女

妻 小鹿 明三、一、生、高知、村山涉長女

男 幸仲 大三、一、生

女 美津 明四五、六生

君は高知縣土族山本幸彦の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正二年家督を相続す明治四十年京都帝國大學法學部法科を卒業し日本郵船社に入り果進して現時同社大阪支店長たり家族は尙弟彦吉(明一三、一二)生、妹壽衛(同一九、二)生、養妹禮(同四二、一)生、高知、山本丑太郎孫ありA四〇一(大阪、住吉、天王寺二二八六電天王寺一〇八二)

參照一松定吉の項

山本 幸男 從三位勳二等、選信技師兼高等海員審判所審判官、管船局船務課長
東京府土族

妻 榮枝 明一九、一〇生、神奈川、松尾豐材四女

男 邦男 大四五、五生

君は奈良縣土族山本幸太郎の長男にして明治七年八月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名捨一を改む同三十三年東京帝國大學工學部造船科を卒業し海軍官に任じ横濱海務署に奉職す同三十六年香港に出張し同四十年海軍局技師となり同四十二年歐米各國に差遣せらる同四十四年商船學校教授兼選信技師に任ぜられ其の後選信技師となり選信管理局技師選信局技師高等海員審判所審判官選信省臨時調査局技師臨時船務管理局技師等に歴任し大正二年蘭領印度其他南洋方面に出張を命ぜられ同九年國際労働會議政府代表顧問として英佛獨米伊各國に出張す現時前記の官職に在り尙同七年以來東京帝國大學工學部講師の官職に在り尙同四年ロンドン國際海上人命安全條約改訂會議に主席帝國委員として參列す家族は尙四女萬里子(大、一一、一)生、あり二女千代子(明四〇、七)生、雙葉高女出身は法學士日本銀行員若命又男に三女英子(同四二、七)生、東京府立第三高女出身は商學士三井物産會社員早川俊郎に嫁せり(東京、赤坂、青山南町五ノ四五電青山六二六)

參照一松定吉の項

山本 幸雄 從五位勳六等、東京高等師範學校教諭、山梨縣在籍

父 幸次 嘉永四、一二生

妻 キク 明二五、二、生、佐賀、吉田龍吉二女

男 洋幸 大一一、一、生

君は山梨縣人山本幸次の二男にして明治二十三年二月を以て生れ大正三年東京高等師範學校を卒業し東京女子高等師範學校教諭に任じ同校教諭兼訓導を経て同九年東京高等師範學校教諭に任ぜられ今日に至る家族は尙長女久里子(大、八、九)生、二女朝子(同、一、四)生、三女静子(昭四、一)生、弟外吉(明三三、九)生、同妻操(同三三、四)生、滋賀、古川銀次郎二女、及其一女あり弟他吉(同二八、一)生、は石川縣人吉田次三郎の養子となり同正吉(同三二、六)生、は分家せり(金澤、森町二番丁六電二四九二)

山本 與吉 從五位、第四高等學校教授
石川縣在籍

父 與次郎 文久二、七生、現戶主

母 すへ 明二、二、生、石川、大屋菊次郎妹

妻 外 明二、一、九、生、石川、卷岡友吉妹

男 與 昭二、一、生

君は石川縣人山本與次郎の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正六年東京帝國大學文部科大學英文學科を卒業し現時第四高等學校教授たり兼に英米獨各國に留學す家族は尙長女洋子(大、八、九)生、二女朝子(同、一、四)生、三女静子(昭四、一)生、弟外吉(明三三、九)生、同妻操(同三三、四)生、滋賀、古川銀次郎二女、及其一女あり弟他吉(同二八、一)生、は石川縣人吉田次三郎の養子となり同正吉(同三二、六)生、は分家せり(金澤、森町二番丁六電二四九二)

山本 芳太郎 三越本部課調査課長
廣島縣在籍

君は兵庫縣人小田佐市郎の二男にして慶應二年一月を以て生れ後先代ツギの養子となり明治三十三年家督を相続し前名虎吉を改む現時大阪製粉會社取締役にして山本要商店監査役たり養弟勝次郎(明九、九)生、は分家せりA一三九五(大阪、北、榎上町四三電四北二二五五)

參照一山本勝次郎の項

山本 與三郎 安來製鋼所、合同汽船各廠監査役
計理士、酒造業、島根縣在籍

祖母 マツ 安政三、五、生、島根、足立春臺長女

母 ヲウ 明六、四、生、島根、越河市藏二女

妻 トキヨ 郎長女

君は島根縣人先代與三郎の長男にして明治二十九年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続し前名令一郎を改め製粉酒造業を營み計理士にして現時前記各會社の重役たり家族は尙長女枝(大、一〇、三)生、二女若菜(同、一三、七)生、三女美蓉(昭二、一)生、四女重(同四、一)生、あり(島根、能義、安來町電四三三)

山本 與三郎 蘇東興業社社長
愛知縣在籍

妻 しやう 庶子

男 幹一 明三五、一、生

女 國子 明三二、一、二、生

男 定治 明四一、七、生

女 住枝 明四三、一〇、生

君は愛知縣人山本與七の長男にして明治三年六月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時蘇東興業社社長たり家族は尙三男信行(大、三、八)生、四男清春(同、一〇、八)生、孫美那(同、一五、三)生、長女國子長女あり(名古屋、福宜町二ノ一九)

山本 要助 大阪製粉會社取締役、山本要商店監査役、小麥粉卸商、大阪府在籍

妻 スエ 明一、二、五、生、養父要助二女

男 要 明四〇、九、生

君は兵庫縣人小田佐市郎の二男にして慶應二年一月を以て生れ後先代ツギの養子となり明治三十三年家督を相続し前名虎吉を改む現時大阪製粉會社取締役にして山本要商店監査役たり養弟勝次郎(明九、九)生、は分家せりA一三九五(大阪、北、榎上町四三電四北二二五五)

參照一山本勝次郎の項

山本 昌 明四二、一二生、長男隆一妻、大阪、榎本校吉二女

山本 清 明四三、一〇生

君は大阪府人植木楯之祐の三男にして山本泰造の養兄なり明治九年十二月を以て生れ山本七九郎の養子となり大正八年分れて一家を創立す林業及酒造業を營み宇智郡酒造組合長に推され又前記會社の重役にして大阪府多額納税者に列し直接納税一千四百四十九圓を納む兼に奈良縣農工銀行取締役たりし事あり(奈良、宇智、五條町)

參照一山本泰造の項

山本 義孝 高知縣會議員、高知鐵道取締役
高知縣在籍

妻 小藤 明二五、一、生、高知、三木貞正妹

男 直 大、一〇、一〇、生

女 義子 大五、一、生

君は高知縣人山本義和の四男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十年兄正己方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして推されて高知縣會議員たり家族は尙二女紀子(大、八、三)生、三女總子(同、一四、三)生、あり(高知市大川筋八三)

山本 義人 日本ドロマイト、大分縣土族
大分縣在籍

妻 花枝 明三二、三、生、埼玉、平澤英二叔母

君は大分縣土族山本泰雄の四男にして明治二十五年四月を以て生れ大正十年家督を相続す現時前記會社の重役たり家族は尙長女美枝子(大、六、一)生、二女和子(同、八、五)生、三女妙子(同、一、一)生、四女浩子(同、一、五)生、三弟勇(明二八、一〇)生、同妻春野(同三三、三)生、京都、平澤英二叔母及其二女あり同平(同二七、一)生、は分家し姉ウメ(同二二、一)生、は廣島縣土族稻葉實に妹光(同三一、一)生、は大分縣土族中山惟一弟寛に嫁せり(大阪、豊能、箕面村電一三九)

參照一稻葉實、中山惟一の項

山本 義晴 松山商工會議所議員、愛媛縣多額納税者、伊豫銀行、松山土地建物各種取締役、藤陽興信監査役
愛媛縣土族

山本 義路 正興公司、大正製藥各社社長、日本體育用品製造取締役、山本洋行、運動用具製造業、東京府土族

母 貞 嘉永二、一、生、愛知、土、永田勝次郎三女

妻 嘉代 明二五、六、生、茨城、佐藤長之助三女

男 義治 大五、一、生

女 義子 明四五、五、生

君は東京府土族山本義方の三男にして明治十七年二月を以て生れ大正四年經美恵の後を襲ひ家督を相続す明治四十二年慶應義塾理財科を卒業し運動用具製造業を營み山本洋行主にして現に前記各會社の重役たり家族は尙二女まさ(大、七、七)生、三男芳(同、一三、一)生、あり姪美恵(明治二九、二)生、七兄錠太郎長女は男爵原口保弟亭に嫁せり(東京市外代々木幡町代々木富ヶ谷一四〇〇)

參照一男爵原口保の項

山本 義孝 高知縣會議員、高知鐵道取締役
高知縣在籍

妻 小藤 明二五、一、生、高知、三木貞正妹

男 直 大、一〇、一〇、生

女 義子 大五、一、生

君は高知縣人山本義和の四男にして明治十八年十二月を以て生れ大正十年兄正己方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして推されて高知縣會議員たり家族は尙二女紀子(大、八、三)生、三女總子(同、一四、三)生、あり(高知市大川筋八三)

山本 米三 奈良縣多額納税者、大和酒造監査役、大和酒造代表社員、林業
奈良縣在籍

男 隆一 明三七、五、生

山本 米藏 山本組、建築設計請負業
京都府在籍

妻 米と 慶應二、一、生、福井、山口定吉妹

男 米一 明三五、一〇、生

女 ちよ子 大村芳次郎三女

君は福井縣人山本與右衛門の三男にして慶應三年六月を以て生れ明治四十年兄吉六方より分れて一家を創立す山本組と稱し建築設計請負業を營む家族は尙孫米治(昭四、一)生、二男米一(長男)同治子(同五、二)生、同長女あり二女よね(明三二、七)生、同夫磯十郎(同、一、九)生、福井、的場辰之助弟)は共に分家し三女きみ(同三九、一)生、も亦分家せりA一六九三(京都、下京、高倉五條下ル地町電下二四〇二)

山本 利吉 山本商事務取締役
廣島縣在籍

君は廣島縣人山本多八の四男にして明治十三年九月を以て生れ現時山本商事務取締役たり家族は尙兄富助(文久元、八)生、現戶主)同妻ハル(元治元、一)生、廣島、橋高幸平長女)明文造(明一六、二)生、兄富助長男)及其妻あり兄源吉(慶應三、六)生、弟貞吉(明三〇、一)生、兄富助四男)同安市(同三五、九)生、同五男)は各分家し同勝三(同二六、一)生、同妻イツ(同二九、三)生、廣島、長迫訓一郎妹)も亦共に分家し姉マツ(同三、一)生、は廣島縣人竹内太七養子萬助に嫁タカ(同二二、二)生、兄富助長女)は他に嫁し眞真吾(同、一、九)生、兄富助二男)は同縣人延岡吉松の養子となれり(廣島、沼隈、水谷村)

山本 義晴 松山商工會議所議員、愛媛縣多額納税者、伊豫銀行、松山土地建物各種取締役、藤陽興信監査役
愛媛縣土族

山脇善五郎 地主 東京府在籍
 妻 長二、五生、東京、川島歌次郎
 男 靖一 大二、一一生
 君は東京府人山脇善助の長男にして明治十六年十月を以て生れ前名善助を改め同二十五年分れて一家を創立す地主たり家族は尙二男治二(大五、九生)あり長女道子(明四三、七生)は東京府人山脇千枝子の家督を相続せりA二一五(東京、本郷、駒込林町三五電小石川七五二七)

山脇房子 山脇高等女学校長、日本養蚕検査役、東京府士族
 妻 春樹 明四、五生、長女春二夫、京都、畑田清平四男、現戸主、從三位勳二等元愛知縣知事
 女 春二 明一二、二生、養子春樹妻
 孫夫 秀輔 明二九、五生、孫文夫、海軍中將
 孫 文 明三五、四生、孫秀輔妻
 女史は舊雲州松江藩士小倉三省の妹にして慶應三年六月を以て生れ明治二十七年嫁して山脇家に入る夙に松江女子師範学校を卒業し夫を扶けて家政を處理し山脇高等女学校を興して女子教育の任に當る我國女流教育界の權威たり尙ら日本養蚕検査役を兼ね家族は尙曾孫彰(大一二、一〇生、孫秀輔長男)同馨(同一五、三生、同二男)同輝(昭二、一〇生、同三男)あり二女初音(明一五、六生)は工學博士莊司市太郎に嫁せりA一四一三(東京、赤坂、梅町三電青山五三〇七)
 參照 莊司市太郎、白根熊三の項

山脇正吉 森村同族専務取締役、東洋電機製造、白山水力、日本磚子、程ヶ谷ゴルフ、東洋タイプライター、各取締役、森村組監査役、東京府士族
 父 正敏 萬永六、二生、現戸主
 母 阿津 治右衛門二女
 妻 スマ 明二四、三生、男爵森村市左衛門養妹
 男 正元 大三、二生

山脇正隆 從五位勳四等、陸軍歩兵大佐、參謀本部課長兼陸軍大學校教官、高知縣士族
 妻 文雄 明二三、四生、高知、土、安岡明綱長女
 男 正文 大四五、七生
 女 綾 明四三、三生

山脇雄三郎 佐竹鐵工所専務社長、農業、廣島縣在籍

山脇正次 東邦瓦斯、九州瓦斯各取締役、兵庫縣在籍
 妻 トリ 萬延元、八生、兵庫、鈴木開藏長女
 母 ひさ 明二四、九生、愛知、加藤銀次郎妹
 男 正郎 明四四、四生
 女 清子 明四四、一一生
 君は兵庫縣人山脇文三郎の二男にして明治十七年十二月を以て生れ大正六年母トリの後を承け家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男明(大一二、二生)ありA四六二(名古屋、中、丸屋町五ノ三三電南一六二六)
 參照 青木留次郎の項

山脇正次 村茂樹の項

大和眞太郎 大和護謄製作所代表取締役、印刷製造業、福井縣在籍
 妻 つな 明元、四生、福井、高山吉三郎二女
 母 よう 明三一、二生、東京、小村井澤次郎孫
 男 澄道 大四五、二生
 女 澄子 大四五、二生
 君は福井縣人大和守三郎の長男にして明治二十三年四月を以て生れ大正九年家督を相続す印刷製造業を營み尙ら前記會社の重役たり家族は尙二女榮子(大六、九生)四女君子(昭三、二生)あり妹キヲ(明三二、一〇生)は東京府人町田英治郎に嫁せりA一九一六五B三三六〇(東京市外本町湯江五〇〇電墨田三〇六七)

大和忠六 熊本縣多額納稅者、地主、熊本縣在籍
 妻 イシ 文久二、五生、熊本、龜井改平長女
 男 志三 明四四、一一生
 女 美津子 大四、一一生
 君は熊本縣人大和忠平の長男にして明治九年六月を以て生れ大正二年家督を相続す地主にして直接國稅二千二百五十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙四男忠四(大七、五生)四女綾子(同一〇、四生)五男壽男(同一五、四生)あり長女鶴(明三五、一〇生)同夫眞助(同三三、四生、熊本、永目龜太郎二男)は其一子を得ひ分家せり(熊本、宇土、宇土町)

山脇雄三郎 佐竹鐵工所専務社長、農業、廣島縣在籍

大和眞太郎 大和護謄製作所代表取締役、印刷製造業、福井縣在籍
 妻 つな 明元、四生、福井、高山吉三郎二女
 母 よう 明三一、二生、東京、小村井澤次郎孫
 男 澄道 大四五、二生
 女 澄子 大四五、二生
 君は福井縣人大和守三郎の長男にして明治二十三年四月を以て生れ大正九年家督を相続す印刷製造業を營み尙ら前記會社の重役たり家族は尙二女榮子(大六、九生)四女君子(昭三、二生)あり妹キヲ(明三二、一〇生)は東京府人町田英治郎に嫁せりA一九一六五B三三六〇(東京市外本町湯江五〇〇電墨田三〇六七)

大和忠六 熊本縣多額納稅者、地主、熊本縣在籍
 妻 イシ 文久二、五生、熊本、龜井改平長女
 男 志三 明四四、一一生
 女 美津子 大四、一一生
 君は熊本縣人大和忠平の長男にして明治九年六月を以て生れ大正二年家督を相続す地主にして直接國稅二千二百五十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙四男忠四(大七、五生)四女綾子(同一〇、四生)五男壽男(同一五、四生)あり長女鶴(明三五、一〇生)同夫眞助(同三三、四生、熊本、永目龜太郎二男)は其一子を得ひ分家せり(熊本、宇土、宇土町)

大和壽雄 安曇電氣取締役兼支配人營業部長、長野縣在籍
 妻 ふじえ 明五、七生、長野、丸山藤三郎三女
 養子 巖 明一八、一一生、長野、前島直太郎四男
 婦 實子 明二九、九生、長野、大和又兵衛長女
 君は長野縣人大和増造の長男にして明治四年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す同二十四年中央大學を卒業し現時安曇電氣取締役兼支配人營業部長たり家族は尙庶子二男(大六、一一生、生母、長野、山崎タツ)同又雄(同九、一〇生、生母同上)同和歌子(同一二八生、生母同上)孫一雄(同五、一〇生、養子巖長男)の外弟秀夫(明九、一〇生)及其二子あり(長野、東筑摩、笹賀村)
 參照 沢澤岩夫の項

大和利太郎 德島縣多額納稅者、中島木材總代表取締役、德島縣在籍
 母 タカ 安政四、四生、德島、島田喜八郎二女
 妻 シゲ 明一二、一〇生、長野、井上多七郎長女
 男 久計 明三八、二生
 婦 壽美子 明三八、一一生、長男久計妻、德島森下元太郎二女
 男 利計 明四一、三生
 君は德島縣人先代利太郎の長男にして明治八年五月を以て生れ大正元年家督を相続し前名岩太郎を改め襲名す現時中島木材總代表取締役にして直接國稅一千九十六圓を納め德島縣多額納稅者たり家族は尙三男忠計(大六、五生)四男明計(同一〇、五生)あり長女フジコ(明三四、一一生、富岡高女出身)は德島縣人森下長一に嫁し弟常雄(同一九、三生)は分家せり(德島、那賀、平島村)

大和眞太郎 大和護謄製作所代表取締役、印刷製造業、福井縣在籍
 妻 つな 明元、四生、福井、高山吉三郎二女
 母 よう 明三一、二生、東京、小村井澤次郎孫
 男 澄道 大四五、二生
 女 澄子 大四五、二生
 君は福井縣人大和守三郎の長男にして明治二十三年四月を以て生れ大正九年家督を相続す印刷製造業を營み尙ら前記會社の重役たり家族は尙二女榮子(大六、九生)四女君子(昭三、二生)あり妹キヲ(明三二、一〇生)は東京府人町田英治郎に嫁せりA一九一六五B三三六〇(東京市外本町湯江五〇〇電墨田三〇六七)

大和忠六 熊本縣多額納稅者、地主、熊本縣在籍
 妻 イシ 文久二、五生、熊本、龜井改平長女
 男 志三 明四四、一一生
 女 美津子 大四、一一生
 君は熊本縣人大和忠平の長男にして明治九年六月を以て生れ大正二年家督を相続す地主にして直接國稅二千二百五十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙四男忠四(大七、五生)四女綾子(同一〇、四生)五男壽男(同一五、四生)あり長女鶴(明三五、一〇生)同夫眞助(同三三、四生、熊本、永目龜太郎二男)は其一子を得ひ分家せり(熊本、宇土、宇土町)

ユ之部

弓削幸太郎

正四位勳三等、復興建築助成應取
締役、東京府在籍
妻 廣 明二一、二生、東京、松本亥平長
女 朝子 明四五、一七

君は岡山縣人弓削新平の孫にして明治十四年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に日本大學を卒業し同三十七年文官高等試験に合格爾來專賣局屬千葉縣屬同縣警視廳兒島縣事務官朝鮮總督府書記官(學務課長)朝鮮總督府鐵道部長等に歴任し後轉じて實業界に入り現時復興建築助成會社取締役たり家族は尙三女多喜子(大六、一七)四女喜世子(同八、三三)二男次雄(同五一、五三)三男三彦(昭四、四生)あり(東京市外移並町阿佐ヶ谷六五電萩露二〇〇)

弓削徳次

水戸市參事會員、水戸商工會議所
議員、茨城土木工業會專務取締役
常務病院長、井熊製菓各取締役
水戸合同運送、水戸商市場各監
査役、茨城縣士族
母 文久元、八生、茨城、廣田元惣二
妻 是な 明二八、四生、小宅時正五女

君は茨城縣士族弓削徳三の二男にして明治二十一年二月を以て生れ大正六年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて水戸市參事會員水戸商工會議所議員たり家族は尙二男徳明(大七、九生)長女ふみ(同九三三)三男徳三(同二二、七生)二女よし子(昭三、七生)あり弟徳光(明二三、一七)同妻ふよ(同二八、一七)生、茨城、彌谷辨吉妹は其一子を生ひ分家せり(水戸、上市南町四二ノ二)

弓削和三

熊本縣多額納稅者、八代共立銀行
頭取、熊本縣士族

弓場治兵衛

大阪府在籍
母 タカ 門一〇、六生、大阪、津和庄左衛門姉
妻 榮一 明二四、一〇生、養父庄兵衛長女
女 幸子 大二、五生

弓場庄兵衛

大阪府在籍
君は大阪府人山本治郎兵衛の四男にして明治十八年十一月を以て生れ先代庄兵衛の養子となり大正六年家督を相續し前名治郎吉を改め襲名す家主たり昭和五年十一月紺綬褒章を賜はる家族は尙三女静子(大一一〇、七生)二男芳治(昭四、七生)あり妹つた(明三〇、九生)は同夫幸吉(同二九、三三)と共に一女を生ひ分家せり(大阪、浪速、元町四ノ二九一電萩三二九〇)

弓場常次

御所銀行常務取締役、國華酒造
監査役、奈良縣在籍
妻 キタエ 明二〇、一七生、奈良、浦岡石松長

弓場登美

神戸食糧品應取締役、登美甚、食
料品商、兵庫縣在籍
母 イワ 安政六、四生、廣島、三上卯吉長
妻 チカコ 明二四、四生、廣島、中田初太郎長女
男 徳美 大四、一〇生

由井卯三郎

大阪府在籍
君は廣島縣人弓場徳吉の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續す登美甚と稱し食料品商を營み傍ら神戸食糧品會社取締役たり家族は尙三男隆(大九、七生)長女琴子(同二三、三三)あり姉チシ(明一六、二二生)は兵庫縣人前田惣市に嫁せり(神戸、磯上通七ノ一九電葦合二八六三)

由井卯三郎

大阪府在籍
君は大阪府人由井卯八の長男にして慶應二年八月を以て生れ明治十四年家督を相續す家主たり家族は尙妹孝子(昭二、二生)四男卯兵衛長女(同素子)同三、一七生、同二女(同素子)同五、一〇生、同三女(同三女)あり長女ミツ(明二七、七生)は分家し二女フタ(同三六、一一生)は

ユ之部 弓(削、場) 由(井) (※印は姻族關係)

湯淺 賢太郎 明三九、三三、横濱商業學校出身。君は福島縣人初代油井字之助の二男にして明治三年八月を以て生れ同四十五年三月三日の後に後継家督を相續す父祖の業を繼承し絹布並に生絲賣買業を營み傍ら前記銀行會社の重役を兼ね同縣多額納税者に列す推されて福島商工會議所副議長福島市會議員福島縣節同業組合長たり兼に福島商業銀行取締役たりし事あり家族は尙亡弟喜作妻ノイ(明一、一〇生、福島、佐久間泰助妹)及其二男三女あり姉ナカ(慶應二、一生)は分家し弟字八(明一六、六生、神戸輸出絹織物組合組長)も亦同妻セイ(同二三、六生、神奈川、柳下八郎兵衛長女)を伴ひ分家せりA八四二B三〇四(福島市大町三〇電四二)

湯淺 武二郎 清力酒造監査役。君は福島縣人油田金太郎の二男にして明治二十年五月を以て生れ大正十四年兄篤太郎方より分れて一家を創立す現時清力酒造會社監査役たり家族は尙長女きよ(大七、九生)二男幹夫(同一〇、二生)三男理作(同一七、七生)四男有(同一四、七生)五男南生(昭二、一〇生)あり(小倉、古船場町一七電九九七)

油谷 堅藏 海軍少將、ウカス社長、日本製鋼所取締役、ウカス・アイムストロングス、ウカス・エビエージョン各會社日本代表者。君は兵庫縣人油谷作兵衛の四男にして明治十一年三月を以て生れ大正十一年兄吉藏の後を承け家督を相續す夙に海軍に入り大正十一年海軍少將に擢進す其間英國駐在武官海軍大學校海軍水雷學校各教官艦政本部員横須賀海軍工廠總務部長等に歴任し同五年歐米に出張す同十二年豫備役に編入實業界に入り現に日本製鋼所取締役ウカス合資會社社長ウカス・アイムストロングス會社外五社の日本代表者たり兄吉藏(明九、一生)は長崎縣人杉村春野の入夫となれりA六〇〇B二〇

湯淺 英之進 芝川商店監査役。君は京都府人湯淺兵衛の三男にして明治四年五月を以て生れ同三十年兄傳吾方より分れて一家を創立す現時芝川商店事務取締役たり家族は尙七男茂(明四五、一生)八男八郎(大六、九生)孫翠(昭三、二生)二男格運(長女)同和枝(同五、四生)同二女あり長女奈良江(明三六、四生)は京都府人高杉正文に嫁せり(大阪、西、江戶堀北通一ノ二八)

湯淺 楠次郎 金銀業。君は大阪府人湯淺清兵衛の二男にして安政五年十二月を以て生れ明治二年分れて一家を創立す金銀業を營む家族は尙孫楠敬(大三、一生)四男楠信養子、亡長男楠藏(同四、一生)同養子、同二男あり長女楠榮(明二二、一生)同夫岩治郎(同一二、二生)一男(一生)同妻てい(同二四、一生)大阪、南波政吉長女)は其一男二女を伴ひ各分家し六男楠清(同三一、一生)も亦同妻チヨ(同三四、一生)大阪、深野爲之助二女、夕陽丘高女出身と共に分家せり(大阪、浪速、鳴町三ノ一六四八電表八三〇)

湯淺 倉平 從三位勳一等、會計檢査院長。君は福島縣人湯淺康庵の二男にして明治七年二月を以て生れ昭和四年兄爲之進方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格す同年内務省となり爾來滋賀兵庫各縣事務官鳥取愛媛長崎各縣警察部長長崎神奈川各縣事務官内務省地方局長内務省事務官兼任内務省參事官香川縣地方局長同省同縣知事内務省警保局長警視總監内務次官朝鮮總督府政務總監等に歴任し昭和四年會計檢査院長に任ぜられ昭和四年依願被免となる長女靜子(明三三、九生)は山形縣人諏訪光武弟に嫁せり(東京、牛込、中町六電午込五三五)參照||佐伯國彦、諏訪務兼井上一男の項

湯淺 源五郎 石州銀行監査役。君は石州縣人湯淺源三郎の長男にして明治三年九月を以て生れ同十六年家督を相續し前名仙太郎を改む鹿ノ子校商を營む姉ノイ(明元、一〇生)は京都府人近藤與宗治郎に妹キミ(同一、一生)は同府人多田伊三郎に嫁せりA九八八B三〇八(京都、中京、三條新町西入ル釜座町一五電本局三九〇一)參照||近藤與宗治郎の項

湯淺 三郎 安中町長、群馬縣會議員、群馬縣役、醸造業、群馬縣常務取締役。君は群馬縣人湯淺善次郎の三男にして明治十二年八月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す現に石州銀行事務取締役たり家族は尙三男潤一(大七、四生)四女靖子(同九、五生)五女幸子(同一二、一生)あり(鳥根、邑智、市山村)

湯淺 壽太郎 京都府多額納税者、西陣織物製取。君は京都府人湯淺重助の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同三十二年家督を相續す吳服商を營む西陣織物會社取締役にして直接納税三千四百八圓を納め京都府多額納税者に列す家族は尙養子滿喜子(大八、八生)京都、岩崎又一郎姪)あり姉キタ(明一九、一〇生)は京都府人杉山ユキの養子となれり(京都、葛野、花園村谷口電西陣二六〇一)參照||入江道仙の項

湯淺 竹之助 正六位、湯淺貿易社長、湯淺棉花代表取締役、湯淺木材製取取締役、湯淺製粉所監査役、湯淺商店代表社員、兵庫縣在籍。君は和歌山縣人湯淺治郎右衛門の四男にして明治三年二月を以て生れ同三十年分れて一家を創立す夙に貿易商を營み大正五年合名會社湯淺商店を設立し専ら其經營に任じ現に會社代表社員にして傍ら前記會社の重役たり兼に神戸商業會議所特別議員の任に在り大正四年特旨を以て正六位の位記を賜ふ家族は尙庶子育子(大五一、一〇生、生母、兵衛、沼波しづ)あり二女俊子(明三三、八生、東京女大出身)は東京府人中上川次郎吉弟第五郎に三女宣子(同三五、四生)は兵庫縣人横山剛に四女道子(同三六、二生、樟蔭高女出身)は鹿兒島縣人廣瀬昌に五女玉子(同三九、九生、出身校同上)は和歌山縣人千川忠雄に嫁せりA六五四(神戸、熊内町四ノ一九四電表合二五〇)

湯淺 武孫 從六位、三共會社取締役、臺灣生藥製取取締役、岡山縣在籍。君は岡山縣人湯淺幸八の長男にして同孫の兄なり明治三年三月を以て生れ同十二年家督を相續し前名猪三郎を改む初め上道中學校に學び後醫學を専攻す久しく神奈川縣技術師事務官として専ら衛生行政を執掌し又横濱市の海陸設備調査に參畫す明治四十五年辭して三共株式會社に入り現時同社事務取締役にして前記會

湯淺 二郎 湯淺伸銅鐵監査役。君は大阪府人湯淺元十郎の二男にして明治二十八年十二月を以て生れ大正八年兄謙方より分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時湯淺伸銅會社監査役として知らるA六七九(東京市外荏原町洗足西臺南一〇號電表厚七三九)參照||山口政治の項

湯淺 新平 正五位勳五等、北海道農技師、拓殖部勤務、岡山縣在籍。君は岡山縣人湯淺要平の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し岐阜縣立農林學校教諭熊本縣技術師同縣林業技師等に歴任し現時前記の官職に在り(札幌、北海道廳拓殖部内)

湯淺 武孫 從六位、三共會社取締役、臺灣生藥製取取締役、岡山縣在籍。君は岡山縣人湯淺幸八の長男にして同孫の兄なり明治三年三月を以て生れ同十二年家督を相續し前名猪三郎を改む初め上道中學校に學び後醫學を専攻す久しく神奈川縣技術師事務官として専ら衛生行政を執掌し又横濱市の海陸設備調査に參畫す明治四十五年辭して三共株式會社に入り現時同社事務取締役にして前記會

湯淺 專太郎 鹿ノ子校商。君は岡山縣人湯淺要平の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し岐阜縣立農林學校教諭熊本縣技術師同縣林業技師等に歴任し現時前記の官職に在り(札幌、北海道廳拓殖部内)

湯淺 七左衛門 湯淺七左衛門商店、湯淺蓄電池製造各社社長、京阪電氣鐵道監査役、湯淺代表社員、京都府在籍。

湯淺 專太郎 鹿ノ子校商。君は岡山縣人湯淺要平の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十四年家督を相續す同四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し岐阜縣立農林學校教諭熊本縣技術師同縣林業技師等に歴任し現時前記の官職に在り(札幌、北海道廳拓殖部内)

湯淺 武孫 從六位、三共會社取締役、臺灣生藥製取取締役、岡山縣在籍。君は岡山縣人湯淺幸八の長男にして同孫の兄なり明治三年三月を以て生れ同十二年家督を相續し前名猪三郎を改む初め上道中學校に學び後醫學を専攻す久しく神奈川縣技術師事務官として専ら衛生行政を執掌し又横濱市の海陸設備調査に參畫す明治四十五年辭して三共株式會社に入り現時同社事務取締役にして前記會

湯淺 武孫 從六位、三共會社取締役、臺灣生藥製取取締役、岡山縣在籍。君は岡山縣人湯淺幸八の長男にして同孫の兄なり明治三年三月を以て生れ同十二年家督を相續し前名猪三郎を改む初め上道中學校に學び後醫學を専攻す久しく神奈川縣技術師事務官として専ら衛生行政を執掌し又横濱市の海陸設備調査に參畫す明治四十五年辭して三共株式會社に入り現時同社事務取締役にして前記會

て生れ明治十三年家督を相続す通信並廣告代理業を營み現時前記各會社社長たり家族は尙孫精(六七、二生、養子温忠長男)同洗(同九、五生、同二男)同ゆき(同一、一生、同長女)同一清(同一、一生、同三男)養子清養子同勝(同一、四生、同四男)同眞(昭二、一生、同五男)あり弟睦雄(明九、二生)は分家せりA五九〇〇(東京、京橋、銀座西五、一電線三三三)参照湯澤陸雄の項

湯澤三千男

正五位勳三等、宮城縣知事
湯澤三千男 湯澤三千男 湯澤三千男
養父 眞太郎 明元、四生、現戸主
妻 慶應元、一〇生、東京、士、藤野
養母 たみ 慶應元、一〇生、東京、士、藤野
妻 アヤ 明二五、三三、栃木、參木彦次妹
男 隆 大元、一〇生
女 加壽 大元、一〇生

君は栃木縣人湯澤義原の二男にして明治二十一年五月を以て生れ大正八年兄眞太郎の養子となる明治四十五年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し文官高等試験に合格す爾來福島縣屬福井縣理事官防衛文官高等試験官衛生局事務官同局調査課長衛生局保健課長社會局部長保險部長等に歴任し昭和四年宮城縣知事に任ぜらるるに歐米各國に出張す家族は尙二男博(大元、一生)三男乾(同七、六生)四男正文(同九、二生)二女君子(同一、一生)五男繁(同一、四生)の外養妹愛(明三、四生、三男、東京、永田鉦助長女)同夫高藏(同二、九、四生、栃木、山口製平弟及其一女あり(仙臺、長刀七官舎内電一〇二))

湯澤陸雄

警視廳社社長
湯澤陸雄 湯澤陸雄 湯澤陸雄
妻 せい 明一三、一生、東京、橋部高吉長女
養母 健 明三、四生、醫學士、昭和醫學專門學校教授
男 健 明三、四生、醫學士、昭和醫學專門學校教授
女 月 政專門學校出身
女 鏡 明四三、一生、山脇高女出身、東京女子英學堂在學

長女妙(明三六、二生)は東京府人前田豊吉長男平八に二女葉(同三七、一生)は同府人外松玉吉に嫁せりA二四二東京、赤坂、青山南町一、二四電青山二四五)参照湯澤清司の項

湯田重太郎

從四位勳三等、廣島高等師範學校教授兼生徒主事、福島縣士族
湯田重太郎 湯田重太郎 湯田重太郎
父 勇藏 嘉永五、二生、福島、坂内傳藏三男、現戸主
母 フユ 安政二、一生、祖父重内長女
妻 マツ 明一七、一生、福島、福島忠藏長女
男 重 明四二、六生
女 重 明四二、六生

湯地幸平

從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮城縣士族
湯地幸平 湯地幸平 湯地幸平
妻 リウ 明九、九生、廣島、土、松村貞雄
養子 謙爾郎 明三七、八生、和歌山、奥野健一弟
養母 敬子 明三八、一〇生、養子謙爾郎妻、東京、山下恒雄二女

湯地定武

森永煉乳廠取締役
湯地定武 湯地定武 湯地定武
妻 久枝 明三二、八生、石川、土、松寺竹雄長女

君は鹿兒島縣士族故貴族院議員湯地定基の四男にして海軍機關中將湯地定隆の甥なり明治十四年二月を以て生る夙に北海道帝國大學農科大學を卒業し海外練習生として北米に遊學し現時森永煉乳會社取締役たり家族は尙二男定朗(大六、一生)三男定徳(同八、一生)四男定勝(同二〇、八生)の外兄弟定彦(明六、一〇生、現戸主、農學士)同妻タカ(明一六、六生、秋田、菊地虎藏妹)弟定信(同一、七、一生、慶大出身)同妻ケイ(同二、一、二生、北海道、土、邊見曾八長女)及弟定清(同二、三、二生、帝大法科出身)同妻普美(同三、八、一生、千葉、齊藤定四郎長女及弟七郎(同二、八、八生、早大出身)姪富子(同四、二、八生、亡兄定三長女)甥定正(同四、五、五生、同長男)外兄弟定治(農科大學出身)は青柳家を相続し妹ハツ(明二五、三三)は奈良縣人飯田眞次郎弟續に妹サツ(明二五、三三)は亡叔父妻フミ(安政五、二生、千葉、土、大橋善三六女)は其子女を伴ひ分家せり(東京市外中野町圓三一、二五電四谷一〇五)

湯地定敏

第百四十七銀行頭取、保險代理業、鹿兒島縣士族
湯地定敏 湯地定敏 湯地定敏
妻 タネ 明一九、一生、鹿兒島、土、中村不二齋姉
男 定光 明四三、一〇生
女 定子 明四三、一〇生
女 紋子 大元、一生

湯地貞醇

醫師
湯地貞醇 湯地貞醇 湯地貞醇

父 貞正 萬延元、三三、現戸主
母 ツギ 文久二、九生、宮崎、士、大野六郎長女
妻 彌榮 明二八、六生、東京、細谷詮長女
男 貞二 大元、二生
女 節 明四四、三三
女 美智子 明四三、三三

湯地秀生

正五位勳二等功五級、海軍少將、馬公要港部司令官、東京府士族
湯地秀生 湯地秀生 湯地秀生
妻 泰子 明二九、一生
男 宏 大元、一〇生

湯原元一

正三位勳二等、元東京高等學校校長、東京府士族
湯原元一 湯原元一 湯原元一
妻 トク 明一、一生、北海道、金子元三郎長女
男 和子 明四一、二生
女 和子 明四一、二生

高等師範學校校長を経て東京高等學校の開設せらるるや同校々長となり昭和二年之を辭し現時同地に在り長女愛(明四〇、一生、御茶ノ水高女出身)は東京府人尾高鮮之助に嫁せり(東京市外代々木町代々木一四六三電四谷一八八二)参照尾高鮮之助、金子元三郎の項

湯村駿太郎

從七位、宮城縣會議員、酒造業
湯村駿太郎 湯村駿太郎 湯村駿太郎
妻 ふみよ 明二三、五生、宮城、櫻井文彌孫
男 敏則 大元、三三
女 とき子 明四三、六生

湯村辰二郎

從五位勳六等、朝鮮總督府事務官、殖産局農産課長、宮城縣在籍
湯村辰二郎 湯村辰二郎 湯村辰二郎
父 保治 元治元、四生、現戸主
母 ヤナ 明元、八生、福島、油井卯之助二男
妻 久枝 明三二、八生、石川、土、松寺竹雄長女

君は宮城縣人湯村強の長男にして明治十八年八月を以て生れ同三十九年祖父半兵衛の後を承け家督を相続す酒造業を營み現時宮城縣會議員に選ばれ義に同縣參事會員たり家族は尙二男元昭(大六、四生)三男秀夫(同一、〇、三三)四男醇造(同一、二、七生)亡叔父健吉妻けさ(文久三、三三、宮城、佐藤文太郎姉あり叔父健吾(明一八、二生)は分家し從妹かね(同二、二、一生)亡叔父健吾庶子)は宮城縣人地村留吉長男已代次に嫁し從弟武雄(同二、四、二生、同長男)は靜岡縣人榊原良平の養子となれり(宮城、玉造、岩山出町)

湯村彦太郎

福岡縣多額納稅者、酒造業
湯村彦太郎 湯村彦太郎 湯村彦太郎
妻 ノブ 明二二、一生、福岡、久富仁三郎
男 寛造 明四三、一生
女 トシ 大元、九生

湯村彌源太

福岡縣多額納稅者、農業
湯村彌源太 湯村彌源太 湯村彌源太
妻 チヨ 明一二、三三、熊本、多田隈啓次郎二女
男 元昭 明四一、四生

乙之部 柚

柚木 周平

甲陽土地監査役、大阪毎日新聞社、松竹土地興業各法律顧問、辯護士、岡山縣在籍

君は岡山縣人柚木二坪の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十九年祖父彌平の後を承け家督を相續す同三十七年中央大學を卒業し判事として神戸大阪地方區各裁判所に歴任せし後職を辭して辯護士を開業し現時前記の職に在り家族は尙弟士郎(明二七、二生)同妻朝子(同三二、六生)愛媛、西原虎二(長女)及其子女あり雙子(同三八、一)生、東京、奥田關造(二女)は東京府人小谷利之に嫁野は愛媛縣人門田久太郎に同野は鳥取縣人田中秀次郎に嫁せりA五四〇(大阪、東、瓦町二ノ一二五電本局五三三)

柚花 仁

三十四銀行舊名古屋支店長、廣島縣士族

君は廣島縣士族柚花瀧藏の長男にして明治二十三年九月を以て生れ大正七年家督を相續す明治四十一年廣島商業學校を卒業し三十四銀行に入り果して大正十四年尼崎支店長兼大物支店長となり昭和三年古屋支店長に轉じ今日に至る家族は尙長女安喜子(大八、一)生二女喜代子(同二七、三)生三女喜久恵(昭四、一)生(あり妹サヲ(明二七、一)生)は兵庫縣人海部巖に同春子(同三六、二)生は廣島縣人荒木武彦に嫁し弟(同三一、一)生は同縣人福山ツチの養子となれり(名古屋東、田代町坂上九八ノ一四)

柚原 完藏

從三位勳一等、陸軍中將、三重縣士族

君は靜岡縣人依田善吾の二男にして明治二十年五月を以て生れ同三十年家督を相續す現時東京電業會社常務取締役たり家族は尙長女昭子(大九、九)生二女昌子(同二四、一)生三女泰子(昭三、一)生(あり父善吾(文久元、四)生)養兄千秋(明一八、一)生、靜岡、月出房(養父)叔父三三(同八、三)生、祖父始耕(二男)は各分家し姉(同二、七)生は東京府人田中善之助に嫁り(同四、二)生、祖父始耕(二女)は群馬縣人松本眞三郎に嫁せり(靜岡、賀茂、松崎町)參照 岡野喜太郎(岡野喜太郎の項)

(※印は姻族關係)

圓を納め縣下の多額納税者に列す家族は尙三女ナヲ(大七、二)生二男順太郎(同二二、二)生四女弘(同二四、九)生三男謙三郎(昭三、四)生の外叔母モヨ(明三、四)生(あり下關、赤間町二〇電二八八)

讓原 萬太郎

神奈川縣多額納税者、メリヤス商、神奈川縣在籍

君は神奈川縣人讓原吉五郎の兄にして慶應元年十二月を以て生れ先代ヤスの入夫となり明治二十五年家督を相續すメリヤス商を營み縣下の多額納税者にして直接國稅一千四百四圓を納む家族は尙孫猛(大八、八)生、養子儀平長男(同安、一)生、同二男(あり)横濱、中、根岸町三〇七一

百合本 安太郎

山口縣多額納税者、下關瓦斯、長商、山口縣在籍

君は山口縣人上原皆之進の弟にして明治十九年二月を以て生れ先代安太郎の養子となり大正十三年家督を相續し前名謙一を改め養子ナニ安と稱し食料品商を營み傍ら前記各會社の重役にして直接國稅二千八百四十七

ヨ之部

余郷 現貞

正五位勳五等、判事、高岡區裁判所監督判事兼富山地方裁判所高岡支部長、愛知縣在籍

君は愛知縣人余郷久左衛門の長男にして明治九年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十年檢事に任じ福岡區裁判所檢事を經て判事に轉じ爾來岡崎區古屋地方金澤地方大垣區各裁判所判事名古屋控訴院判事に歴補し現時高岡區裁判所監督判事兼富山地方裁判所高岡支部長たり(高岡、中川一〇七八)

余繩 章

正五位勳三等、陸軍歩兵少尉、退職、長崎縣士族、長崎縣在籍

君は長崎縣士族余繩惟一の二男にして明治八年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同三十八年陸軍歩兵少尉に任じ同三十九年判事となり長崎縣同地方廳原區廳兒島地方同區各裁判所判事を經て大正四年臺灣總督府法院判事に任じ爾來臺中臺南各地方法院判事臺北地方法院宜蘭支部判事に歴補し昭和二年臺北地方法院宜蘭支部判事に合議部判事に轉じ同六年四月退職す家族は尙三女トミ(大七、一)生四女マツ子(同二二、五)生弟貞(明二四、六)生同妻キミ(同二二、八)生、長崎、木下鐵茂(長女)及其子女あり長女レイ(同四〇、一)生は福岡縣人月足昂に嫁し(同一九、三)生は長崎縣人川村淳城に嫁せり(臺北、宜蘭)

依田 久軌之助

東京電業會社常務取締役、靜岡縣在籍

依田 耕一

内外編物會社常務取締役、靜岡縣在籍

君は元明治海運會社社長依田治作の長男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十五年慶應義塾理財科を卒業し渡米して紐約州イーストマン商業學校を卒業す後森村組に入り紐育市に於て勤務し滯米八ヶ年にして歸朝次で同組を辭し内外編物會社を創設し自から其常務取締役に就任し今日に至る家族は尙三男治男(昭四、五)生(あり姉初(明一四、一)生)は靜岡縣人松井謙保に嫁し弟耕二(同三九、一)生は山口縣人櫻木幹雄に嫁し弟耕三(同三八、一)生は絶家坪田氏を再興せりA五九五(東京、赤坂、青山南町二ノ四五電青山四四三七)參照 櫻木幹雄(櫻木幹雄の項)

依田 四郎

松崎町長、沼津銀行、河津川水力電氣各取締役、靜岡縣在籍

君は靜岡縣人依田又四郎の四男にして明治十九年十一月を以て生れ現時松崎町長にして傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙二男英夫(大二〇、一)生三男篤信(女)妙子(大五、六)生

依田 忠治郎

日本瑞穂會社常務取締役、瑞穂製糖、東京府在籍

君は東京府人依田忠長衛の長男にして明治十九年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續す瑞穂製糖會社を營み日本瑞穂會社常務取締役に任じ家族は尙二女澄子(大九、二)生三女登美子(同三一、一)生三男民雄(同二五、三)生四女道子(昭三、八)生弟辰三郎(明二五、一)生(あり妹テル(同二九、二)生)同夫新右衛門(同二五、六)生、靜岡、堀田新兵衛(二男)は分家して瑞穂製糖會社を營むA一六一七B三七八(東京、日本橋、馬喰町二ノ一五電濱花三八一五)

依田 豐藏

山梨縣會議員、三井工業、山梨運送各取締役、山梨縣在籍

ヨ之部 余、依(田)

(※印は姻族關係)

横田 至壽

海南銀行代表取締役、東工業、高知縣在籍

妻 伊重 明三、八生、高知、森喜代藏二女

横田 治右衛門

福島縣多額納税者

妻 周作 明三、八生、高知、松下熊太郎二女

横田 庄次郎

京都府在籍

妻 明六、六生、京都、入江芳三郎妹

横田 祐

正五位、男爵

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 成年

從三位勳二等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 多喜助

大連商工會議所副會頭、南滿洲氣運事務取締役、三重縣士族

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 俊夫

從四位勳三等、朝鮮總督府判事

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 秀雄

正三位勳一等、法學博士、帝國大學士族

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 武三

正五位勳四等、新潟醫科大學教授

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 立次郎

東洋興業事務取締役、京都信託

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 秀雄

正三位勳一等、法學博士、帝國大學士族

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

横田 浩

三重銀行下關支店長

妻 明三、一〇生、京都、入江芳三郎妹

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田津右衛門の長男にして明治三年八月を以て生れ同二十八年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は神奈川縣人武村治平の二男にして明治十九年八月を以て生れ先代キミの入夫となり...

君は長野縣士族横田秀雄小松謙次郎の弟にして明治六年十一月を以て生れ同三十九年分れて...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

君は滋賀縣人横田立吉の長男にして明治九年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す...

政治科を卒業し三井銀行に入り大正十年...

横田 文吉 川崎製鋼所 輪西工場長...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 利喜一 五位勲五等、地方技師、愛知県...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

横田 義夫 藤本ビルプロカー銀行専務取締役...

以て生れ同三十六年家督を相続す同四十四年...

横竹 平太郎 五位勲四等、大使館商務参事官...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横谷 佐太郎 和歌山縣多額納税者、高野口合同...

横地 市藏 横地清三郎商店、帽子商...

横手 千代之助 三位勲二等、醫學博士、前東京...

横出 政五郎 東京藥院、賣薬化粧品商...

横濱 俊 東京瓦斯電氣工業取締役...

横堀 治三郎 四位勲三等、工學博士、元秋田...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横溝 又市 大同洋紙店、九州ノト各種事務...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

横地 石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校...

一、一(一生)は愛知縣人松原増長男太郎に嫁せり
A二〇六五B二六六(東京、麻布、田島町二五電高輪
七六三六)

横山 清平

宮城縣多額納稅者、味噌商
宮城縣土族
男 七平 明三〇、三生
女 七平 明三〇、三生

新平 明三三、三生
女 新平 明三三、三生

吉平 明三八、一生、二男新平妻、宮城
女 吉平 明三八、一生、二男新平妻、宮城

庄平 明三五、二生、長女しん二男
女 庄平 明三五、二生、長女しん二男

孫 明四一、一生、孫平妻、宮城、
孫妻 明四一、一生、孫平妻、宮城、

孫 明三九、八生、長女しん三男
孫妻 明三九、八生、長女しん三男

孫 明四二、三生、長女しん四男
孫妻 明四二、三生、長女しん四男

孫 明四三、六生、長女しん二女
孫妻 明四三、六生、長女しん二女

孫 明四四、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明四四、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明四五、一生、同二男あり二女せん(明一六、七生)
孫妻 明四五、一生、同二男あり二女せん(明一六、七生)

孫 明四六、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明四六、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明四七、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明四七、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明四八、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明四八、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明四九、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明四九、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五〇、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五〇、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五一、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五一、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五二、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五二、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五三、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五三、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五四、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五四、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五五、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五五、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五六、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五六、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五七、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五七、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五八、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五八、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明五九、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明五九、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六〇、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六〇、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六一、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六一、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六二、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六二、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六三、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六三、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六四、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六四、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六五、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六五、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六六、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六六、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六七、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六七、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六八、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六八、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明六九、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明六九、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七〇、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七〇、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七一、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七一、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七二、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七二、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七三、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七三、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七四、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七四、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七五、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七五、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七六、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七六、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七七、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七七、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七八、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七八、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明七九、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明七九、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八〇、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八〇、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八一、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八一、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八二、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八二、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八三、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八三、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八四、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八四、二生、孫吉平妻、同仁

孫 明八五、二生、孫吉平妻、同仁
孫妻 明八五、二生、孫吉平妻、同仁

男 彰 明一七、三生、石川、士、不破爲
男 彰 明三四、九生、從五位
當家は横山長知の後なり長知前田利長に仕へ勇略を以
て開け其子大膳康玄に至り國老の班に列し藩政をとる
世々三萬石を食み相傳へて先代隆平に至る隆平廢藩後
加州尾小屋銅山を經營し幾多の難難に屈せず遂に業務
發展の機に到達せしめ又公共事業に盡す所からず明
治三十三年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君は
其長男にして明治九年九月を以て生れ同三十六年襲爵
す第四高等學校補科に學び尋で東京に負ひ専修
大學に入り理財學を修め同三十年卒業し合名會社横山
鐵業部の社員として其發展に盡力し後加州銀行頭取と
して聲望あり大正七年貴族院議員に當選す同八年窮民
救済の廉により紺綬褒章を賜り現時前記諸會社の重役
にして兼に金澤商業會議所會頭に推舉せらる(二男隆玄
(明三五、一生、早大出身)五男隆知(同三九、四生)
姉シキ(同三、七生)は各分家せり(金澤、上柿島一
電三七〇)

横山 武雄

天草銀行常務取締役、北天草電
氣取締役、熊本縣在籍
男 武雄 明一九、二生、熊本、高橋清太
女 武雄 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

妻 千枝 明三二、一〇生、山形、士、太田
政弘長女

男 正之 大七、一〇生
君は島根縣人藤谷寶城の三男にして明治二十一年十月
を以て生れ先代實道の養子となり大正十一年家督を相
續す同三年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同六
年文官高等試験に合格し岐阜縣廳神奈川縣廳視察三重
山各縣理事官山口靜岡縣廳神奈川縣廳視察三重
和五年現職に補せらる家族は尙二男敬正(六一〇、三
生)三男重正(同一二、一生)長女富子(同一五、一
〇生)二女美保子(昭四、三生)あり(千葉市縣内務部内)
參照 太田政弘岡崎貞任の項

横山 辰五郎

富岡銀行取締役、米穀商
男 辰五郎 明九、二生、群馬、黛彌三郎三女
女 辰五郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

妻 朝次郎 明三六、一〇生

男 祥文 大三、二生
君は東京府人横山定助の二男にして明治十二年三月を
以て生れ大正八年家督を相續す前記各會社の重役にして
直接納稅六千九百七十圓を納め東京府多額納稅者に
列す家族は尙二女和子(大八、二生)三女俊子(同一〇、
八生)四女昭子(昭二、二生)三男貞雄(同四、四生)あ
り弟卯三郎(明二七、三生)は分家せり(東京、日本橋、
江戸橋一ノ五電日本橋二〇一)

横山 隆俊

從三位勳四等、男爵、共同生命保
險、金澤電氣軌道各會社社長、尾小
屋山嶺取締役、舊金澤藩家老
男 隆俊 明四五、二生
女 隆俊 明四五、二生

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

妻 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二
女 智恵 明二四、五生、山形、井上庄七二

横山 秀廣 日本美術院代表者、邦畫家
 妻 静子 明二、七生、京都、關谷善一妹
 君は東京府人酒井清彦の長男にして明治元年八月を以て生れ先代タラの養子となり後家督を相続す同二十六年東京美術学校日本畫科を卒業し明治の大家橋本雅邦に師事し大觀と號す文部省展覽會に入選する事數回後岡倉覺山下村觀山等と謀り日本美術院を創設時同院代表者にして雄勁の筆致を以て知られ方今日日本畫壇の巨匠たり(東京、下谷、茅町二一九電下谷二四八五)

横山 博 工五位勳五等、陸軍教授、陸軍砲工學校教官、高知縣士族
 妻 富美 明四〇、五生
 女 美津 明四〇、五生
 女 眞佐 大元、一〇生
 君は高知縣人岡村鳩巢の二男にして明治十四年二月を以て生れ先代文時之養子となり同三十六年家督を相続す同四十年京都帝國大學理工科大學物理學科を卒業し陸軍教授に任じ現時陸軍砲工學校教官たり家族は尙六女登喜(大九、一五)の外養姉武(明三、九生)あり(東京府外大久保町西大久保三七三)

横山 正男 南滿洲旅館代表取締役
 山形縣在籍
 父 知正 安政元、一五、現戸主
 繼母 卷代 明六、五生、山形、田中源治叔母
 妻 愛子 明一八、一五、京都、濱部儀八
 男 一男 明四三、六生
 女 京子 大三、三三
 君は山形縣人横山知正の長男にして明治十六年八月を以て生れる同四十二年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時南滿洲旅館代表取締役たり家族は尙三男健三(大六、四生)四男正彦(同八、八生)五男芳男(同九、九生)の外弟知義(明三四、一〇生)同妻静子(同四〇、四生)東京、小幡清見長女)及其二子あり妹し(同二、一一生)は千葉縣士族田邊安里弟後雄に同富(同二、四生)は山形縣人本多勇藏に同花(同二九、二生)は廣島縣人高橋一人に同八重(同三一、二生)は秋田縣人農學博士佐々木清綱に嫁せり(大連、神明町六二電七〇一九)

横山 正躬 新日本火災海上保險監査役、三商會無任社員
 妻 琴 明二七、六生、高知、土、川崎源右衛門妹
 女 八重子 大五、五生
 女 重子 大三、七生
 君は高知縣人横山正夫の二男にして明治十四年六月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し現に前記各會社の重役たり家族は尙二男正次(大七、七生)二女喜子(同二〇、五生)三男震三(同二一、九生)三女敏子(同二五、三三)あり弟清躬(明一八、一五)は分家せりA三六七(神戸、西須磨上小神二〇電須磨一七五)

横山 正幸 從五位勳四等、總領事、アレキサンダーリヤ在籍
 妻 美香子 明二二、四生、佛國、ジャン・パナスト、アルフォンヌ、グキカ
 君は東京府人横山孫一郎の長男にして明治二十五年三月

横山 政二 東京電氣時計社代表取締役、神戸有馬電氣軌道監査役
 妻 まさを 太郎妹
 女 宣子 明四四、二生
 女 清子 大三、二生
 君は栃木縣士族根岸政徳の二男同政一の弟にして明治十三年三月を以て生れ先代尙の養子となり同二十九年家督を相続す同四十二年東京帝國大學理工科大學電氣科を卒業し横濱電氣製造會社に入り同社技術課長となる現時東京電氣時計社代表取締役の外前記會社の重役たり家族は尙三女梅(大九、三三)二男政高(同二〇、六生)ありA三六四(東京府外世田谷町谷町太子堂三五七)参照 大村鋼太郎、根岸政一の項

横山 政方 前櫻草元實擧業
 妻 敏彦 明三一、六生、東京、土、吉富忠干二男、慶大出身、安田保善社員
 妻 テル 明三八、一〇生、養子敏彦妻、東京、伊藤金松四女
 君は東京府士族横山源藏の長男にして安政四年二月を以て生れ後家督を相続す養子敏彦元實擧業を營む家族は尙孫政敏(昭二、二生)、養子敏彦長男(同芳子(同五、一五、同長女)ありA一八二二八〇(東京、赤坂、新町四ノ一四電青山五〇五七)

横山 政二 東京電氣時計社代表取締役、神戸有馬電氣軌道監査役
 妻 まさを 太郎妹
 女 宣子 明四四、二生
 女 清子 大三、二生
 君は栃木縣士族根岸政徳の二男同政一の弟にして明治十三年三月を以て生れ先代尙の養子となり同二十九年家督を相続す同四十二年東京帝國大學理工科大學電氣科を卒業し横濱電氣製造會社に入り同社技術課長となる現時東京電氣時計社代表取締役の外前記會社の重役たり家族は尙三女梅(大九、三三)二男政高(同二〇、六生)ありA三六四(東京府外世田谷町谷町太子堂三五七)参照 大村鋼太郎、根岸政一の項

横山 政二 東京電氣時計社代表取締役、神戸有馬電氣軌道監査役
 妻 まさを 太郎妹
 女 宣子 明四四、二生
 女 清子 大三、二生
 君は栃木縣士族根岸政徳の二男同政一の弟にして明治十三年三月を以て生れ先代尙の養子となり同二十九年家督を相続す同四十二年東京帝國大學理工科大學電氣科を卒業し横濱電氣製造會社に入り同社技術課長となる現時東京電氣時計社代表取締役の外前記會社の重役たり家族は尙三女梅(大九、三三)二男政高(同二〇、六生)ありA三六四(東京府外世田谷町谷町太子堂三五七)参照 大村鋼太郎、根岸政一の項

横山 又次郎 從三位勳一等、理學博士、元東京帝國大學教授、東京府在籍
 妻 桐郎 明二七、九生、農學博士
 女 シチ 明三九、八生、二男桐郎妻、東京鈴木定治養子
 男 龍雄 明四一、六生
 男 透 明四三、一五生
 君は長崎縣人横山得齋の二男にして萬延元年四月を以て生れ明治十六年分れて一家を創立す同十五年東京大學理科大學地質學科を卒業し農商務省御用掛となり同十九年獨逸留學を命ぜられ地質學科古生物學を専攻し同二十二年歸朝し理科大學教授に任じ同二十四年理學博士の學位を受く同四十二年再び歐米各國に差遣せられ地質學を研究し地質學界に於ける權威として知らるる家族は尙六男淡(大二、七生)孫昭(昭二、一五生)二男桐郎長女)あり長女サツ(明二四、七生)は茨城縣士族鈴木菊太郎長男義直に二女ふさ(同四〇、二生)は東京府人渡部華子叔父譲に嫁せり(東京、牛込、東五軒町二二)参照 橋本左五郎の項

横山 万平 東北肥後縣社長、東北實業銀行、東北實業貯蓄銀行各監査役
 妻 きた 明一二、二生、宮城、高平東四郎養妹
 男 萬治 明三二、四生
 男 千賀子 明三七、一五生、長男萬治妻、宮城五島三右衛門長女
 君は宮城縣人横山萬五郎の長男にして明治十二年四月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時前記各銀行會社の重役たり養子東北電燈會社取締役に擧げらるる家族は尙孫萬一郎(大一一、一〇生)、長男萬治長男(同治雄(同二一、一〇生)、同二男(同千恵子(同二五、一〇生)、同三女(同和子(昭三、五生)、同二女(同三男寅三郎(明三五、四生)妹せり(同二八、六生)長女お榮(同三八、三三)は各分家し四男卯右衛門(同三六、一〇生)同妻きん(同四二、八生)宮城、五島三右衛門三女)も亦共に分家し二女お花(同三九、一〇生)は埼玉縣人曾田源庭弟醫學士源三郎に三女咲子(同四二、一五生)は醫學士小坂崎一に嫁せり(東京、日本橋、中洲町一二電蓮花四三三〇)参照 濱菊地明夫の項

横山 元治 大阪堂島米穀取引所取引員、米穀商、大阪府在籍
 妻 むめ 元治元、三三、大阪、横山安太郎姉、現戸主
 男 榮一 大一、一五生
 君は大阪府人横山元の私生子にして明治二十九年十二月を以て生れ同三十六年伯母むめの養子となる米穀商を營み現に大阪堂島米穀取引所正米部取引員たり家族は尙三女美佐子(昭三、七生)ありA五八八B二九四(大阪、西、土佐堀三ノ九電土佐堀三九三六)

横山 光次 日本セメント監査役、帽子製造業、東京府在籍
 妻 敏夫 大七、二生、兵庫、横山正郎二男
 君は兵庫縣士族横山字作の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す帽子製造業を營み現に前記會社の重役たりA五四〇B一六八(東京、淺草、上平右衛門町一五電淺草四七四五)参照 橋本左五郎の項

横山 幹也 加州銀行専務取締役
 妻 不二 明二一、八生、岡山、土、保岡勝義妹
 女 壽代 大五、一〇生
 君は岡山縣人横山廉造の長男にして明治十二年八月を以て生れ同十七年家督を相続す同三十六年早稻田大學英語政治科を同三十八年大學政治經濟科を各卒業し現時加州銀行専務取締役たり家族は尙二男健也(大七、七生)あり姉かめよ(明七、七生)同夫類次郎(同三、八生)岡山、池田照一郎弟)は其子女を伴ひ分家し弟直也(同二、二生)は北海道人橋本左五郎の養子となれり(大阪、東、十二軒町一三)参照 橋本左五郎の項

横山 保太郎 兵庫縣在籍
 妻 しめを 明三六、七生、兵庫、依藤和吉三姉、現戸主
 君は大阪府人横山らの私生子にして明治二十九年十二月を以て生れ同三十六年伯母むめの養子となる米穀商を營み現に大阪堂島米穀取引所正米部取引員たり家族は尙三女美佐子(昭三、七生)ありA五八八B二九四(大阪、西、土佐堀三ノ九電土佐堀三九三六)

横山 芳松 金澤商工會議所常議員、金石電氣鐵道、北陸汽船、加賀製紙、北日本耐火煉瓦、尾小屋鐵山各取締役、石川縣在籍
 妻 直介 明二一、三三、山本亮長女
 女 福子 明四二、一〇生
 女 外喜子 大二、一〇生
 君は石川縣士族横山隆興の三男にして同章の實弟なり明治十五年二月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同四十二年京都帝國大學理工科大學電氣學科を卒業し現に前記各會社の重役にして推されて金澤商工會議所常議員たり養子北陸共同電氣會社社長長湯電機會社常務取締役たりし事ありA一三六(金澤、梅本町二電七一)参照 横山章公爵二條朝基の項

横山 利藏 兵庫商會、横山倉庫各監社長、神戶兵庫縣在籍
 妻 利雄 明三三、七生
 男 利雄 明三八、一〇生、二男利雄妻、和歌山、桃谷順一妹
 君は大阪府人古川善十郎の三男にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年先代かめの入夫となり家督を相続す生絲商を營み現に横山商會横山倉庫各會社の社長にして神戸取引所監事たり家族は尙孫ヒサ(大一

横山 利藏 兵庫商會、横山倉庫各監社長、神戶兵庫縣在籍
 妻 利雄 明三三、七生
 男 利雄 明三八、一〇生、二男利雄妻、和歌山、桃谷順一妹
 君は大阪府人古川善十郎の三男にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年先代かめの入夫となり家督を相続す生絲商を營み現に横山商會横山倉庫各會社の社長にして神戸取引所監事たり家族は尙孫ヒサ(大一

横山 利藏 兵庫商會、横山倉庫各監社長、神戶兵庫縣在籍
 妻 利雄 明三三、七生
 男 利雄 明三八、一〇生、二男利雄妻、和歌山、桃谷順一妹
 君は大阪府人古川善十郎の三男にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年先代かめの入夫となり家督を相続す生絲商を營み現に横山商會横山倉庫各會社の社長にして神戸取引所監事たり家族は尙孫ヒサ(大一

横山 利藏 兵庫商會、横山倉庫各監社長、神戶兵庫縣在籍
 妻 利雄 明三三、七生
 男 利雄 明三八、一〇生、二男利雄妻、和歌山、桃谷順一妹
 君は大阪府人古川善十郎の三男にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年先代かめの入夫となり家督を相続す生絲商を營み現に横山商會横山倉庫各會社の社長にして神戸取引所監事たり家族は尙孫ヒサ(大一

横山 利藏 兵庫商會、横山倉庫各監社長、神戶兵庫縣在籍
 妻 利雄 明三三、七生
 男 利雄 明三八、一〇生、二男利雄妻、和歌山、桃谷順一妹
 君は大阪府人古川善十郎の三男にして明治三十年十月を以て生れ同二十七年先代かめの入夫となり家督を相続す生絲商を營み現に横山商會横山倉庫各會社の社長にして神戸取引所監事たり家族は尙孫ヒサ(大一

を以て生れ同三十三年家督を相続す愛知縣田中島各郡長愛知縣理事官豊橋市長に歴任し大正十五年金澤市助役となり昭和五年現職に擧げらる（金澤、下本多町六番町電二〇三）

吉川市三 兵庫縣多額納税者、風月堂、菓子商、兵庫縣在籍

妻 もと 明一七、二生、兵庫、淺井嘉藏四女

男 新明三、五生

男 明四〇、一生

男 明四一、一生

君は兵庫縣人吉川市介の長男にして明治八年二月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す風月堂と稱し菓子商を營み兵庫縣多額納税者にして直接國稅三千七百六圓を納む家族は尙五男文造（大二、七生）あり長女春（明三六、一一生）は山口縣人吉富常雄に嫁す（同一六、六生）は靜岡縣人望月榮作に同籍（同三三、一一生）は兵庫縣人關口進次に嫁せり（神戸、西須磨上池ノ下一九電須磨三四四）

吉川卯吉 徳田商店監査役、東京株式取引所取引員、東京府在籍

妻 とめ 明二、八生、東京、小栗又右衛門

男 宗太郎 明二一、五生

男 八重 明三一、一一生、長男宗太郎妻、山形、二瓶與市二女

君は東京府人吉川猪之助の長男にして慶應元年五月を以て生れ後家督を相続す現に東京株式取引所短期買物取引員にして徳田商店監査役たり家族は尙孫弘一郎（大三、六生、長男宗太郎長男）同健二郎（同五、一一生、同二男）同ゆき子（同一二、二生、同長女）同市太郎（同一五、三生、同四男）あり二男雄藏（明二八、一〇生）同妻まるゑ（同二八、一一生、山形、佐藤才助妻）は共に其一子を伴ひ分家し二女多満（同三三、八生）は東京府人崎文七に嫁せりA一〇七九B一七一（東京、神田、同朋町二一電下谷二〇六七）

吉川卯吉 家主 愛知縣在籍

妻 ふさ 弘化二、五生、愛知、杉山源藏四女

男 千鶴 明四三、一〇生

男 明四三、一〇生

君は奈良縣人吉川權平の二男同伊作の兄にして明治二十年十二月を以て生れ大正四年兄重重郎方より分れて一

母 らく 明九、三生、愛知、藤田貞吉姉

妻 せつ 明三三、二生、愛知、江口賢一妹

男 文一郎 大一、四生

君は愛知縣人吉川敏次郎の長男にして明治三十年十月を以て生れ大正十一年家督を相続す家主たり家族は尙二男知三（大二三、一一生）長女和子（同一四、二生）二女周子（同一五、八生）四女充子（昭五、二生）ありA八七六（名古屋、中、納屋町三ノ七電西三〇四七）

吉川英治 著述家 東京府在籍

妻 やす 明二九、一〇生、東京、赤澤小太郎七女

君は舊小田原藩士吉川直廣の二男にして明治二十五年八月を以て生れ大正七年家督を相続す文名を英治と稱し大衆作家として知られ「鷗門秘帖」其の他數十種の大衆文藝及童話用柳に關する雜筆あり家族は尙長女園（昭二、一一生）妹キノ（明二七、一〇生）弟素助（同三三、三三）同晋（同四二、二生）ありA一二〇〇（東京、芝、芝公園十四號地）

吉川克己 群玉舎、上野館、旅館業 東京府在籍

妻 テイ 明二二、六生、福井、和田智三郎

君は福井縣人吉川等の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正十四年家督を相続す旅館業を營み群玉舎及上野館を有す家族は尙長女節子（大七、二生）二女喜代子（大一一、六生）あり（東京、下谷、車坂町九電下谷一四八〇）

吉川龜次郎 從四位勳四等、工學博士、高山耕山化學陶器監査役、湯淺蓄電池製造顧問、京都府在籍

妻 ヒロ 明三二、四生

男 千鶴 明四一、九生、長男巖妻、兵庫、西垣勘次郎妹

男 明四三、一〇生

君は奈良縣人吉川權平の二男同伊作の兄にして明治二十年十二月を以て生れ大正四年兄重重郎方より分れて一

君は新潟縣人先代吉五郎の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正七年家督を相続し前名吉一郎を改め變名す味噌醬油醸造業を營み直接國稅五千七百七十三圓を納め縣下の多額納税者たり（白根銀行取締役）に擧げらる家族は尙弟吉十郎（明二六、九生）同妻タミ（同三一、一一生、新潟、吉川貞吉妹）及其子女同浩吉（同四〇、八生）妹ムメ（同四四、二生）あり同サイ（同三二、二生）は新潟縣人鈴木新資に嫁し叔父吉太郎（同五、四生）は同縣人野澤石太郎の養子となり富主たり（新潟、中蒲原、白根町）

吉川吉郎兵衛 正五位勳四等、衆議院議員（大阪府選出）、大阪府在籍

妻 ウタ 明九、三生、大阪、竹中卯兵衛二女

君は大阪府人吉川源次郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同二十年家督を相続す義に津守村長大阪府會議員同參事會員大阪府會議員に擧げられ又大阪土地建物會社監査役たり大阪府より推され衆議院議員に當選する事四回現に立憲民政黨に屬す昭和四年陸軍參謀官に任ぜられ同六年四月之を辭す家族は尙庶子勝子（大七、七生、生母大阪、國部エ）同貞子（同六、六生、生母同上）同茂子（同一〇、二生、生母同上）同貞子（同一二、八生、生母同上）あり父源次郎（弘化二、四生）母とめ（同四、八生、祖父吉郎兵衛長女）は共に分家し弟吉之助（明一六、四生）は其家籍に入り妹あい（同五、四生）は大阪府人吉川吉右衛門長男次郎に同たね（同一一、七生）は同府人加藤次兵衛に嫁せり（東京市外濠谷町青葉三電青山七一六）

吉川久七 大日本漁業、大阪石膏、日本農藥各廠取締役、吉川久七商店代表社員、貿易商、兵庫縣在籍

妻 明一〇、三生、養父久七長女

男 益太郎 明三三、七生

男 幸次郎 明三七、三生

君は兵庫縣人植松源平の二男にして明治五年九月を以て生れ同二十九年先代久七の養子となり家督を相続し前名友一を改め變名す夙に應慶義塾を卒業し貿易商イリヤ商館に入り漸次果進して同館主任となりしが大正

元年是を辭して獨立輸出入業を開始し後營業を合名會社に改め吉川久七商店と稱し之を主宰傍ら前記各會社の重役たり義に藤井製藥會社長長崎海産會社社長談役たりし事あり妻はま（明二三、一一生）は京都府人森半兵衛長男半之助に嫁せりA一五〇〇B二七〇〇（神戸、花隈町三四電元町六九五）

吉川清 瑞穂農場専務取締役、農林業、東京府在籍

妻 テル 明一三、八生、北海道、間島淳四女

男 千波 明四五、一一生

君は新潟縣人吉川庄藏の五男同三雄司の弟にして明治十六年二月を以て生れ先代村三郎の養子となり大正十四年家督を相続す新潟縣立長岡中學校を卒（明治三十八年渡鮮農事經營に従事すること多年業績大に擧がる大正十年朝鮮平北定州郡南面に於て株式會社瑞穂農場を組織し現に其事務取締役たり家族は尙二男浩（大三一、一一生）四男春波（昭三、一一生）あり（京城、三坂道一四二電龍山四一六）

吉川熊藏 地主 東京府在籍

妻 いわ 安政六、二生、東京、増田七兵衛

男 龜太郎 明三八、七生

男 峰雄 明四〇、一一生、早大在學

女 歌子 明四五、四生、府立第七高女出身

君は東京府人吉川熊次郎の長男にして明治十四年三月を以て生れ同二十八年家督を相続す地主たり家族は尙三男健三（大四、九生）妹たけ（明一六、六生）あり弟正藏（同一八、三生）は分家し同松三郎（同二三、三生）は東京府人山本重次郎の養子となり姉と（同一一、一一生）は同府人吉川鐵太郎長男六之助に嫁せり同二六、一〇生）は同府人長崎恒三郎長男恒太郎に嫁せりA一七七二（東京市外大島町七ノ二三）

吉川重次郎 履物商 大阪府在籍

妻 幸子 明一九、一一生、大阪、十川兵之助四女

男 重信 明四三、一一生

女 綾子 大四、四生

君は大阪府人先代重次郎の二男にして明治十五年三月

家を創立す第三高等中學校を経て明治二十八年帝國大學工科大学應用化學科を卒業し同三十年東京帝國大學工科大学助教授に任じ翌年京都帝國大學工科大学設立の際轉じて同學理工科助教授となり獨逸に留學し三ヶ年後歸朝す同三十九年工學博士の學位を授けられ同大學教授に任ぜられしが大正二年是を辭し湯淺蓄電池會社に入り取締役を経て現に同社顧問たり傍ら前記會社の重役を兼ね著書「工業電氣化學及蓄電池と其取扱法」あり家族は尙孫佳子（昭六、一一生、長男巖長女）あり長女節子（明三五、六生、第一高女出身）は岡山縣人多賀寛に嫁せりA六四九（京都、上京、中筋石藥師下新夷町三八五電上一九〇六）

吉川勘三 奈良縣多額納税者、農林業 奈良縣在籍

妻 勘一郎 大五、六生

男 勘一郎 大五、六生

君は奈良縣人吉川芳吉の長男にして明治二十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す農林業を營み直接國稅千三百九十八圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尙二男泰成（大七、四生）三男三朗（同一四、一一生）弟光義（明三三、二生）同妻カズエ（同三七、一一生、奈良、金田重代妻）及其二子あり（奈良、吉野、大塔村）

吉川義農 金名鐵道常務取締役、丸和絹織 徳田商店監査役、富山縣在籍

妻 いち 明二八、一一生、養父直短二女

男 綾子 明二八、一一生、養父直短二女

君は富山縣人飯田平太郎の三男にして明治三十一年一月を以て生れ先代直短の養子となり大正九年家督を相続す同八年加越鐵道會社經理主任となり同十年能登鐵道會社經理主任を経て昭和二年金名鐵道會社に轉じ常務取締役に就任し今日に至る現時傍ら前記會社の重役を兼ぬ（金澤、西町四番町一七）

吉川吉五郎 新潟縣多額納税者、味噌醬油醸造 業、新潟縣在籍

妻 サタ 明五、七生、新潟、小林純藏長女

男 明三四、五生、新潟、榎並吉太郎

君は大阪府人吉川捨治郎の長男にして明治二十二年十月を以て生れ大正五年家督を相続す米穀商を營み吉川商店専務取締役たり家族は尙二女節子（大六、一一生）あり妻はツル（明二八、三生、和歌山、野田圭吉妻）は大阪府人今井百太郎に嫁せりA四五四（大阪、東安土町二ノ七電本町一九一〇）

吉川源太郎 吉川商店専務取締役、米穀商 大阪府在籍

妻 りき 明三、四生、和歌山、野田才七二

女 明二四、三生、兵庫、柴田伊藏三

君は三重縣人吉川磯右衛門の長男にして明治十九年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す明治四十年大阪高等商業學校を卒業し現時四日市銀行専務取締役たる外前記銀行會社の重役たり（四日市、諏訪町一二）

吉川光藏 四日市銀行専務取締役、熊澤殖 産取締役、北紀銀行監査役 三重縣在籍

妻 ひで 大四、一一生、三重、水谷忠三郎孫

君は長野縣人今村八郎の四男にして明治十九年十二月を以て生れ先代仙彌の養子となり同四十四年家督を相続す和紙商を營む家族は尙養子マチ（大八、二生、長野、江塚善三孫）ありA一五〇B四四八（東京、京橋、大銀町六電京橋八七九）

吉川四郎 和紙商 東京府在籍

妻 カネコ 文二、二生、長野、市村伊三郎

男 昭一郎 昭四、一一生

君は長野縣人今村八郎の四男にして明治十九年十二月を以て生れ先代仙彌の養子となり同四十四年家督を相続す和紙商を營む家族は尙養子マチ（大八、二生、長野、江塚善三孫）ありA一五〇B四四八（東京、京橋、大銀町六電京橋八七九）

吉川重次郎 履物商 大阪府在籍

妻 幸子 明一九、一一生、大阪、十川兵之助四女

男 重信 明四三、一一生

女 綾子 大四、四生

君は大阪府人先代重次郎の二男にして明治十五年三月

を以て生れ大正九年家督を相續し前名甚之助を改め...

吉川 重三 大阪株式取引所取引員

吉川 重三 兵庫縣在籍

吉川 重三 兵庫縣在籍

吉川 重三 兵庫縣在籍

吉川 重三 兵庫縣在籍

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 清七 日本銀行調査役、營業局勤務

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 太市郎 近太、旅館業

吉川 竹三郎 淀の水高等女學校、淀の水女學校

吉川 鶴吉 東京府在籍

吉川 時松 材木商

吉川 竹三郎 淀の水高等女學校、淀の水女學校

吉川 鶴吉 東京府在籍

吉川 豊助 大阪府多額納税者、吉川商店

吉澤 善夫 大一〇、三三
君は廣島縣人吉澤善助の三男にして明治十九年四月を以て生れ同十四年兄善助方より分れて一家を創立す同年慶應義塾理財科を卒業し現に東京瓦斯電氣工業會社虎之門營業所長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男眞次(大一一、一三)三男仁藏(同一四、四生)長女一子(昭三、一三)あり(東京市外大井町一〇四二電大森七二二)

吉澤 岩次郎 高津土地建物検査役、鼻緒商
大阪府在籍

男 嘉一郎 明三八、二生
男 平三郎 明四五、五生
女 佳子 明四五、五生

君は鳥取縣人吉澤平次郎の二男にして明治十五年六月を以て生れ同三十七年兄龜吉方より分れて一家を創立す鼻緒商を營み傍ら高津土地建物會社検査役たり家族は尙三男岩之助(大一二、九生)四男新之助(同一四、一三)五男正七郎(同一五、一〇生)五女悦子(同一九、六生)六男良三(同一二、一〇生)あり長女悦子(明三九、一〇生)は大阪府人眞浦正一に嫁せり(大阪、西阿波座一番丁一七電新町一〇九二)

吉澤 音吉 妻 眞田貿易商
東京府在籍

妻 妙子 明二六、五生、東京、小島勇次郎
女 照子 大一一、八生
女 博子 大四五、九生

君は栃木縣人吉澤音吉の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正十年母ヨシの後を承け家督を相続す妻眞田貿易商を營む家族は尙三女光子(大八、四生)二男末吉(同一二、一〇生)三男英吉(同一四、一〇生)四女安子(昭二、九生)四男秀吉(同一四、一〇生)弟房吉(明三九、六生)あり(東京、神田、元久右衛門町二ノ二電國淺重七二五五)

吉澤 一麿 妻 眞田貿易商
愛知縣士族
明一、五生、愛知、土、久野東
英妹

君は愛知縣士族吉澤謙の長男にして明治五年十月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學工科大学探査冶金科を卒業し三菱礦業會社に入り參事に進み方城高島松田各炭坑長大夕張礦業所長に擧げらる後之を辭し山陽無煙炭礦會社專務取締役たりしことあり長女田鶴子(明三五、五生、長崎縣立高女出身)は日本礦業會社技術工學士石塚尙に二女喜子(同一四〇)一子、聖心女子學院高等專門部出身)は東京府人醫學博士小口忠太郎醫學士忠夫に嫁し弟武雄(同一五、八生、三菱礦業會社員)同誠郎(同一九、三三、三菱商會社員)は各分家せり(東京、牛込、市谷河田町一七電牛込一四二〇)

吉澤 喜助 妻 眞田貿易商
東京府在籍

妻 フジ 明元、三三、山口、阿部兵衛妹
養子 素子 明四一、三三、山口、湊英綱妹

君は大分縣人吉澤豊松の三男にして明治十四年三月を以て生れ大正九年兄惠十郎方より分れて一家を創立す吉澤と稱し料理業を營む(東京、京橋、銀座八ノ四ノ二電銀座五三三六)

吉澤 榮吉 妻 眞田貿易商
大阪株式版、所詮證券係長
兵庫縣在籍

妻 君子 明三一、六生、大阪、大澤彌太郎
女 武子 大一一、一〇生

君は舊姫路藩士吉澤剛の三男にして明治二十四年五月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す現時大阪株式取引所證券係長たり家族は尙長女純代(大一一、八生)二男透(昭二、一〇生)三男良一(同一五、一〇生)ありA一九二(大阪、住吉、阪南町中四ノ一七)

吉澤 周一 妻 眞田貿易商
從五位勳四等、判事、岡山區裁判所監督判事、廣島縣在籍
安政元、一〇生、廣島、岡本熊三
繼母 マサ 昭二、一〇生、廣島、内山虎次
妻 エイ 昭二、一〇生、廣島、内山虎次
養子 亨 大四五、三三、廣島、足利義義男
君は廣島縣人吉澤柳之都の長男にして明治十三年八月

を以て生れ大正九年家督を相続す明治四十年中央大學を卒業し判事登用試験に合格し同十四年判事に任じ爾來佐賀地方佐世保區山口地方岡山地方法各裁判所に歴補し大正十四年岡山地方法裁判所部長に轉じ現時同區裁判所監督判事たり家族は尙弟忠男(明一八、九生)同妻サタ(同一二、八、一〇生、廣島、土、坂郷重三女)あり(岡山市區裁判所内)

吉澤 重次郎 妻 眞田貿易商
東京府士族
嘉永五、四生、舊幕臣吉澤仙仙衛
門二女
明一七、一二生、千葉、古柴八之助

男 惣次郎 明四一、一〇生

君は東京府士族吉澤重壽の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十年家督を相続す地家主たり家族は尙三男利正(大四五、三三)三女つた子(同一二、六生)四男重右衛門(同一五、一〇生)弟兼藏(明九、一〇生)同仙吉(同一三、六生)同妻ハヤ(同一三、四五、五生、東京、田中忠左衛門四女)及其一子あり(東京市外大崎町桐ヶ谷三〇)

吉澤 尚 妻 眞田貿易商
川崎第百銀行舊横濱支店長
東京府在籍

妻 信子 明二五、一〇生、東京、小谷久男
女 茂登子 大一一、一〇生

君は鳥取縣人山中祥曹の三男山中榮の兄にして明治十六年九月を以て生れ同三十三年祖父榮次郎の死跡を相続す大正二年東京帝國大學法科大學を卒業し直に第百銀行に入り香妻橋支店長に進み同行の川崎銀行と合併し川崎第百銀行となるや検査役に擧げられ現時同行横濱支店長たり家族は尙二女友子(大七、一〇生)三女房子(同一二、一〇生)ありA二二四(東京市外日暮里町渡邊町一〇三五電下谷九八二)

吉澤 新兵衛 妻 眞田貿易商
信産銀行舊取締役
長野縣在籍
安政三、一〇生、長野、西村小三
祖母 いち 昭二、一〇生

妻 かづえ 明三九、四生、長野、小町谷六郎
長女 大一一、一〇生

男 修平 大一一、一〇生

君は長野縣人先代新兵衛の長男にして明治三十四年五月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名榮一を改め襲名す現時信産銀行取締役たり家族は尙二男輝二(昭三、三三)弟廣司(明三七、九生)同順藏(同一四、一〇生)同道雄(同一三、一〇生)妹君子(大三、八生)弟貞雄(同一六、六生)同久雄(同一九、六生)同寛治(同一一、一〇生)あり叔父文次郎(明一五、三三)は同妻チツ(同一二〇、三三)生、長野、山本濱太郎(二二)は長野縣人福島實太郎に同朝(同一四、四生)は岐阜縣人中根政造に嫁し叔父福雄(同一六、一〇生)は長野縣人山下松太郎に大叔父猪之吉(文久二、九生)は其妻を携へ(同縣人福島要藏に各養子となれり(長野、下伊那、飯田町) 參照 山下松太郎の項

吉澤 清次郎 妻 眞田貿易商
從五位勳五等、大使館一等書記官
伊國在籍、長野縣在籍

妻 しん 文久三、一〇生、長野、上條儀平長
女 明三七、一〇生、岐阜、武藤山治

君は長野縣人吉澤清次郎の二男にして明治二十六年二月を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し同年外交官及領事官試験に合格し外交官補に任ぜられ英國に在勤し爾來英國大使館三等書記官外務事務官濟南領事兼臺灣總督府事務官獨逸大使館二等書記官等に歴任し昭和四年大使館一等書記官に任ぜられ現に伊國在勤たり家族は尙長女清子(大一一、五、三三)二女百合子(昭二、四生)兄茂(明一五、三三、現戸主)同妻善孝(同一九、一二生、長野、吉江成美妹)及其一子弟文三郎(同一三、一〇生、經濟學士)あり(伊國日本大使館内) 參照 武藤山治中上川三郎治八木幸吉の項

吉澤 恒也 妻 眞田貿易商
東京府在籍

母 まさ 安政四、三三、吉澤仁兵衛二女

妻 しづ 明三二、三三、東京、田中榮吉長
女 大一一、一〇生

男 峰夫 大一一、一〇生

君は東京府人吉澤隆太郎の二男にして明治二十六年九月を以て生れ大正十三年家督を相続す現に京華中學校を卒業し通信省官吏となり後自家にありて度量衡器商を營みしも現時家主たり趣味として洋樂舞踏等を好む家族は尙長女芳子(大一一、四生)妹雪(明三二、一〇生)あり同靜江(同一五、七生)は東京府人吉澤多賀の家籍に入れり(東京市外王子町上十條一四七六) 參照 山口萬五郎の項

吉澤 仁太郎 妻 眞田貿易商
新潟縣多額納稅者、酒造業
新潟縣在籍

妻 ワカ 明二〇、六生、新潟、山田孫太郎
男 總一郎 大一一、一〇生、養子いさを夫、
明二二、三三、二生、養子いさを夫、
養子 勇次郎 明三〇、一〇生、養子勇次郎妻、
養子 いさを 明三〇、一〇生、養子勇次郎妻、
新湯、堀井幾七弟
君は新潟縣人吉澤仁太郎の二男にして文久三年六月を以て生れ明治二十七年分れて一家を創立す酒造業を營み直接國稅六千九百九十四圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙長女三枝(大一一、二生)孫義雄(同一四、二生)養子勇次郎長男(同一六、二生、同二男)同敏郎(同一一、五生、同四男)あり(新潟、古志、上組村)

吉澤 銚三郎 妻 眞田貿易商
仁壽生命保險取締役
東京府士族

妻 きよ 明一七、九生、静岡、時田弘太郎
男 弘 明三一、八生
男 仁 明四一、八生
男 秀彌 明四四、九生

君は舊柳澤藩士池田實五郎の三男にして慶應元年十月を以て生れ舊仙臺藩士先代きくの養子となり明治十二年家督を相続す現時仁壽生命保險會社取締役たり家族は尙二女富士子(大一一、九生)あり長女靜子(明三五、二生)は兵庫縣人石關自助に嫁せりA四五〇(東京市外入新井町新井宿一六六九電大森三三三三)

吉澤 眞範 妻 眞田貿易商
正五位勳五等、海軍豫備大尉、神戶高等商船學校教授兼地方海員審判所審判官、鳥取縣在籍

妻 はな 明一九、九生、大阪、樺木宗三郎
女 二女

君は舊鳥取藩士吉澤草人の三男にして明治十八年三月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十年商船學校航海科を卒業し同年日本郵船會社に入り後鹿兒島縣立商船學校校長に任ぜられ大正四年再び海上に出で汽船國後丸船長同華西船長等に歴任し同九年神戶高等商船學校教授に任ぜられ又大阪地方海員審判所審判官を兼任す義に文部省視學委員に擧げられ又同十四年歐米各國に出張を命ぜられ海員教育の實況を視察す(兵庫、武庫、本庄村西青木電影二七八〇)

吉澤 義則 妻 眞田貿易商
從四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務
京都府士族

妻 きん 明二三、一二生、愛知、盛田兼吉
男 朝二 明四三、一〇生
男 朝一 明四一、一〇生

君は愛知縣士族木村正則の二男にして明治九年八月を以て生れ同三十九年先代由理の入夫となり家督を相続す同三十五年東京帝國大學文科大學文系を卒業し同大學文科大學助手となり同三十八年廣島高等師範學校教授に任じ同四一年京都帝國大學助教授に轉じ大正八年同大學文學部教授となり今日に至る傍ら立命館大學文學部長たり義に文學博士の學位を授けらる家族は尙二女キヨ(大六、四生)四男四郎(同一八、六生)三女ミチ(昭二、五生)あり長女トシ(明四〇、一〇生)は新潟縣人山岸徳平に嫁せり(京都、愛宕、修學院村電上一五〇六)

吉住 英三 妻 眞田貿易商
横濱興信銀行、七十四銀行各種監査役、辯護士、神奈川縣在籍

妻 きみ 明一五、八生、東京、植木耐太郎
男 達一郎 明四一、四生
女 滿江 明四四、三三

君は神奈川縣人吉住貞三の三男にして明治十五年一月

を以て生れ大正六年兄賣方より分れて一家を創立す...

吉住小三郎

長頭師匠 東京府在籍 妻 明一三、二生、東京、内村佐之助...

吉田五十八

太田信義藥房常務取締役、吉田君は東京府人先代太田信義の五男にして明治二十七年...

吉田伊兵衛

四日市商工會議所常議員、四日市銀行、東海電線、霞浦土地、四日市...

君は三重縣人小林藤吉郎の弟にして明治十六年七月を以て生れ...

四一、一生は三重縣人三輪毅四男男四郎に嫁せり(四日市、藏町三四〇四) 参照三輪毅の項

吉田猪太郎

大阪商工會議所常議員、千歳同族會代表取締役、日本動産火災保險株式會社...

吉田磯吉

勳三等、衆議院議員(福岡縣選出) 若松航運船運社長、神戸銀行、山九運船、海老津炭礦、若松戸畑...

吉田榮治郎

關西鐵道所事務取締役 大阪府在籍 妻 明三、四、五、生、大阪、大野辰治郎...

君は大阪府人吉田吉松の三男にして明治二十五年四月を以て生れ...

吉田音松

近江鐵道監査役、辯護士、辦理士、大阪府在籍 妻 明二、四、五、生、和歌山、士、寺東...

吉田嘉助

鹿島屋、紙類商 東京府在籍 妻 明二、七、一、生、東京、高橋彦次郎...

吉田榮右

常務生命保險總務取締役 東京府在籍 妻 明四、二、一、生、東京、青山女學院出身...

吉田英三郎

從七位勳七等、朝鮮電氣興業專務取締役、鎮南浦電氣、朝鮮無線炭各總取締役、東京府在籍...

吉田(キン)孫瑛子(同一四、一生、長男敬太郎長女)同...

吉田卯三郎

從五位、理學博士、京都帝國大學教授、理學部勤務、京都府在籍...

吉田卯之助

大阪府多額納税者、八千代興業株式會社取締役、大阪府在籍...

吉田永助

正五位勳五等、前商工技師 東京府在籍 妻 明三、三、生、東京、高田鐵三姉...

君は大阪府人先代卯之助の長男にして明治五年七月を以て生れ...

吉田一雄

榮壽、料理業 大阪府在籍 妻 明二、五、六、生、大阪、吉田末吉長...

吉田勝太郎

正五位勳四等、北海道部長、内務部長、愛媛縣士族 妻 明二、三、三、生、愛媛、阿部平助六...

吉田勝之助

東京金物賣場取締役 東京府在籍 妻 明一、五、一、二、生、大阪、春澤喜太...

吉田榮右

常務生命保險總務取締役 東京府在籍 妻 明四、二、一、生、東京、青山女學院出身...

あり(東京、深川、猿江裏町一三二電本所四二四)

吉田 兼治 東海運取締役、北方商會支店

吉田 龜吉 山崎屋、醬油商

吉田 勘右衛門 東京計量器製造取締役、吉田計量器

吉田 勘兵衛 神奈川縣多額納税者、地家主

君は香川縣人吉田香太郎の二男にして明治九年八月を

吉田 龜次郎 羅紗セル地卸商

吉田 勘右衛門 東京計量器製造取締役、吉田計量器

吉田 勘兵衛 神奈川縣多額納税者、地家主

君は神奈川縣人先代勘兵衛の長男にして明治四年六月

吉田 寛藏 吉田石油店、石油及鑛油商

君は大阪府人吉田善三郎の長男にして明治三十一年一

吉田 喜一郎 安治川土地各縣監査役、大正運輸

九四(神戸、下山手通七ノ二五九電元町五三三)

吉田 喜三郎

兵庫縣多額納税者、吉田屋呉服店

吉田 喜太郎 熊本縣多額納税者、農業者

吉田 喜兵衛 橋屋、家主

君は大阪府人吉田喜三郎の長男にして明治十三年一月

吉田 吉右衛門

新沼縣多額納税者、村上銀行、村

君は新潟縣人先代吉右衛門の長男にして明治二十二年

吉田 吉次郎 龜末廣、菓子商

君は山形縣人吉田福平の四男にして明治十七年二月を

吉田 吉助

山形商工會議所常務員、山形桐紙

君は三重縣人吉田八右衛門の三男にして明治七年五月

吉田 久太郎 熊本縣多額納税者、農業者

吉田

國稅二千五百四十九圓を納め... 家族は向津津福(明九、三三)...

吉田 清風

從三位勳三等、子爵、貴族院議員... 東京府華族...

吉田 京之助... 日本亞鉛鐵金銀代表取締役... 大阪府在籍...

吉田 金次郎... 中央屠場總副社長、地主... 東京府在籍...

吉田

妻 ツヤ 文久三、二生、東京、角田金三郎... 養子 定治 明一、七生、埼玉、岩田七兵衛...

吉田 金太郎... 神戸取引所取引員... 兵庫縣在籍...

吉田 謹平... 從五位、鐵道技師、大臣官房研究... 所第一科勤務、東京府在籍...

吉田 慶次郎... 岐阜縣會議員、岐阜市會議員... 岐阜縣在籍...

吉田

月を以て生れ大正十五年兄勘藏方より分れて... 立す同三年東京帝國大學理科大學應用化學科を卒業...

吉田 楠次郎... 大阪府士族... 大阪府在籍...

吉田 國松... 家主... 大阪府在籍...

吉田 熊次... 正四位勳三等、文學博士、東京帝... 國大學教授、文學部勤務...

君は山形縣人吉田榮次郎の長男にして明治七年二月を... 以て生れ大正七年家督を相続す明治三十三年東京帝國...

吉田 啓藏... ボルネオ保護領取締役、南洋護... 竹林工作所各務監督、東京府在籍...

君は鹿兒島縣人野上啓兵衛の三男にして明治十二年十... 一月を以て生れ先代メメの養子となり同十四年家督を...

吉田 惠一... 北陸冷蔵、東洋捕鯨各務監督... 福岡縣在籍...

君は千葉縣人三郎萬司の二男にして明治十五年七月を... 以て生れ先代謙爾の養子となり大正三年家督を相続す...

吉田 敬三... 千葉合同銀行常任監査役... 千葉縣在籍...

君は岐阜縣人松下みかの私生子にして明治十七年四月... を以て生れ先代仰吉の養子となり同三十一年家督を相...

吉田 健三郎... 正五位勳四等、鐵山監督局長、福... 岡鐵山監督局長、徳島縣在籍...

君は島根縣人吉田定七の長男にして明治十七年七月を... 以て生れ同四十二年家督を相続す大正四年東京帝國大...

吉田 賢男... 從五位勳六等、鳥取縣書記官、學... 務部長、島根縣在籍...

君は石川縣人吉田與助の二男にして明治三年二月を以... て生れ前名三太郎を改め昭和五年勳章方より分れて...

君は徳島縣人岩佐京平の五男にして明治十六年四月を... 以て生れ先代金藏の養子となり同三十七年家督を相...

吉田

吉田

吉田

君は福岡縣人吉田直三郎の長男にして明治十四年七月... を以て生れ同二十八年家督を相続す同三十七年東京高...

君は徳島縣人岩佐京平の五男にして明治十六年四月を... 以て生れ先代金藏の養子となり同三十七年家督を相...

君は石川縣人吉田與助の二男にして明治三年二月を以... て生れ前名三太郎を改め昭和五年勳章方より分れて...

吉田 絃二郎

早稲田大学教授、著述業

妻 あき

君は佐賀縣人吉田榮作の二男にして明治十九年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す...

吉田 源藏

養子 則一

養子 民子

君は兵庫縣人吉田清七郎の長男にして明治七年八月を以て生れ後家督を相続す...

吉田 源太郎

妻 タキ

君は栃木縣人吉田安兵衛の長男にして明治十一年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す...

吉田 耕造

妻 梅子

君は岩手縣人鈴木善次郎の五男にして明治二十四年六月を以て生れ鈴木家に入り家督を相続す...

吉田 康太郎

妻 一子

君は大府人吉田正信の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正二年朝正英方より分れて一家を創立す...

吉田 佐文治

妻 喜美

君は長野縣人吉田嘉代藏の長男にして明治十年六月を以て生れ大正九年家督を相続す...

吉田 作助

妻 仙藏

君は福島縣人先代作助の長男にして元治元年一月を以て生れ明治十一年家督を相続す...

吉田 貞一

妻 正三

君は大阪府人前田嘉兵衛の四男にして明治十七年十二月を以て生れ先代定七の養子となり昭和五年家督を相続す...

吉田 定七

妻 とめ

君は岐阜縣人吉田仙藏の二男にして明治十五年一月を以て生れ現時飛越電氣會社社長たる外前掲諸會社の重役たり...

吉田 幸三郎

妻 かう

君は東京府人吉田彌一郎の三男にして明治二十年二月を以て生れ大正十三年家督を相続す...

吉田 幸次郎

妻 うめ

君は東京府人吉田嘉兵衛の長男にして明治五年四月を以て生れ同十六年家督を相続す...

吉田 幸治郎

妻 れん

君は和歌山縣人森本龍右衛門の三男にして明治四年八月を以て生れ同十六年家督を相続す...

吉田 作次郎

妻 アヤ

君は福島縣人先代作次郎の長男にして元治元年一月を以て生れ明治十一年家督を相続す...

吉田 貞一

妻 正三

君は大阪府人前田嘉兵衛の四男にして明治十七年十二月を以て生れ先代定七の養子となり昭和五年家督を相続す...

吉田 定七

妻 とめ

君は岐阜縣人吉田仙藏の二男にして明治十五年一月を以て生れ現時飛越電氣會社社長たる外前掲諸會社の重役たり...

吉田 貞一

妻 正三

君は岡山縣人吉田晋三の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正九年家督を相続す...

吉田 貞一

妻 正三

君は岡山縣人吉田晋三の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正九年家督を相続す...

吉田 貞一

妻 正三

君は岡山縣人吉田晋三の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正九年家督を相続す...

所、相生町四ノ一七電本所四三三七

吉田 信

三菱銀行員
東京府在籍
母 明六、一一生、東京、高木半
妻 やす 明三、三三、東京、安井治兵衛
男 晴彦 大、一〇、三三

君は先々代利助の孫なり利助は大阪の農家より出て米穀商三郎兵衛方に奉公し後其後援に依りて米穀商を開始し刻苦精勵富家の基を起す君は先代利助の長男にして明治二十五年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す大正五年慶應義塾理財科を卒業し現時三菱銀行員たり家族は尙二男健次(大、一、一)生)妹蘭子(明三、五、一)生)あり姉福子(同二、四、一)生)は東京府人飯島博に妹愛子(同三、一、八)生)は神奈川縣人秋澤武夫叔父國美に同末子(同三、七、四)生)は東京府人今井高行二男洋之輔に嫁し弟千勝(同二、九、一)生)同四郎(同三、二、一)生)は各分家せり(東京市外大井町三〇五六)
参照 安井治兵衛家村上文袋の項

吉田 信一

正五位勳五等、商工技師、貿易局勤務、新潟縣士族
父 愛信 嘉永二、八生、現戸主
母 貞子 可憐養母、一、二生、東京、士、稻垣
妻 エイ 明二、四、九生、新潟、長谷川寛治
女 文 大元、九生
女 妙 大元、一一生

君は新潟縣士族吉田愛信の長男にして明治十九年三月を以て生れ同四十二年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し農商務技師兼工業試験場技師工場監督官兼臨時産業調査局技師國勢院技師特許技師兼農商務技師等に歴任し大正十四年商工技師となり農商務局勤務を経て現に貿易局勤務たり義に二回歐米各國に出張す姉ノフ(明一、七、七)生)は新潟縣士族清澤貞直の養子となり叔父萬作(安政六、一〇)生)は分家せり(東京市外落合町下落合四〇四)

吉田 眞一

住友信託取締役、住友銀行監査役、山口縣士族
妻 ヲトメ 明一、二、二生、山口、士、高洲勝
男 保 明三、二、四生
男 嘉津 明三、七、五生、長男保妻、千葉、茂木新三郎長女
男 三郎 明四、一、四生

君は山口縣士族吉田右一の二男にして明治三十年十月を以て生れ同二十四年家督を相続す同二十八年帝國大學法科大學英法科を卒業し住友銀行に入り横濱支店支配人本店支配人支店長等を経て大正七年同行取締役になり現に常務取締役たり現時前記各會社の重役たり長女ミヤ(明三、五、一)生)は山口縣人兄部謙輔に二女ヒロ(同三、七、二)生)は同縣士族小田伴輔長男光伴に嫁し二男順(同三、九、一)生)は同縣士族阿部イソの養子となり兄乙熊(慶應元、一〇)生)同妻タカカ明六、一、一、山口、士、佐藤政孝(二女)は其二子を伴ひ分家せりA三二五六(京都、下京、今熊野地日吉町電報二六二五)

吉田 憲

正六位勳四等、陸軍騎兵中佐、皇族附武官、東京府士族
妻 喜代 明二、九、五生、吉田爲次郎長女
男 周正 大八、一一生

君は東京府人渡邊修の弟にして明治二十年四月を以て生れ大正七年先代家督の入夫となり家督を相続す明治四十二年陸軍騎兵少尉に任官し漸次果進して昭和三年同中佐に任す現に皇族附武官恒憲王附たり家族は尙ほ二男周明(大、一〇、一)生)三男弘(同四、六)生)四男靖(昭三、二)生)長女温子(同五、九)生)妻妹周(明三、二、四)生)あり同妻惠(同三、六、六)生)は東京府人山田西一に同爲(同三、八、二)生)は同府人澤柳謙太郎に嫁せりA六〇八(東京、麹町、平河町六、五電九段一五二九)
参照 男爵安東貞良次女田藤一郎次女木殿翼の項

吉田 甚五郎

吉良屋本店、酒醬油商
妻 きの 明一、六、一〇生、吉田和喜二女

吉田 善三郎

百五銀行取締役
三重縣在籍
母 嘉永二、五生、三重、嵐半兵衛長
女 明七、六生、三重、矢守治平太長
妻 とし 明三、九、九生、三重、速水健治郎
男 善彦 大、一、一、二生

君は千葉縣人先代甚左衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十二年家督を相続し前名銀之助を改め襲名す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接間接千七百八十五圓を納め同縣多額納税者たり家族は尙ほ妹けい(明九、一)生)あり同あき(同二、一〇)生)は埼玉縣人酒井卓造に同久(同四、一〇)生)は東京府人江澤金五郎に叔母ちよ(同七、八)生)は千葉縣人島村運平に嫁し弟禾七(同二、七)生)は東京府人梅津もんの養子となり(千葉、東葛飾、田中村)
参照 梅津禾七、江澤金五郎、酒井卓造の項

吉田 末吉

ライオン食堂、料理業
大阪府在籍
妻 安治郎 明二、〇、一〇生
男 安治郎 明二、〇、一〇生
女 明二、〇、一〇生

君は大阪府人吉田彌三郎の二男にして應應三年三月を以て生れ明治九年兄彌三右衛門の後を襲ひ家督を相続す夙に川魚料理業榮華に勤めて同業を會得し後獨立開業して主家の家號を許され榮華と稱し漸次發展せしも後ち之を女婿兼治郎に譲りライオン食堂の經營に當る會て大阪川魚會社取締役たりし事あり家族は尙ほ孫三(大五、二)生、長男安治郎(二男)同(一)生、同(二)生、同(三)生、同(四)生、同(五)生、同(六)生、同(七)生、同(八)生、同(九)生、同(一〇)生、同(一一)生、同(一二)生、同(一三)生、同(一四)生、同(一五)生、同(一六)生、同(一七)生、同(一八)生、同(一九)生、同(二〇)生、同(二一)生、同(二二)生、同(二三)生、同(二四)生、同(二五)生、同(二六)生、同(二七)生、同(二八)生、同(二九)生、同(三〇)生、同(三一)生、同(三二)生、同(三三)生、同(三四)生、同(三五)生、同(三六)生、同(三七)生、同(三八)生、同(三九)生、同(四〇)生、同(四一)生、同(四二)生、同(四三)生、同(四四)生、同(四五)生、同(四六)生、同(四七)生、同(四八)生、同(四九)生、同(五〇)生、同(五一)生、同(五二)生、同(五三)生、同(五四)生、同(五五)生、同(五六)生、同(五七)生、同(五八)生、同(五九)生、同(六〇)生、同(六一)生、同(六二)生、同(六三)生、同(六四)生、同(六五)生、同(六六)生、同(六七)生、同(六八)生、同(六九)生、同(七〇)生、同(七一)生、同(七二)生、同(七三)生、同(七四)生、同(七五)生、同(七六)生、同(七七)生、同(七八)生、同(七九)生、同(八〇)生、同(八一)生、同(八二)生、同(八三)生、同(八四)生、同(八五)生、同(八六)生、同(八七)生、同(八八)生、同(八九)生、同(九〇)生、同(九一)生、同(九二)生、同(九三)生、同(九四)生、同(九五)生、同(九六)生、同(九七)生、同(九八)生、同(九九)生、同(一〇〇)生

吉田 清一

桃山牧畜場主、牛乳搾取業
大阪府在籍
祖母 弘化二、一一生、大阪、河邊七兵衛
妻 エイ 衛門二女
男 英 一 大七、四生

君は大阪府人吉田清三郎の長男にして明治十八年一月を以て生れ同四十二年家督を相続す牛乳搾取業を營み桃山牧畜場主として知らる家族は尙養子清二(大、二、二)生、弟二郎長男(同二、一、一)生、長女笑子(昭三、二)生、弟二郎(明三、〇、二)生、同妻文子(同二、八、一)生、兵庫、河邊信二郎妹)及其子女あり姉イト(同二、一、一)生、東京府人吉田貞太郎に妹千代子(同二、九、一)生)は大阪府人櫻井兵吉に嫁し同養子は分家せり(大阪、東、小橋元町七五電南二九八〇)

吉田 清風

正四位勳二等功三級、海軍中將
東京府士族
妻 コト 明一、五、一一生、鹿兒島、士、山下
女 多 嘉 明三、九、一一生、東京女學館出身
女 壽 美 明四、三、一一生、東京女學館出身

吉田家は代々舊鹿兒島藩に仕へたる士分なり先代清實明治維新後陸軍に入り累進して少將に至る君は其長男にして明治五年五月を以て生れ同二十年家督を相続す夙に海軍兵學校を卒業して海軍少尉に任じ次で海軍大學校教官艦隊參謀長軍令部參謀第二遣外艦隊司令官馬公要港部司令官等に歴補し同十二年豫備役に編入せらる家族は尙二男清典(大、四、一)生)三男清臣(同六、五)生)あり二女操(同三、七、三)生)女子學院出身)は東京府人法學士佐藤庄四郎に嫁せりA二八一(東京市外澁谷町永住五〇電青山四六一五)

吉田 清平

富山縣會議員、中越無盡齋務取
妻 ミネ 明三、一、二生、東京、歌川吉太郎
男 眞 一 大八、二生

君は富山縣人吉田和郎の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正六年兄和平方より分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして富山縣會議員に擧げらる(富山市總曲輪一四八)

吉田 靜致

正四位勳二等、文學博士、帝國大學文部省、東京帝國大學教授、東京文理科大學教授、長野縣士族
妻 明 一、四、七生、東京、士、萩原清彦妹
男 辰 福 明三、七、五生
女 敏 子 明四、四、一一生

君は長野縣士族吉田信義の長男にして明治五年七月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同三十五年東京高等師範學校教授に任じ同三十八年同校監に任ぜられ大正八年東京帝國大學教授となり同年文學博士の學位を受く現時同大學教授にして文學部に勤務し東京文理科大學教授を兼任し帝國學士院會員たり義に英獨各國に留學し最近二回歐米を漫遊す長女文(明三、九、九)生、御茶水高女出身)は北海道人笹谷貴義に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町九〇二)
参照 萩原清彦高岡熊雄の項

吉田 善吾

正五位勳三等、海軍少將、海軍々令部參謀、佐賀縣在籍
妻 ツネ 明二、六、四生、佐賀、士、松永直
女 光 子 明四、五、四生、雙葉高女出身
女 雅 子 大五、四生、御茶水高女出身

君は佐賀縣士族善與八の四男にして明治十八年二月を以て生れ後吉田祐次郎の養子となり大正十二年分れて一家を創立す明治三十七年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ昭和四年海軍少尉に果進す其間第三艦隊參謀水雷學校教官練習艦隊參謀海軍省教育局第二課長平戸艦長舞鶴要港部參謀長海軍省事務局第一課長金剛艦長陸奥艦長を歴補し現時海軍々令部參謀にして技術會議々員たり家族は尙三女茂子(大七、七)生、二男清(同一、〇、三)生、四女信子(同一、一、一)生、五女泰子(同一、一、七)生)あり(東京市外碑谷町食柿木坂三九七)

君は三重縣人先代善三郎の長男にして明治三十三年八月を以て生れ大正十年家督を相續し前名善一郎を改め...

吉田 十一

從五位勳四等、鐵道局副參事、東京驛長、岩手縣士族

吉田 宗兵衛

茶道具商、京都府在籍

吉田 宗三郎

明三九、五生

吉田 宗四郎

明四一、四生

吉田 多三郎

大阪府在籍

吉田 大藏

山本兩替店取締役、大阪堂島米穀取引所取引員、大阪府在籍

吉田 武衛

大阪堂島米穀取引所取引員、大阪府士族

吉田

吉田

君は京都府人先代宗兵衛の長男にして明治九年三月を以て生れ同十六年家督を相續し前名宗次郎を改め...

吉田 外次郎

富山電機、富山無盡各取締役、陶器商、富山縣在籍

吉田 太一郎

龜末廣、菓子商、愛知縣在籍

吉田 種藏

會社員、大阪府在籍

吉田 丹左衛門

東京府在籍

吉田 丹次兵衛

千葉合同銀行取締役、東京府在籍

吉田 忠吉

教員、大阪府在籍

吉田

君は大阪府人先代善三郎の長男にして明治三年五月を以て生れ先代善三郎の養子となり同十二年家督を相續す...

吉田 太四郎

吉田商店、陸商會各取締役、羅紗商、大阪府在籍

吉田 太助

愛知縣多額納稅者、愛知縣在籍

吉田 忠

東京府在籍

吉田 忠吉

教員、大阪府在籍

吉田 忠吉

教員、大阪府在籍

吉田 忠吉

教員、大阪府在籍

吉田

代表取締役の外前記會社の重役にして推されて教賀商工會議所議員たり家族は尙四女和子(大十四、二生)五男達三(昭三、六生)あり長女きく(明四〇、一一生)は福井縣人島嶽に嫁れん(同三三、三三)は滋賀縣人田井中一に嫁し養子つね(大一二、五生、福井、大和田莊七孫)は福井縣人川端常七の養子となり(大一一、六二五)福井、教賀、教賀町電一(一一)参照。大和田莊七、大和田勇、大和田金之助、大和田正吉、山崎、山崎の項

吉田 忠郎

日本銀行調査役 大阪府在籍 母 安政二、一一生、森喜平長女 妻 アイ 明二七、一一生、東京、藤本徳之進

君は大阪府人吉田喜治郎の三男にして明治十九年七月を以て生る東京高等商業學校専攻部を卒業し日本銀行に入り同行計算局調査役を経て現時同行調査局調査役たり家族は尙長女和子(大六、一一生)二女敦子(同一一、六生)三女萬里子(同一一、九生)の外兄豊太郎(明四、一〇生、現戸主)及其子女あり(大一一、一七)(東京市外池上町久ヶ原四九八)

吉田 長七

大阪府在籍 母 明九、四生、長男吉之助、大 妻 明一五、四生、長男吉之助、大 孫 秀太郎 明二八、一一生 孫 忠太郎 明三六、一一生、長男吉之助二男

君は大阪府人先代長七の長男にして嘉永六年四月を以て生れ慶應二年家督を相続し親名才麻苧商を營む二男進次郎(明二二、三三)同妻セイ(同二四、六生、兵庫山根金六郎長女)は其二男一女を伴ひ分家し三女ウタ(同二五、一一生)は大阪府人早川清吉に四女ヨネ(同二七、二生)は兵庫縣人山根金六郎長男正也に孫茂子(同三三、五生、長男吉之助長女)は大阪府人池島勘治郎に嫁せり(大阪、西、本田町二番丁二電西三三三三)

吉田 長祥

絹織物ワイシャツ製造業 大阪府在籍

妻 賀代 明二六、一一生、兵庫、士、大庭延姪 男 辰二 大五、七生 女 三枝 大四、三三 君は吉田長七の甥にして明治二十二年十一月を以て生れ大正七年家督を相続し親名を改む明治四十五年東京高等商業學校専攻部を卒業し絹織物ワイシャツ製造業を營み兼ねて硫黄及藥品家畜飼料商たり家族は尙二女長江(大六、九生)二男長實(同七、一一生)三女眞(同一一、〇生)三男實(同一一、八生)四女ナナ(同一一、三三)五女豊(同一一、五、六生)あり(大阪、西、北堀江三番丁二〇電新町三八七) 参照。安宅彌吉、筑紫六郎の項

吉田 長藏

吉長商店、酒問屋 大阪府在籍 妻 和三郎 明三五、二生、養子阿栗夫、大阪 養子 阿栗 明三八、一一生、養子和三郎妻、 養子 裕乃 大八、八生、大阪、小郷爲藏五女

君は大阪府人先代長藏の長男にして文久三年九月を以て生れ明治四年家督を相続し吉長商店と稱し酒問屋業を營む家族は尙孫英子(昭三、七生、養子和三郎長女)あり妹ヨマ(慶應二、一〇生)は大阪府人小池安太郎に嫁せり(大阪、東、豊後町一三電東二九八) 参照。小郷爲藏の項

吉田 勉

臺灣銀行理事 愛媛縣在籍 妻 ステ 明二五、七生、東京、角忠七三女 男 惠一 大四、一一生 女 惠子 大二、三三

君は愛媛縣人吉田實の長男にして明治十六年五月を以て生れ同十八年家督を相続す同四十三年東京帝國大學法政科を卒業し臺灣銀行に入り大阪支店支配人を經て現に同行理事たり家族は尙二女欣子(大七、七生)二男春雄(同一一、〇生)三男三男(昭二、二生)あり(臺北、佐久間町三ノ二五)

吉田 常吉

會津木材代表取締役、會津酒造 妻 アイ 萬延元、五生、福島、佐藤運吉二女

妻 タラ 明二三、五生、福島、山内松吉三 女 慎一 明四五、四生 女 ミエ 明四二、一〇生 女 ノブ 大五、八生 女 千代子 大五、八生 君は福島縣人吉田勘吉の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正七年家督を相続し現時前記會社の重役たり家族は尙四女富子(大七、一一生)五女トシ子(同三、一〇生)三男幸治(同一一、一一生)姉ミツ(明一五、一一生)あり弟常松(同一九、六生)は同妻ヨシ(同二六、一一生)同妻セイ(同二七、五生、福島山田留四郎長女)は其二子を伴ひ各分家し妹ヨシ(同二九、九生)は福島縣人小池義男に同トヨ(同三二、六生)は同縣人長谷川喜一郎に同ミネ(同三四、八生)は同縣人手代木豊八に嫁せり(福島縣若松市桂林寺町四)

吉田 常三郎

美濃合同銀行頭取、濃尾バス 妻 亮 明一七、九生、岐阜、堀口三郎 女 竹之 明四五、五生

君は岐阜縣土族先代常三郎の二男にして明治十年四月を以て生れ大正七年家督を相続し親名淺太郎を改め親名才庭園用陶器製造を營み現時美濃合同銀行頭取たる外前記會社の重役にして關町會議員たり義に吉田倉庫銀行頭取に就任し又關町商會會長に推され家族は尙三男修三(大一一、一一生)五女五百子(同一一、一〇生)あり三女元子(明四二、七生)は同縣人武藤五三長男五郎に嫁せり(大六四六、一四三)(岐阜、武儀、關町電一一)

吉田 常次郎

從五位勳六等、判事、東京控訴院 妻 こと 昭三、六生

君は富山縣人吉田文五郎の六男にして明治二十四年一月を以て生れ大正十三年男本文方より分れて一家を創

立す同五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同七年判事に任じ爾來豫備判事東京地方裁判所各裁判所判事に任じ同十三年東京地方裁判所部長となり同年東京控訴院判事に補せられ今日に至る家族は尙長女小夜子(大一一、八生)あり(東京市外千駄ヶ谷町九八四)

吉田 貞吉

土佐吉野川水力電氣經營取締役 妻 ノブ 弘化三、五生、宮崎、士、大坪勝 母 彌四女 明二四、二生、兵庫、士、志立金

君は宮崎縣土族吉田貞四郎の二男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時土佐吉野川水力電氣經營取締役たり家族は尙二女和子(大九、三三)三女民子(同一一、〇生)あり(愛媛、新居新居町)

吉田 貞助

正五位勳四等、判事、青森區裁判 妻 彌市 嘉永三、一一生、現戸主

君は群馬縣人吉田彌市の長男にして明治十二年九月を以て生れる同三十三年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十八年判事に任じ爾來久留米區松本區木更津區千葉地方小樽區管内區新發田區盛岡區裁判所判事に任じ大正十三年大館區裁判所監督判事兼秋田地方裁判所大館支部長を経て昭和三年現職に轉ず家族は尙孫あや(大一一、八生、長男義明長女)同孫(同二五、一一生、同長男)あり長女かね(明三〇、一一生)は東京府人陸軍工兵少佐川村赴に嫁せり(青森市長島町裁判所官舎)

吉田 傳

防火電線製作所、東京電興、東京 妻 ちよ 明三六、九生、青山女學院出身 女 富美子 明四〇、七生、盛岡高女出身

君は群馬縣人吉田彌市の長男にして明治十二年九月を以て生れる同三十三年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十八年判事に任じ爾來久留米區松本區木更津區千葉地方小樽區管内區新發田區盛岡區裁判所判事に任じ大正十三年大館區裁判所監督判事兼秋田地方裁判所大館支部長を経て昭和三年現職に轉ず家族は尙孫あや(大一一、八生、長男義明長女)同孫(同二五、一一生、同長男)あり長女かね(明三〇、一一生)は東京府人陸軍工兵少佐川村赴に嫁せり(青森市長島町裁判所官舎)

君は愛知縣人吉田米津の二男にして萬延元年七月を以て生れ明治七年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は孫道子(大九、三三)重、加藤宗太郎二あり養子ハルエ(明四〇、三三)重、加藤宗太郎二あり(分家せり)A一三八〇(名古屋、西、茶屋町八一電日本局一四五五)

吉田 土佐次郎

正五位勳五等、米澤高等工業學校 妻 タカ 明二〇、五生、佐賀、中村謙清長 女 明七、四生、佐賀、士、戸田元太

君は佐賀縣人吉田彌右衛門の三男にして明治十三年七月を以て生れ先代銀の養子となり大正十四年家督を相続す明治四十四年京都帝國大學理工科大學應用化學科を卒業し同四十四年陸軍技術師に任じ東京砲兵工廠附兼陸軍火藥研究所員を経て大正三年現職に轉ず同四年應用化學研究所の爲米國に留學を命ぜらる家族は尙長女サダ(大八、七生)あり(米澤、片五十騎町)

吉田 藤助

資産家 妻 マサ 明一四、五生、祖父藤三長女 女 明一六、一一生、福岡、佐藤半次

君は福岡縣多額納稅者吉田藤三の孫にして明治三十五年十月を以て生れ昭和四年家督を相続す資産家たり家族は尙長女壽子(大一一、二生)二男正(昭三、一〇生)あり(福岡市新柳町電二〇八)

吉田 得藏

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島商工 妻 アグリ 明一二、一一生、鹿兒島、田中平次 女 昭三三

君は鹿兒島縣人吉田金之助の長男にして明治九年六月を以て生れ同二十三年家督を相続す風に實業界に入り現に鹿兒島郵船會社取締役の外前記會社の重役にして

縣下の多額納稅者に列し推されて鹿兒島商工會議所副會頭たり義に日東汽船會社取締役鹿兒島土地興業鹿兒島灣内汽船大阪美術會社取締役(後引)五生)の家族は尙二女房子(大九、三三)姉カマテ(明九、五生)亡弟一郎妻(同二二、一一生)鹿兒島、田中陽一妹)及其子女あり妹トク(同二二、一〇生)は鹿兒島縣土族日高豊助に同タネ(同二二、七生)は同縣人矢野彦兵衛弟進造に嫁し甥正三(大一一、九生)亡弟一郎(二男)は同縣人吉田タケの死跡を相続せり(鹿兒島市景町) 参照。佐藤藤平右衛門の項

吉田 徳三郎

日本聖公會出版社神戸支店主任、 妻 のぶ 明一七、三三 女 直浩 大六、三三 女 かず 明四三、一〇生

君は奈良縣人吉田宗治郎の三男にして明治十三年九月を以て生れ大正六年兄榮治郎方より分れて一家を創立す現に銀行に奉職し後神戸私立乾行義塾國語漢文教師となり明治三十七年基督教書局出版に志し現に日本聖公會出版社神戸支店主任財団法人神戸海員会理事神戸昇天教會委員たり義にイングリッシュ・ミュージック・スクール教授たりしことあり(大八七五)(神戸、平野湊山町三七三ノ一)

吉田 徳次郎

正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務 妻 花 安政元、七生、現戸主 女 清 大一一、九生

君は東京府土族吉田淳の二男にして明治二十一年十月を以て生れる同四十五年東京帝國大學工學部工學科を卒業し大正三年九州帝國大學工學部助教授に任じ同五年陸軍工兵少尉に任ぜられ同八年米佛獨英各國に留學し同十一年工學博士の學位を授けられ同十三年現職九州帝國大學教授に任じ工學部勤務たり家族は尙長女信(大七、八生)二男明(同一一、二生)三男進(昭三、七生)兄安(明一一、八生)及其子女あり弟文雄(同二七、七生)同妻孝(同三〇、九生)東京、高松録太郎(五女)は其三子を伴ひ岳父録太郎の養子となり(福

吉田 秀人
 日清印刷製紙取締役、日清生命保險
 取締役、東京府在籍
 妻 千枝 明八、一〇生、吉田又八郎長女
 男 正男 明九、一〇生、養母ます長女

吉田 秀彌
 武田鐵道、東武高速度鐵道各線取
 締役、東京府在籍
 妻 正 明一八、一六生、東京、吉田富藏二
 女 明三、一〇生、長女、夫、福
 養子 春登 明三七、一〇生、東北帝大法
 文科出身
 女 てるよ 明四二、九生、養子春登妻、跡見
 女學校出身

吉田 文太郎
 水田銀行理事、東京府在籍
 妻 ヒデ 明一〇、一〇生、福岡、士、平田精
 男 仲二 明三三、一〇生、福岡、士、平田精
 女 多麻伎 明四二、一〇生、福岡、士、平田精

吉田 文彦
 愛知縣在籍
 妻 たえ 明三七、一〇生、愛知、佐久間徳太
 郎四女

吉田 平吾
 正四位勳三等、共同信託業務取
 締役、小谷商會監査役
 東京府在籍
 妻 さだ 明一九、一〇生、兵庫、田郷吉二女
 男 哲郎 明四〇、一〇生
 女 禮子 明四四、一〇生

吉田 正通
 從五位勳六等、第七高等學校造士
 館教授、福岡縣在籍
 妻 ヒサ 明二二、一〇生、福岡、士、庄野金
 一郎三女
 男 一 明二九、一〇生、福岡、士、庄野金
 一郎三女
 女 ミチ 明三〇、一〇生、福岡、士、庄野金
 一郎三女

吉田 兵之介
 兵庫縣在籍
 妻 ふじゑ 明二〇、一〇生、兵庫、高原重太郎
 女 生子 明三八、一〇生
 女 恒子 明四四、一〇生

吉田 弘
 島崎織物代表取締役、福井縣方
 面委員、吉田織物工場主
 妻 富子 明三一、一〇生、福井、故陸軍二
 等勳正妻藤金平長女、金澤第一
 女 秀夫 明九、一〇生、高女出身

吉田 弘
 横濱經濟日報社長代理兼主幹
 妻 喜美 明三一、一〇生、神奈川、池田新吉
 長女
 男 耕三 明一三、一〇生、横濱高女出身
 女 八重子 明二九、一〇生、横濱高女出身

吉田 平治郎
 正五位勳四等、朝鮮總督府判事
 妻 正之 明三二、一〇生、法學士、判事
 女 朝 明四一、一〇生、長男正之妻、廣島
 淺野丹右衛門三女

吉田 平太郎
 正四位勳二等功三級、陸軍中將
 妻 隆子 明四三、一〇生、東京
 女 隆子 明四三、一〇生

吉田 政三
 大阪合同運送、川口合同運送、淡
 野運送、京都合同運送、安治川合
 同運送各線取締役、愛知縣土族
 妻 ちよ 明一六、一〇生、愛知、井上良吉四
 女
 養子 武治 明三〇、一〇生、庶子衣子夫、東
 京、吉田かね私生子
 庶子 衣子 明四一、一〇生、養子武治妻、生母
 愛知、花木

吉田 寛行
 吉田羅紗店取締役、毛織物商
 妻 やゑ 明二一、一〇生、愛知、橋田有秋
 長女
 男 英夫 明四三、一〇生

吉田 文一郎
 從五位、農林技師、山林局勤務
 妻 文助 明三三、一〇生、現戶主
 母 サダ 明六一、一〇生、岩手、中村常八長女
 明三〇、一〇生、岩手、伊藤治郎
 助孫
 男 碩夫 明四九、一〇生

吉田 政治
 三菱銀行總務課上海支店長
 妻 秋子 明三三、一〇生、東京、淺村三郎
 門二女

吉田 政三
 君は京都府人吉田健作の二男にして明治十九年十二月
 を以て生れ大正九年元正之方より分れて一家を創立す
 明治四十四年東京帝國大學文部科大學英文科を卒業し大
 阪府立岸和田中學校教諭となり廣島高等工業學校教授
 を經て現時第七高等學校造士館教授たり昭和三年米國
 及英國に留學し同五年歸朝す(鹿兒島市下龍尾四二)

吉田 政三
 君は兵庫縣人吉田喜八の五男にして明治二十三年三月
 を以て生れ大正四年東京高等商業學校を卒業し直に三
 菱銀行に入り大阪上海各支店等を至て紐育支店長とな
 り昭和四年七月三菱銀行上海支店長に轉じ今日に至る
 家族は尙長女公子(六一、一〇、六生)兄善太郎(明一〇、三
 一、一〇生、兵庫、青野常吉長女)及其子あり兄久義は
 上野家を嗣ぎ陸軍歩兵中佐にして第二聯隊附なり(上
 海、佛租界德路五五五)
 參照、淺村三郎の項

吉田 政三
 君は愛知縣土族吉田甚之丞の長男にして明治九年五月
 を以て生れ同四十二年家督を相続す現時前記各會社の
 重役にして朝日議事會社常務取締役たり家族は尙
 庶子花子(大六、一〇生、生母、愛媛、竹井シズコ)孫
 榮子(昭四、一〇生、養子武治長女)あり叔父曾三(慶
 應元、二生)同妻しやう(明二二、一〇生、柴山松次郎二
 女)は共に其子女を伴ひ分家せり(兵庫、川邊、伊丹
 町)

新七郎(明一七、一七、農學博士)同妻は(同二七、二七、日本女師範家政科出身、貴族院議員上郎清助長女)及其長男陽太郎(同三三、四三、日本女師範家政科出身)は東京府土佐大藏省銀行検査官河西金城に妹を(同七、一七)は滋賀縣人猪田岩藏に同妻(同二二、一〇)生、日本女大英文科出身)は貴族院議員子爵梅岡篤彦に嫁し同妻(同九、一七)は其子東京農大學教授精一(同妻一枝(京都府立第一女專門部出身)と共に分家し弟三郎(同二五、九七、マスタ・オブ・アーツ)も亦分家せり(滋賀、犬上、高宮町電二三)

參照 子爵梅岡篤彦、猪田岩藏、上郎清助の項

吉田 由道

京都府在籍

妻 カズ 明一七、二七、清成期吉二女
 男 謙一郎 明四五、一七
 女 維都子 明四二、一七
 女 歌子 大二、九七
 女 多紀子 大四、六七

君は大分縣人吉田純一郎の二男にして明治十三年四月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す醫師を以て家業は尙五女滿壽子(大一一、一七)四男達也(同一一、二七)五男敏行(同二一、三三)六男正路(同二一、五七)七男あり長女登美(明一九、一〇)生は大分縣人清成要平に嫁せりA三〇二(京都、中京、西ノ京勸學院町二五電西陣二四〇四)

吉田 良兼

子爵 舊公卿家

當家は從五位下卜部宮守の裔にして代々神祇官たり後十四世吉田兼熙に至り侍從に任じ昇殿を許さる相傳へて先代良義に至り侍從職日枝神社宮司等に歴任し明治十七年子爵を授けらる先代良正は其二男にして東京帝國大學法科大學を卒業す君は其長男にして明治十四年十月を以て生れ大正二年家業を相繼し襲爵仰付けらる家族は尙弟良久(大二、三三)伯母鈴子(文久三、二七)あり叔父良貞(明二一、七七)は伯爵清閑寺經房の養子となれり(東京、牛込、市谷仲ノ町四一電午込一)

九〇四

參照 伯爵清閑寺經房、子爵伊東祐弘の項

吉田 良春

若松縣津和野郡津和野町在籍

妻 香小枝 明八、七七、高知、士、植木成彦長女
 男 良彦 明三三、八七
 女 美代 明四〇、三三、長男良彦妻、福岡
 男 良明 明三九、三三
 男 良貴 明四四、七七
 女 松子 大元、一〇

吉田 芳太郎

吉田商店社長、商會取組役員

君は大分縣人吉田與八の三男にして明治十年十月を以て生れ同三十六年兄太郎方より分れて一家を創立す同年内外毛織物直輸出商を開設し後合名会社となし更に大正九年株式組織に改め社長に就任今日に至る傍ら前記各會社の重役たり茲に京濱紗商同業會々長同相談役等に擧げられ斯界に盡す所尠からずA六三〇〇(東京市外入新井町新井宿二四五六電大森六五五)

吉田 義治

大阪府在籍

妻 ハル 明二、一七、大阪、阪本治良兵衛二女
 妻 マツコ 明三九、四七、大阪、吉田國松二女、大前高女出身
 男 太郎 大一一、八七
 女 太 大一一、八七

吉田 義忠

牛肉商

妻 ノブ 明二一、一七、東京、吉田金次郎二女
 女 金 明四三、四七
 女 静江 大五、五七

吉田 義輝

富國徴兵保險(互)常務取締役、昭

君は山梨縣人吉田義久の二男にして明治七年二月を以て生れ大正十年兄太郎方より分れて一家を創立す現時富國徴兵保險會社常務取締役に任じ前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙孫朝子(昭四、九七、養子貞長女)ありA一八二三(東京、芝、高輪町四四五電高輪一〇六三)

吉田 義治

家主

妻 ハル 明二、一七、大阪、阪本治良兵衛二女
 妻 マツコ 明三九、四七、大阪、吉田國松二女、大前高女出身
 男 太郎 大一一、八七
 女 太 大一一、八七

吉田 良三

正五位、東京商科大学教授兼同大

君は高知縣土佐賀茂久の二男同龍雄の兄にして明治十一年一月を以て生れ吉田數馬の養子となり同三十八年分れて一家を創立す同三十四年東京高等商業學校を卒業し同三十四年東京高等商業學校を卒業し同三十六年同校専攻部を卒業し早稲田大學教授となり大正二年歐米に留學し同七年東京高等商業學校教授に任じ同九年東京商科大学附屬商學專門部教授兼同大正十四年東京商科大学教授として海外に留學大正十四年東京商科大学教授に任じ同大學豫科教授を兼ね今日に至る長女登美(明三八、七七)は東京府人沖電氣會社員小沼泰三(同四一、三三)は福井縣人三井物産會社員伴周吾に嫁せり(東京市外世田ヶ谷町下北澤一〇〇電世田ヶ谷七七)

吉田 良三

正五位、東京商科大学教授兼同大

君は高知縣土佐賀茂久の二男同龍雄の兄にして明治十一年一月を以て生れ吉田數馬の養子となり同三十八年分れて一家を創立す同三十四年東京高等商業學校を卒業し同三十四年東京高等商業學校を卒業し同三十六年同校専攻部を卒業し早稲田大學教授となり大正二年歐米に留學し同七年東京高等商業學校教授に任じ同九年東京商科大学附屬商學專門部教授兼同大正十四年東京商科大学教授として海外に留學大正十四年東京商科大学教授に任じ同大學豫科教授を兼ね今日に至る長女登美(明三八、七七)は東京府人沖電氣會社員小沼泰三(同四一、三三)は福井縣人三井物産會社員伴周吾に嫁せり(東京市外世田ヶ谷町下北澤一〇〇電世田ヶ谷七七)

吉田 良三

川崎第百銀行常務取締役

妻 つき 萬延元、一七、山形、高橋甚内長女
 妻 ちよ 明一五、八七、養父吉田佐藤治長女
 男 光 明四〇、三三
 君は山形縣人佐藤孫夫の三男にして明治十二年十月を

吉田 六平衛

近畿パラスト、天橋立洞窟鐵道各

君は京都府人吉田六兵衛の長男にして安政三年十月を以て生れ明治二十二年家業を相繼し前名牛兵衛を改む樹屋と稱し地主にして前記各會社の重役たり家族は尙孫秀三(大六、三三、三男秀三郎二男)同光(同二一、一〇)同二女(同二一、一〇)同三男(同三三、一〇)同三女(同三三、一〇)ありA三五五八B二五六(京都、上京、今出川知恵光院西入ル西北小路町六電西陣九五七)

吉高 一彌

正七位勳五等、農務陸軍歩兵大尉

君は宮崎縣人吉高喜久治の長男にして明治九年七月を以て生れ農務を營み夙に宮崎縣信用組合聯合會理事に擧げられ現時推されて同縣會議員たり茲に同縣參事會員たりし事あり家族は尙八女福子(大一一、二二)三男益男(同二一、二二)四男靖(昭三、三三)あり長女雪子(明三七、一〇)生は宮崎縣人黒田英雄に二女靜子

吉武 一郎

佐賀縣會議員、佐賀縣多額納稅者

君は佐賀縣土佐久保幸造の長男にして明治十五年二月を以て生れ同縣人吉武豪の養子となり大正四年姪忠子方より分れて一家を創立す酒造業を營み現時佐賀縣會議員に推され又縣下の多額納稅者にして直接國稅三千七百二十七圓を納む(佐賀、南川副村)

吉武 三六

從五位勳五等、判事、米子區裁判

君は大分縣人吉武定吉の三男にして明治十四年六月を以て生れ同十四年兄盛吉方より分れて一家を創立す同三十六年日本大學法律科を卒業し同四十四年判事登用試験に及第し同四十四年判事に任じ爾來豫備判事金澤區兼同地方名古屋區岡崎區岡田區兼同地方若岡區船木區山口地方兼同區福山區各裁判所に歴補し昭和四年米子區裁判所監督判事兼鳥取地方裁判所米子支部長に補せられ今日に至る家族は尙二男文彦(大六、六七)三男進(同九、八七)あり(米子、區裁判所内)

吉武 眞貫

從五位勳六等、山口高等學校教授

君は山口縣人吉武幸右衛門の五男にして明治十八年二

月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業し愛知醫學專門學校教授を経て大正八年山口高等學校教授に任ぜられ現に其職にあり昭和二年獨逸に留學を命ぜられ翌三年歸朝す家族は尙長女洋子(大八、七生)二女誠子(同一二、二生)あり(山口市)

米建築及裝飾觀察の爲歐洲に出張し昭和二年朝鮮に出張す家族は尙二男泰水(大五、一一生)三男淑郎(同九、一〇生)長女鶴子(同一三、二生)四男成美(昭二、一〇生)あり(東京市外港合町上落合伊勢町下四七〇二) 參照 池口慶三の項

三長男輝雄に嫁し弟良久(同二一、三三)同良彦(同二七、一〇生)は各分家し同又男(同二三、六生)は廣島縣人田邊省一の養子となれり(大坂、此花、上福島中二ノ一電燈局六二) 參照 池口慶三の項

吉武鶴次郎 大阪毎日新聞社取締役兼東京日日新聞營業局理事、東京府在籍
妻 文 明一四、三三、大坂、峰勝太郎長男
男 文 明三八、一一生
女 昭六郎 明四三、二生
女 露子 明四四、三三
女 藤枝 大三、四生
養子 鶴次郎 明三二、一〇生、大坂、峰勝太郎男
妻 文 明四〇、一〇生、養子鶴次郎妻、男爵永山武敏三女

吉武吉雄 東亞ベイント製造廠取締役、古河電氣工業株式會社理事、福岡縣在籍
妻 ノブ 明二四、一一生、福岡、小西哲二妹
女 禮子 大八、七生

吉積良一 米穀商、兵庫縣在籍
妻 明二、三、四生、兵庫、吉積市兵衛

吉谷專吉 共同印刷株式會社取締役兼總務部長、京城電氣株式會社取締役、東京府在籍
妻 慶應元、二生、宮城、桑原久我治長女
長女 明三二、七生、北海道、鎌田貞六女
男 泉 大一一、一〇生

吉谷專吉 共同印刷株式會社取締役兼總務部長、京城電氣株式會社取締役、東京府在籍
妻 慶應元、二生、宮城、桑原久我治長女
長女 明三二、七生、北海道、鎌田貞六女
男 泉 大一一、一〇生

吉利巖 正五位、海軍豫備機關大尉、神戸高等商船學校教授、鹿兒島縣士族
妻 明二五、三三、兵庫、水田七郎長女
男 一 雄 大三、八生

吉武東里 從五位勳五等、警備隊局技師、大分縣在籍
妻 郁 慶應元、一一生、現戸主
母 カ タ 慶應二、二生、大分、秋吉順太郎妹
妻 ト ヨ 明二一、一一生、大分、秋吉順太郎三女
男 素 水 大二、九生

吉津度 從七位勳四等、陸軍三等軍醫、大阪府在籍
妻 信 慶應三、三〇生
長女 明三九、一〇生

吉利純 從五位勳六等、第七高等學校造士館教授兼生徒主事、鹿兒島縣士族
妻 太 明二二、七生、東京、土、谷田部太郎妹
男 一 郎 大四、六生

吉武東里 從五位勳五等、警備隊局技師、大分縣在籍
妻 郁 慶應元、一一生、現戸主
母 カ タ 慶應二、二生、大分、秋吉順太郎妹
妻 ト ヨ 明二一、一一生、大分、秋吉順太郎三女
男 素 水 大二、九生

吉津度 從七位勳四等、陸軍三等軍醫、大阪府在籍
妻 信 慶應三、三〇生
長女 明三九、一〇生

吉利純 從五位勳六等、第七高等學校造士館教授兼生徒主事、鹿兒島縣士族
妻 太 明二二、七生、東京、土、谷田部太郎妹
男 一 郎 大四、六生

吉武東里 從五位勳五等、警備隊局技師、大分縣在籍
妻 郁 慶應元、一一生、現戸主
母 カ タ 慶應二、二生、大分、秋吉順太郎妹
妻 ト ヨ 明二一、一一生、大分、秋吉順太郎三女
男 素 水 大二、九生

吉津度 從七位勳四等、陸軍三等軍醫、大阪府在籍
妻 信 慶應三、三〇生
長女 明三九、一〇生

吉利純 從五位勳六等、第七高等學校造士館教授兼生徒主事、鹿兒島縣士族
妻 太 明二二、七生、東京、土、谷田部太郎妹
男 一 郎 大四、六生

吉富庄祐 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第三十二旅團長、山口縣在籍
妻 カ メ 安政五、五生、山口、岡田一郎妹
妻 シ ヌ 明二一、一〇生、山口、士、小林撰太郎養子
男 恒 雄 大一一、九生

吉中永建 三次銀行專務取締役、藝備鐵道株式會社取締役、廣島縣在籍
妻 ソ メ 慶應元、七生、廣島、吉岡久兵衛長女
妹 明二四、二生、廣島、塚本久兵衛

吉永時次 正六位、宮崎縣書記官、警務部長、岡山縣在籍
妻 末 明四、七生、岡山、内田穂太郎長女
妻 光 野 明二六、八生、吉永仙吉長女
男 實 昭三、九生

吉富庄祐 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第三十二旅團長、山口縣在籍
妻 カ メ 安政五、五生、山口、岡田一郎妹
妻 シ ヌ 明二一、一〇生、山口、士、小林撰太郎養子
男 恒 雄 大一一、九生

吉中永建 三次銀行專務取締役、藝備鐵道株式會社取締役、廣島縣在籍
妻 ソ メ 慶應元、七生、廣島、吉岡久兵衛長女
妹 明二四、二生、廣島、塚本久兵衛

吉永時次 正六位、宮崎縣書記官、警務部長、岡山縣在籍
妻 末 明四、七生、岡山、内田穂太郎長女
妻 光 野 明二六、八生、吉永仙吉長女
男 實 昭三、九生

吉富藤一 資産家、東京府在籍
妻 キ ヌ 明一一、一一生、山口、山内唯五郎妹
君は東京府人吉富一の長男にして明治四十五年七月を以て生れ昭和四年家督を相続す資産家なり家族は尙姉喜久子(明四二、一〇生)あり同ナミ子(同三四、一一生)は山口縣士族上田寧二長男源太郎(同三六、七生)は東京府人星野源太郎(同九、六生)は千葉縣人淺野長七(同二三、二生)は同縣人矢田部忠彦に嫁せり(東京市外入新井町新井宿三二一八電大森一五一)

吉永義一 福岡縣多額納稅者、地主、福岡縣在籍
妻 フ ミ 長女
君は福岡縣人吉永義三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す地主にして直接國稅千八百九十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙姉エキ(明二四、四生)妹キク(同三二、三三)同スミエ(同三五、二生)あり姉リョ(同二二、一一生)は分家せり(門司、清瀧町二電二八六)

吉永仁藏 警務部長、神奈川縣在籍
妻 ひ さ 明二六、五生、静岡、杉原孝作妹
男 般 三 大一一、三三
女 乙 子 大四、五生

吉富藤一 資産家、東京府在籍
妻 キ ヌ 明一一、一一生、山口、山内唯五郎妹
君は東京府人吉富一の長男にして明治四十五年七月を以て生れ昭和四年家督を相続す資産家なり家族は尙姉喜久子(明四二、一〇生)あり同ナミ子(同三四、一一生)は山口縣士族上田寧二長男源太郎(同三六、七生)は東京府人星野源太郎(同九、六生)は千葉縣人淺野長七(同二三、二生)は同縣人矢田部忠彦に嫁せり(東京市外入新井町新井宿三二一八電大森一五一)

吉永義一 福岡縣多額納稅者、地主、福岡縣在籍
妻 フ ミ 長女
君は福岡縣人吉永義三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す地主にして直接國稅千八百九十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙姉エキ(明二四、四生)妹キク(同三二、三三)同スミエ(同三五、二生)あり姉リョ(同二二、一一生)は分家せり(門司、清瀧町二電二八六)

吉永仁藏 警務部長、神奈川縣在籍
妻 ひ さ 明二六、五生、静岡、杉原孝作妹
男 般 三 大一一、三三
女 乙 子 大四、五生

吉富藤一 資産家、東京府在籍
妻 キ ヌ 明一一、一一生、山口、山内唯五郎妹
君は東京府人吉富一の長男にして明治四十五年七月を以て生れ昭和四年家督を相続す資産家なり家族は尙姉喜久子(明四二、一〇生)あり同ナミ子(同三四、一一生)は山口縣士族上田寧二長男源太郎(同三六、七生)は東京府人星野源太郎(同九、六生)は千葉縣人淺野長七(同二三、二生)は同縣人矢田部忠彦に嫁せり(東京市外入新井町新井宿三二一八電大森一五一)

吉永義一 福岡縣多額納稅者、地主、福岡縣在籍
妻 フ ミ 長女
君は福岡縣人吉永義三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す地主にして直接國稅千八百九十五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙姉エキ(明二四、四生)妹キク(同三二、三三)同スミエ(同三五、二生)あり姉リョ(同二二、一一生)は分家せり(門司、清瀧町二電二八六)

吉永仁藏 警務部長、神奈川縣在籍
妻 ひ さ 明二六、五生、静岡、杉原孝作妹
男 般 三 大一一、三三
女 乙 子 大四、五生

吉富寅太 山口土地採取取締役、防長新聞社社長、山口縣士族
參照 上田寧二の項

吉永爲之 大日本酒類釀造株式會社社長、熊本縣士族

吉永仁藏 警務部長、神奈川縣在籍
妻 ひ さ 明二六、五生、静岡、杉原孝作妹
男 般 三 大一一、三三
女 乙 子 大四、五生